

各担当の問合せ先（住所／Tel／Fax／E-mail）は  
最終ページに掲載しています。

# 会 告

Vol.40 No.6

会告目次 .....	1
IPSJカレンダー .....	2
平成10年度論文賞の表彰 .....	4
平成10年度Best Author賞の表彰 .....	7
平成10年度坂井記念特別賞の表彰 .....	9
研究発表会開催通知 .....	11
第6回コンピュータセキュリティ研究会 .....	11
第117回コンピュータビジョンとイメージメディア研究会 .....	11
第94回マルチメディア通信と分散処理研究会 .....	合同研究会 .....
第14回分散システム／インターネット運用技術研究会 .....	
第55回情報学基礎研究会 .....	合同研究会 .....
第19回デジタル・ドキュメント研究会 .....	
第24回数値モデル化と問題解決研究会 .....	12
第43回人文科学とコンピュータ研究会 .....	13
第71回情報システムと社会環境研究会 .....	13
第119回データベースシステム研究会 .....	13
第132回自然言語処理研究会 .....	15
第117回知能と複雑系研究会 .....	15
第26回音声言語情報処理研究会 .....	15
研究会論文募集 .....	16
「西暦2000年問題の現状と対策－技術と法律－講演会」参加者募集 .....	17
「オブジェクト指向'99シンポジウム」参加者募集 .....	18
「夏の情報教育シンポジウム」参加者募集 .....	19
「音声認識セミナー－基礎からディクテーションまで－」参加者募集 .....	20
平成11年電気・情報関連学会連合大会のご案内 .....	21
第32回情報科学若手の会開催のご案内 .....	21
「サマワークショップ・イン・小樽」論文・参加募集 .....	22
「コンピュータセキュリティシンポジウム'99（CSS'99）」論文／参加募集 .....	22
「2000年情報学シンポジウム」論文募集 .....	23
情報処理学会論文誌「情報セキュリティの理論とその応用」特集への論文投稿のご案内 .....	24
支部だより .....	24
会議案内（協賛・後援） .....	25
その他のお知らせ .....	25
会員の皆様へのお知らせ・お願い（会員担当） .....	26
第41回通常総会 .....	27
第441回理事会 .....	50
採録論文一覧 .....	51
掲載論文一覧 .....	51
新規入会者の紹介 .....	53
情報処理学会「行事」申込書 .....	54
海外からの送金方法について .....	55
人材募集 .....	56
平成11年度情報処理学会事務局組織 .....	62
寄贈図書一覧 .....	26
情報処理学会出版物のご案内 .....	61



社団法人 情報処理学会  
Information Processing Society of Japan

<http://www.ipsj.or.jp>

本誌共定価 1680円（本体1600円）

## IP SJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第24回プログラミング研究会	情報処理学会	6月17日(木) ～18日(金)	当日のみ		40-5 会4p	研
第1回ゲーム情報学研究会	静岡大	6月24日(木) ～25日(金)	当日のみ		40-5 会4p	研
グラフィクスとCAD/Visual Computing合同シンポジウム'99	阪大	6月24日(木) ～25日(金)		2月26日(金) 必着	40-5 会8p	研
東海支部 講演会	名工大	6月26日(土)			40-6 会24p	海
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO '99) シンポジウム	ホテルシーモア	6月30日(水) ～7月2日(金)	6月10日(木)	3月8日(月) 必着	40-5 会8p	研
第6回コンピュータセキュリティ研究会	情報処理学会	7月9日(金)	当日のみ		40-6 会11p	研
中国支部 第5回電磁界の健康影響に関するシンポジウム	広島県民文化センター	7月13日(火)	6月29日(火)		40-6 会24p	中
第117回コンピュータビジョンとイメージメディア研究会	東北大	7月15日(木)	当日のみ		40-6 会11p	研
西暦2000年問題の現状と対策 -技術と法律-講演会	早大	7月15日(木)	定員になり次第		40-6 会17p	編
第94回マルチメディア通信と分散処理研究会	東北大	7月15日(木) ～16日(金)	当日のみ		40-6 会11p	研
第14回分散システム/インターネット運用技術研究会	東北大	7月15日(木) ～16日(金)	当日のみ		40-6 会11p	研
DAシンポジウム'99	遠鉄ホテル エンパイア	7月15日(木) ～17日(土)	6月22日(火)	3月10日(水) 必着	40-5 会11p	研
第55回情報学基礎研究会	電通大	7月16日(金)	当日のみ		40-6 会12p	研
第19回デジタル・ドキュメント研究会	電通大	7月16日(金)	当日のみ		40-6 会12p	研
第24回数理モデル化と問題解決研究会	ホテル大佐渡	7月16日(金)	当日のみ		40-6 会12p	研
第43回人文科学とコンピュータ研究会	高知女子大	7月16日(金)	当日のみ		40-6 会13p	研
第71回情報システムと社会環境研究会	情報処理学会	7月21日(水)	当日のみ		40-6 会13p	研
第119回データベースシステム研究会	沖縄厚生年金 休暇センター	7月21日(水) ～23日(金)	当日のみ		40-6 会13p	研
オブジェクト指向'99シンポジウム	東工大	7月21日(水) ～23日(金)	7月9日(金)	2月12日(金)	40-6 会18p	研
第132回自然言語処理研究会	新潟大	7月22日(木) ～23日(金)	当日のみ		40-6 会15p	研
第117回知能と複雑系研究会	北大	7月22日(木) ～23日(金)	当日のみ		40-6 会15p	研
第26回音声言語情報処理研究会	金沢湯涌温泉	7月23日(金) ～24日(土)	当日のみ		40-6 会15p	研
Fifth Annual International Computing and Combinatorics Conference (COCOON '99)	東京周辺	7月26日(月) ～28日(水)		2月8日(月)	39-11 本1186p	研
夏の情報教育シンポジウム	長野県坂井村	7月28日(水) ～30日(金)	7月15日(木) 定員になり次第	4月30日(金) 必着	40-6 会19p	研
夏のプログラミング・シンポジウム「21世紀の夢」	リフレ富岡	8月18日(水) ～20日(金)	6月30日(水)	5月30日(日)	40-4 会22p	事
東北支部 平成11年度電気関係学会東北支部連合大会	八戸	8月19日(木) ～20日(金)		6月15日(火) 必着	40-5 会15p	東
音声認識セミナー-基礎からディクテーションまで-	会津大	8月23日(月) ～27日(金)	7月19日(月)		40-6 会20p	研

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
平成11年電気・情報関連学会 連合大会	機械振興会館	8月27日(金)			40-6 会21p	事
第32回情報科学若手の会	ポートピア 横浜	8月28日(土) ～30日(月)	7月31日(土) 必着		40-6 会21p	事
東海支部 平成11年度電気関係学会 東海支部連合大会	中部大	9月5日(日) ～6日(月)		6月25日(金)	40-5 会16p	海
サマーワークショップ・イン・小樽	小樽市民センター	9月9日(木) ～10日(金)		7月16日(金) 必着	40-6 会22p	研
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん1999)	国立民族学博物館	9月17日(金) ～18日(土)		5月7日(金) 必着	40-2 会22p	研
情報処理学会第59回全国大会	岩手県立大	9月28日(火) ～30日(木)		6月25日(金)	40-5 会6p	事
九州支部 電気関係学会九州支部 第52回連合大会	九工大	10月2日(土) ～3日(日)		7月30日(金) 必着	40-6 会25p	九
第5回ゲーム・プログラミング・ ワークショップ	箱根セミナー ハウス	10月15日(金) ～17日(日)		6月26日(土)	40-4 会27p	研
コンピュータセキュリティ シンポジウム'99(CSS'99)	ホテル日航 金沢	10月21日(木) ～22日(金)		8月16日(月)	40-6 会22p	研
アジア太平洋ソフトウェア工学 国際会議(APSEC'99)	高松	12月7日(火) ～10日(金)		6月15日(火)	40-4 会28p	研
2000年情報学シンポジウム	日本学会議 講堂	平成12年 1月13日(木) ～14日(金)		9月3日(金) 必着	40-6 会23p	研

論文誌投稿締切	発行予定月	論文/応募締切	掲載頁	
論文誌特集号「グラフィクスと画像コンテンツ生成の新展開」	平成12年3月	8月31日(火)	40-5 会14p	論
論文誌特集号「システムLSIの設計技術と設計自動化」	平成12年4月	9月17日(金)	40-5 会14p	論
論文誌特集号「情報セキュリティの理論とその応用」	平成12年8月	11月30日(火)	40-6 会24p	論

記1) カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています。  
記2) 研究会の発表申込締切は開催日の90日前です。年間予定表および研究会発表申込書は2, 4, 8月号付録(会告)に掲載されています。  
記3) 担当欄の記号は次のとおりです。研: 調査研究, 事: 事業, 国: 国際, 論: 論文誌, 編: 会誌, 総: 総務, 経: 経理, 会: 会員,  
規: 情報規格調査会, 北: 北海道支部, 東: 東北支部, 海: 東海支部, 陸: 北陸支部, 西: 関西支部, 中: 中国支部, 四: 四国支部, 九: 九州支部。  
各行事についての問合せ等は担当までお願いします。  
記4) 掲載頁欄の記号は次のとおりです。本: 本誌, 会: 会告(付録), 全大: 全国大会プログラム(付録)

## 平成10年度論文賞の表彰

平成10年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（堀越副会長他77名）において、「情報処理学会論文誌」第38巻10号～39巻9号に発表された359編につき慎重に審議が行われました。その結果下記5編が最終候補として推薦され、第440回理事会（平成11年3月）の承認を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、5月20日に開催された第41回通常総会において、著者に表彰状、賞牌、賞金が授与されました。

### ○「分散メモリ型並列計算機による円周率の515億桁計算」

【論文誌Vol.39, No.7, pp.2074～2083 (1998)】



高橋 大介君（正会員）

1970年生。1991年呉工業高等専門学校電気工学科卒業。1993年豊橋技術科学大学工学部情報工学課程卒業。1995年同大学院工学研究科修士課程修了。1997年東京大学大学院理学系研究科博士課程中退。同年同大学大型計算機センター助手。1999年同大学情報基盤センター助手。博士（理学）。平成

10年度情報処理学会山下記念研究賞受賞。



金田 康正君（正会員）

1973年東北大学物理第二学科卒業。1978年東京大学理学系研究科博士課程修了の後名古屋大学プラズマ研究所助手、東京大学大型計算機センター助教授、同教授を経て、1999年より東京大学情報基盤センター教授。その間英国ケンブリッジ大学計算機研究所客員研究員。理学博士。情報処理学会1983

年度論文賞、1994年度Best Author賞。

#### 【論文概要】

本論文では、分散メモリ型並列計算機により高精度の円周率を高速に計算する方法について述べている。高精度の円周率計算に有効なGauss-Legendreの公式およびBorweinの4次の収束の公式における、平方根や4乗根、逆数計算はNewton法を適用することで、多倍長数の加減乗算に帰着できる。多倍長乗算の主要部分である高速Fourier変換（FFT）の計算および多倍長数の加減乗算における正規化の部分を並列化した。その結果、1024プロセッサからなる分散メモリ型並列計算機HITACHI SR2201で515億桁余りの円周率の計算が検証時間を含めて66時間11分で終了した。

#### 【推薦理由】

標記論文は、これまでさまざまな工夫を凝らして正確な $\pi$ の値の計算に関して世界記録を樹立し続けてきた著者の研究の到達点であり、ソフトウェア、ハードウェア両面について現在の計算技術のThe state of the artを示すものの1つとしてたいへん高く評価できる。この分野でのこれまでの著者のグループの功績も考慮すると十分受賞に値すると考えられる。

### ○「細粒度リポジトリに基づいたCASEツール・プラットフォームSapid」

【論文誌Vol.39, No.6, pp.1990～1998 (1998)】



福安 直樹君（正会員）

1973年生。1996年名古屋大学工学部情報工学科卒業。1998年同大学大学院工学研究科情報工学専攻博士前期課程修了。現在、同博士後期課程に在学中。ソフトウェア開発環境に関する研究に興味を持つ。ソフトウェア科学会会員。



山本 晋一郎君（正会員）

1962年生。1987年名古屋大学工学部卒業後、同大学大学院に進学、1991年同大学助手、1996年講師。1998年愛知県立大学情報科学部助教授。プログラミング言語処理系、ソフトウェアの形式的開発手法、ソフトウェア開発環境に関する研究に従事。近年は、細粒度のソフトウェア・リポジトリに基づ

いたCASEツール・プラットフォームに関する研究を進めている。電子情報通信学会、ソフトウェア科学会各会員。



阿草 清滋君（正会員）

1947年10月9日生。1970年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。1972年京都大学大学院工学研究科電気工学第二専攻修士課程修了。同博士課程へ進学。1974年より同情報工学科助手。同講師、助教授を経て1989年より名古屋大学教授。現在、同情報メディア教育センター教授。工学博士。専門分

野はソフトウェア工学。ソフトウェア開発方法論、知的開発環境、ソフトウェアデータベース、仕様化技法、再利用技法、マンマシンインタフェース等に興味を持つ。電子情報通信学会、ソフトウェア科学会、IEEE、ACM各会員。



[論文概要]

CASEツールの開発には通常のリポジトリが扱わない細かい粒度の構成要素の管理を必要とする。我々はそのために、C言語のソースコードを12種類のクラスと29種類の関連としてモデル化した。また、このモデルに基づいたCASEツール・プラットフォーム Sapidを作成し、現在、複数の研究機関や開発現場でCASEツールの作成に用い評価をしている。Sapidの有効性を示すためにEmacs上で動作するソフトウェア操作エディタ、関数仕様書管理ツール、program slicingツール、依存解析ツールなどを作成した。これらの経験より、Sapidが提供するAPIを用いて各種の中流・下流CASEツールを見通し良く作成できることを確認した。

[推薦理由]

ソフトウェア工学研究のために現実のソフトウェアを解析することは重要である。特に最終成果物であるプログラムの解析は本来避けて通れないものであり、分析・設計レベルの議論に対してもその裏付けとして欠かせない。しかし、その構成要素の細かさゆえに、実用的なプログラムの完全な解析は煩雑をきわめる。本論文でその設計、実現および基本応用が述べられているSapidは、見通しの良い構成モデルに基づいてプログラムを例外なく正確に分解・蓄積し、その解析に適切なアプリケーションインタフェースを提供する。これにより、従来敬遠されてきたプログラム解析が容易になり、地に足のついたソフトウェア工学研究の推進に寄与する点で高く評価できる成果である。他機関においても利用されるような実用性の高さを達成したことも称賛に値する。

○ 「オンチップ制御並列プロセッサMUSCATの提案」

[論文誌Vol.39, No.6, pp.1622~1631 (1998)]



鳥居 淳君 (正会員)

1967年生。1992年慶應義塾大学大学院工学研究科計算機科学専攻修士課程修了。同年NEC入社。並列処理アーキテクチャ、マイクロプロセッサ、並列処理プログラミングの研究に従事。C&Cメディア研究所主任。



近藤 真己君 (正会員)

1962年生。1984年山形大学理学部物理学科卒業。同年日本電気技術情報システム開発入社。自動並列化コンパイラの研究に従事。現在(株)NEC情報システムズオープン技術システム事業部第一技術部主任。



本村 真人君

1962年生。1987年京都大学物理学修士、1996年京都大学工学博士。1987年にNEC入社後、マイクロエレクトロニクス研究所に所属し、プロセッサ、機能メモリ、再構成ロジックの研究に従事。1992年IEEE JSSC Best Paper Award授賞。電子情報通信学会、IEEE各会員。現在シリコンシステム研究所

主任研究員。



池野 晃久君

1968年生。1995年都立科学技術大学大学院工学研究科修士課程修了。同年(株)NEC情報システムズ入社。プロセッサ・シミュレーション技術、性能評価の研究に従事。



小長谷 明彦君 (正会員)

1955年生。1980年東京工業大学大学院情報科学専攻修了。同年NEC入社。1996年東京工業大学大学院知能システム科学専攻客員助教授。1997年より北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科教授。分子生物情報、進化的システム、コンピュータシステムの研究に従事。工学博士。



西 直樹君 (正会員)

1959年生。1984年広島大学大学院工学研究科システム工学専攻修了。同年NEC入社。スーパーコンピュータのスカラプロセッサ、大容量半導体2次記憶装置、パイプラインメモリ、CMOS高並列スーパーコンピュータの研究開発、SX-4の製品開発を経て、現在、マイクロプロセッサの研究開発に従事。

C&Cメディア研究所 研究マネージャ。

[論文概要]

1チップ上に複数のPE (Processing Element) を集積することを前提にした制御並列処理アーキテクチャMUSCAT (Multi-Stream Control Architecture) を提案する。MUSCATはスレッド管理のハードウェア化とスレッド間のレジスタ継承をサポートし、並列実行オーバーヘッドを大幅に低減している。また、制御/データスケジューリングという2種類のスレッド投機実行をサポートしている。シミュレーションによる評価の結果、4PEモデルで1.5倍~3.0倍の性能向上を確認した。さらに、同一ハードウェア規模のスーパースカラプロセッサの性能を上回ることが明らかになった。

[推薦理由]

高集積回路技術の飛躍的進歩のペースは現在でもなお衰えてはならず、シリコン・チップ上の面積をいかにすれば有効に活用できるかは今後なお重要な課題である。本論文は、オンチップマルチプロセッサという近未来の現実的な実装方式に対して、「制御並列処理」という処理方式を提案し、マルチスレッディングを導入したアプローチの1つの方向性を示した優れた論文である。並列実行モデルをfork1回モデルに限定することで、並列実行支援に必要なハードウェア量を軽減し、コンパイラ支援により効率的な並列処理の可能なアーキテクチャを提案している。アーキテクチャ・命令仕様・処理方式は具体的であり、シミュレーションを用いた評価も綿密である。スーパー scaler方式を凌ぐ可能性を示しており、超高集積LSI用アーキテクチャとしても近未来での有用性も高い。きわめてintensiveな優れた研究である。

○「クライアントにフォントを必要としない多言語HTML文書ブラウジングシステム」

[論文誌Vol.39, No.3, pp.802~809 (1998)]



前田 亮君 (学生会員)

1971年生。1995年図書館情報大学図書館情報学部卒業。1997年同大学大学院図書館情報学研究科修士課程修了。現在、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程在学中。1999年より日本学術振興会特別研究員。デジタル図書館、多言語文書処理などに興味を持つ。ACM会員。



Myriam Dartois君

1972年生。1993年パリ第10大学ドキュメンテーション・情報学部卒業。1999年図書館情報大学大学院修士課程修了。現在、Jitex社(東京)に勤務。図書館情報大学における「日本昔話の多言語デジタル文庫」プロジェクト(www.DL.ulis.ac.jp/oldtales)の主担当者。



太田 純君

1974年生。1997年図書館情報大学図書館情報学部卒業。現在、筑波大学大学院経営・政策科学研究科前期課程在学中。計算機ネットワーク、エレクトロニック・コース等に興味を持つ。



藤田 岳久君 (正会員)

1966年生。1989年図書館情報大学図書館情報学部卒業。1991年図書館情報大学大学院修士課程修了。同年図書館情報大学図書館情報学部助手。1996年共立女子大学文芸学部専任講師。情報検索論、マルチメディアシステムおよびその各分野への応用、デジタル図書館、計算機ネットワークなどに関心を持つ。ACM会員。



阪口 哲男君 (正会員)

1965年生。1986年明石工業高等専門学校電気工学科卒業。1988年図書館情報大学図書館情報学部図書館情報学科卒業。1990年同大学院図書館情報学研究科修士課程修了。1990年図書館情報大学図書館情報学部助手、1999年同助教授、現在に至る。博士(工学)。デジタル図書館、計算機ネットワークなどに興味を持つ。情報知識学会会員。



杉本 重雄君 (正会員)

1953年生。1977年京都大学工学部情報工学科卒。1982年同大学院博士後期課程修了。京都大学工学博士。京都大学工学部・助手を経て、1983年に図書館情報大学に移り、1999年図書館情報学部・教授。現在、デジタル図書館分野を中心に活動しており、多言語情報アクセス、ユーザインタフェース、メタデータなどに関心を持っている。ACM、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会等会員。



田畑 孝一君 (正会員)

1941年生。1963年京都大学工学部電気工学科卒業。京都大学工学博士。1973年京都大学助教授。1982年図書館情報大学教授、現在に至る。図書館情報大学で開催されている「デジタル図書館ワークショップ」(www.DL.ulis.ac.jp)の主催者代表。

[論文概要]

外国語のWWW文書のブラウズの際、受信側にそのフォントがないと文字化けが起こる。本方式ではHTML文書を発信側から受信側に取り寄せる最中にネットワーク中で第3者のフォントサーバが作動し、文書中に出現する文字の種類が調べられ、それらのフォントのみが文書に付加される。受信側ではそのフォントを利用し文書が表示されるので文字化けが起こらない。Javaで実現され通常のWWWブラウザで利用できる。利用には発信側あるいは受信側で、対象文書のURLとその言語、フォントサーバのURLを指定する。発信側から受信側に文字入力を要求する場合にも、そのフォントがない受信側で可能である。

[推薦理由]

外国語のWWW文書を見る際、受信側にそのフォントがないと文字化けが発生する。提案方式では、HTML文書を発信側から受信側に取り寄せる最中に、ネットワーク中で第3者のフォントサーバが作動し、文書中に出現する文字の種類が調べられ、それらのフォントのみを文書に付加することにより文字化けの問題を解決している。提案方式の特徴は世界中のどのインターネット端末からも通常のWWWブラウザで利用できることにあり、現在、約20カ国の言語がサポートされており、新たな言語の追加も可能である。この方式は、英語圏とそれ以外の言語圏の情報流通の格差解消や民族文化の伝承と民族間の相互理解に役立つものと期待され、海外でも高く評価されている。

## ○「内容と構造を対象としたKJ法B型文章評価方法の提案と適用」

[論文誌Vol.39, No.7, pp.2029~2042 (1998)]



八木下 和代君 (正会員)

1993年大阪大学基礎工学部情報工学科入学。1996年同学科退学後、同大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻博士前期課程入学、1998年同課程修了。同年、日本アイ・ビー・エム入社。現在東京基礎研究所勤務。在学中はグループウェア、発想支援に関する研究に従事。



宗森 純君 (正会員)

1979年名古屋工業大学電気工学科卒業。1981年同大学大学院工学研究科修了。1984年東北大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。同年三菱電機(株)入社。鹿児島大学工学部助教授、大阪大学基礎工学部助教授を経て1999年和歌山大学システム情報学センター教授。1997年度山下記念研究賞受賞。グループウェア、発想支援などの研究に従事。



首藤 勝君 (正会員)

1957年大阪大学工学部通信工学科卒業。同年より1989年まで三菱電機(株)で計算機方式および基本ソフトウェアの研究開発に従事。1989年大阪大学基礎工学部情報工学科教授。オブジェクト指向プログラミング等の研究とソフトウェア工学の教育に従事。1998年大阪工業大学情報科学部教授、

工学博士。1978~79年および1981~82年本会理事。

### [論文概要]

本論文では、発想法として著名なKJ法の結果の文章であるKJ法B型文章に着目し、一対比較に基づく文章内容の評価とベトリネットグラフに基づく文章構造のフロー関係の評価を併せて行う評価方法を提案している。そして本評価方法を種々の条件下で行ったKJ法B型文章などに適用して文章内容と構造の評価を行い、本評価方法の評価能力やKJ法B型文章の構造的特徴などに関する検討を行った。その結果、KJ法を用いた場合は用いなかった場合と比較して、結果の文章の内容が優れ、文章構造の異なることが数値的に表現された。

### [推薦理由]

本論文は、KJ法に基づく発想支援システムにおける発想結果の内容を評価する手法を提案している。従来、評価法として用いられてきた意見数、文章の文字数、所用時間などの尺度は発想内容の評価とはかかわりがないものであった。本論文ではKJ法の結論の1つであるKJ法B型文章に関して、その内容をAHP (Analytic Hierachy Process) と呼ばれる一対比較の手法を応用して総合満足度の尺度を提案し、その構造をベトリネットグラフを応用し展開度、集約度の尺度を提案している。さらに、実際の発想支援システムを用いてKJ法を試行し提案手法の有効性を実証している。本分野は必要性が叫ばれていたが、いままであまり手がつけられていなかった。これに果敢に挑み成果を上げたことは高く評価できる。

## 平成10年度Best Author賞の表彰

本学会では平成3年度から「Best Author賞」を設け、会誌「情報処理」に掲載された記事の中から、特に多数の会員の研修ならびに学術・技術の啓蒙、普及に貢献したものを選び、その著者を表彰することにしております。

本賞の選考は、表彰規程およびBest Author賞候補者選定手続に基づき、選定委員会(委員長 石田晴久)が、会誌「情報処理」第39巻第1号~第12号に掲載された対象記事219編につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の5編が受賞候補記事として選定され、第440回理事会(平成11年3月)の承認を得て決定されました。なお、本学会表彰規程により、第41回通常総会(平成11年5月)において著者に表彰状および賞金が授与されました。

### ○特別論説「情報処理最前線」(Vol.39, No.2)

#### 長野オリンピックのネットワークと情報提供システム



重近 範行君

1972年生。1996年慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程修了。同大政策・メディア研究科後期博士課程在学中。修士(政策・メディア)。現在インターネットを利用した次世代コミュニケーション環境に関する研究に従事。



中村 修君 (正会員)

1959年生。1990年慶應義塾大学理工学研究科後期博士課程数理工学専攻単位取得退学。東京大学大型計算機センター助手を経て、慶應義塾大学環境情報学部専任講師。博士(工学)。専門は、コンピュータネットワーク、分散処理、オペレーティングシステム。



笹川 信義君

1940年長野市生。1958年郵政省信越電波監理局入省。1984年中国電気通信監理局私設課長。1987年近畿電気通信監理局公共課長。1989年放送行政局有線放送課補佐。1991年四国電気通信監理局航空海上部長。1993年通信政策局情報処理室長。この間、無線局の監理監督、CATVの政策立案、無線局管理システム、無線LANシステムの構築に従事。

無線局管理システム、無線LANシステムの構築に従事。



村井 純君 (正会員)

現職、慶應義塾大学環境情報学部教授。1955年生。1984年慶應義塾大学工学部数理工学研究科博士課程修了。1987年博士号取得。1984年東京工業大学総合情報処理センター助手。1987年東京大学大型計算機センター助手。1990年慶應義塾大学環境情報学部助教授を経て1997年より現職。1984年JUNETを設立。

1988年WIDEプロジェクトを設立し、今日までその代表として指導にあたる。(社)日本ネットワークインフォメーションセンター理事長。インターネットソサエティ (ISOC) 理事。ICANN暫定理事。著書「インターネット」「インターネットII」(岩波新書)、監訳「インターネットシステムハンドブック」(インプレス)、「IPv6:次世代インターネットプロトコル」(プレントイスホール)他。

**[推薦理由]**

本解説は、世界最大のイベントであるオリンピックの情報提供システムとネットワークを分かりやすく解説したものである。ワールドワイドでの大規模分散ファイルシステムを用いたWEBサービスの事例と情報提供の仕組みや、膨大な同時アクセス件数の処理のために数々の新技術を活用したことを適切に解説している。また、本解説は、長野オリンピック大会の開催期間中に掲載したタイムリーな記事の掲載であり、新しくIPSJ Magazineとしてリニューアルした会誌にふさわしい解説となった。また、時期に合わせた掲載とするため、関係各方面の方々の多大な協力のもとに短期間にかつ適切な技術解説内容を執筆していただいている。これらの点が読者からの評価も非常に高く、Best Author賞の受賞に値する。

○解説 (Vol.39, No.6)

「近似アルゴリズムに関する最近の話題」巡回セールスマン問題の近似アルゴリズム：天才アローラによる20年ぶりの急進展



玉木 久夫君 (正会員)

1977年東京大学理学系研究科修士課程修了。茨城大学情報工学科助手、講師を勤めた後、1990年トロント大学計算機科学科博士課程入学。1993年Ph.D. IBMワトソン研究所ポストドクトラル研究員を経て、IBM東京基礎研究所勤務。1997年4月より明治大

学理工学部情報科学科教授。広くアルゴリズムと計算の理論に興味を持つ。

**[推薦理由]**

巡回セールスマン問題は最適解を求めるのが計算時間という面から困難であると予想されている問題の1つである。そのため数多くの近似アルゴリズムが提案されてきたが、近似解の精度を理論的に保証するアルゴリズムに関しては1970年代の研究以来本質的な進展がなかった。ところが、1990年代になり、アローラはユークリッド空間における巡回セールスマン問題に対して従来よりはるかによい近似精度を持つ近似アルゴリズムを発見し、アルゴリズム理論の研究者に大きな衝撃を与えた。本解説では、この最先

○解説 (Vol.39, No.7)

アニメとコンピュータ



中嶋 正之君 (正会員)

昭和44年東工大・工・電気卒業。昭和50年同大学院博士課程修了。同年同大学勤務。同大助教授を経て、現在、同大情報理工学研究科計算工学専攻教授。コンピュータグラフィックス、コンピュータアニメーション、画像処理の研究に従事。工博。著書「コン

ピュータグラフィックス」(昭晃堂、共著)等多数。平成9年映像情報メディア学会業績賞受賞。

**[推薦理由]**

本解説は、身近な映像であるアニメと、制作ツールとしてのコンピュータの関係について、その歴史と背景にある技術を分かりやすく解説したものである。特撮シーンではハリウッドの後塵を拝している日本の映像文化の中で、アニメの映像は海外でひととき高評価されており、海外の監督の中にも日本のアニメ監督のファンは数多い。アニメは、一昔前まではセルと絵筆のアナログの世界であったが、最近ではコンピュータグラフィックスの手法を積極的に取り入れている。本解説では、何気なく楽しんで見ているアニメの舞台裏でどのようなデジタル技術が使われているのか、また、それらの技術はいかにして進化してきたのかを、具体的かつ体系的に解説しており、技術者だけではなく一般読者にとっても多くの示唆に富んだ内容の記事となっており、本賞に値するものである。

○解説 (Vol.39, No.9)

### WWW上の検索サービスの技術動向



林 良彦君 (正会員)

1983年早稲田大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。同年日本電信電話公社へ入社。現在、NTTサイバースペース研究所主幹研究員。1994年スタンフォード大学言語・情報研究センタ滞在研究員。自然言語処理、知的情報アクセスの研究に従事。「日本語語彙大系」(岩波書店)編集委員。人工知能学会、電子情報通信学会各会員。博士(工学)。



小橋 喜嗣君 (正会員)

1979年慶應義塾大学大学院工学研究科前期課程修了。同年日本電信電話公社へ入社。現在、NTT情報流通基盤総合研究所担当部長。DIPS大型計算機システムの研究開発、知的情報通信システムの研究に従事。1997年、1998年情報処理学会モバイルコンピューティング研究会幹事。電子情報通信学会会員。

#### 【推薦理由】

WWW上での情報検索は、仕事や娯楽のために頻繁に利用されるようになってきており、一般の読者にとっても身近なサービスとなっている。しかしながら、必要な情報を的確に入手するためには、まだいくつかの課題を抱えており技術の進歩が望まれている。本解説はWWW上の検索サービスに関して、利用上の課題、およびその仕組みと技術動向に関して、システムの核となるサーチエンジンを中心に、検索結果の閲覧支援、さらには多言語対応に至るまで幅広い視点から体系的に記述されている。時宜を得た解説として、幅広い読者から高い支持を得た点で、Best Author賞の受賞に値する。

○解説 (Vol.39, No.12)

### コンピュータウイルスとワクチンとの戦い



遠藤 基君

1957年静岡生。工学院大学卒業後、静岡で中学校技術家庭科教員を9年間勤め、その後、(株)ジェード入社。ウイルス解析・ワクチンデータベースの作製・プログラム設計等を行う。1997年からは現在の日本コンピュータセキュリティリサーチに移り、コンピュータウイルス主席研究員としてアンチウイルス研究に携わる。



星澤 裕二君

プログラマ、システムエンジニアを経て、現在は日本を含め世界4拠点にあるシマンテックのコンピュータウイルス研究所SARC (Symantec AntiVirus Research Center) で、コンピュータウイルスを根絶するための研究開発や、安全なコンピュータ利用についての啓蒙活動などを行っている。

#### 【推薦理由】

本解説は、コンピュータを使う人にとって、今や切っても切り離せない問題であるコンピュータウイルスの問題を分かりやすく解説している。コンピュータウイルスのことを知らないでいると被害に遭うだけでなく、周りの人にコンピュータウイルスをばらまく加害者にもなりかねない。この問題に対して、コンピュータウイルスの発祥起源から最新のものまで、どのように変貌してきたかを示し、それぞれのコンピュータウイルスに対してどのように対策がとられてきたかを解説している。この過程は人間対人間の戦いのドラマであり、この過程を専門家でない人にも分かりやすく解説している本解説は、Best Author賞の受賞に値する。

## 平成10年度坂井記念特別賞の表彰

本学会では情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を表彰の対象として、平成4年度から元会長坂井利之先生(京大名誉教授)から、寄贈された資金により坂井記念特別賞を設けました。

本賞は、情報処理に関する基礎・理論、ハードウェア、ソフトウェア、アプリケーションなどの各分野の研究・開発に携わっている研究・開発者で、学術・技術の進歩に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される39歳までの研究・開発者を対象としています。

本年度の受賞者は「坂井記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者14名から、表彰規程および坂井記念特別賞候補者選定手続きに基づき、松下副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、下記の4君が第440回理事会(平成11年3月)の承認を得て決定されました。

なお、本会表彰規程により、5月20日に開催された第41回通常総会において、受賞者に表彰状および賞金が授与されました。

○ソフトウェア分野

「並列オブジェクト指向言語の効率的な実装法に関する研究開発」



松岡 聡君 (正会員)

昭和61年東京大学理学部情報科学科卒業。昭和63年同大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。平成元年10月同博士課程中退、同大学院情報科学専攻助手。平成5年10月同大学工学部計数工学科専任講師。平成7年4月同大学工学系研究科情報工

学専攻専任講師。平成8年10月東京工業大学大学院情報理工学研究科数理・計算科学専攻助教授。理学博士（東京大学大学院、平成5年）。

【業績推薦理由】

受賞者は、大規模並列計算機において、効率的な実装のための最適化をユーザが記述する際に簡潔なプログラミングモデルを与える並列オブジェクトにおける自己反映計算の実用的なモデルを提唱し、その高効率的な実装法を提案するなど、従来の実装法と比較して数十倍以上の速度向上とスケーラビリティを達成し得るためのさまざまな実装技術を開発・実証し、並列オブジェクトが並列処理における実用的な基盤言語技術であることを世界に先駆けて示し、国内外で高く評価されている。

○アプリケーション分野

「コンピュータビジョン技術とその動画像符号化応用に関する研究開発」



栄藤 稔君 (正会員)

昭和35年生。昭和60年広島大学大学院博士前期課程修了。同年松下電器産業（株）入社、同社中央研究所勤務。昭和62年～平成2年ATR出向、平成3～4年阪大受託研究員、この間コンピュータビジョンの研究に従事。現在、松下電器東京通信システム研

究所にてメディア処理とネットワークの研究に従事。奈良先端科学技術大学院大学客員助教授および大阪大学非常勤講師を兼務。平成5年電子情報通信学会論文賞、平成11年電気通信普及財団テレコムシステム技術賞受賞。工学博士（大阪大学）、電子情報通信学会、IEEE各会員。

【業績推薦理由】

画像理解に向け独自に開発した画像の領域単位の構造化に関する手法を応用し、優れた動画像符号化の実用化技術を提案している。色・動きなど多次元特徴の競合学習型クラスタリングによる動領域分離（電子情報通信学会論文賞）、ブロックマッチングとロバスト統計によるパラメトリック動き検出などは映像メディア構造化手法と捉えられ、これらから得られた知見に基づく動画像符号化は、国際標準化機構MPEG-4標準としてトップクラスの評価を受け、同標準の枠組みに採用されている。また画像メディア処理分野での積極的かつ誠実な学会活動も定評があり、今後も研究開発と社会的活動の両面での活躍が期待される。

○アプリケーション分野

「情報抽出・情報検索等の高精度日本語テキスト処理技術に関する研究開発」



木谷 強君 (正会員)

1960年生。1983年慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。同年日本電信電話公社入社、横須賀電気通信研究所勤務。主に形態素解析、情報抽出、キーワード抽出、テキスト分類、情報検索などの日本語処理の研究開発に従事。1991年から2年間、米国カーネギ

ーメロン大学Center for Machine Translation客員研究員。現在、（株）NTTデータオープンシステムセンタ課長。工学博士。

【業績推薦理由】

一貫して日本語テキスト処理の研究開発に従事し、形態素解析、情報抽出、情報検索などの分野で、日本語テキスト処理技術の発展と事業化に貢献してきた。特に、パターンマッチング方式に基づく情報抽出技術の研究方向付け、情報検索システムの精度評価用テストコレクションBMIRの開発、TREC-7コンテストにおけるフィルタリングアルゴリズムの提案など、常に時代に先駆けた研究を実施し、実用の場で技術の先進性と有効性を実証してきた。このような当該コミュニティへの貢献は高く評価できる。

○アプリケーション分野

「対話型協調作業における創造性支援技術とその音楽応用に関する研究」



西本 一志君 (正会員)

1987年京都大学工学部工学研究科機械工学専攻修士課程修了。同年松下電器産業（株）入社。OSIプロトコル処理ソフトウェアの研究開発に従事。1992年（株）ATR通信システム研究所知能処理研究室に出向。1995年より（株）ATR知能映像通信研究所

第2研究室客員研究員。現在に至る。エージェントによる人の創造的活動の支援の研究に従事。1997年度人工知能学会研究奨励賞受賞。人工知能学会、言語処理学会、International Computer Music Association各会員。工学博士。

【業績推薦理由】

グループにおける対話活動や芸術分野など人間の創造性を支援することを目的とした、発想支援手法とその評価法、対話内容の可視化を基本とするグループ思考プロセスのモデル化とマルチエージェントによる支援システムの実装、音楽演奏における理論的・技術的困難を克服する支援手法の提案、さらにマルチメディアアート創作システムの開発を行ってきた。これらはビジネスからマルチメディア分野までを含む、創造性支援システムの技術分野を開拓する研究として意義深い。

# 研究発表会開催通知

(平成11年7月9日～7月24日)

## ◆第6回 コンピュータセキュリティ研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 土居範久, 幹事: 岡本栄司, 佐々木良一, 林誠一郎)

日時 平成11年7月9日(金) 13:30～17:30

会場 情報処理学会 会議室(芝浦)

[東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F. JR(山手線, 京浜東北線): 田町(東口)下車, 徒歩7分. または地下鉄(浅草線, 三田線): 三田下車, 徒歩10分.]

Tel(03)5484-3535]

### 議題

- (1) パッチワークによる署名画像に対する秘密鍵の探索攻撃  
山田隆行, 松井甲子雄(防衛大)
- (2) 岡本一田中鍵共有方式のなりすましに関する安全性  
岡本 健, 多田 充, 岡本栄司(北陸先端大)
- (3) インターネット上の情報の与信システムについて  
山崎重一郎(ISIT/富士通研)
- (4) セキュアファイルシステムの構築  
宮崎 博, 鮫島吉喜, 遠田潤一(日立ソフト)
- (5) TCPコネクション確立に関する一考察  
寺田真敏, 甲斐 賢(日立), 熊谷仁志(日立ソフト)
- (6) IPsecの相互接続性に関する現状と課題  
渡辺義則, 大浦哲生(日立)
- (7) 国内および海外におけるコンピュータウイルス被害状況調査報告  
石井 茂(IPA)

## ◆第117回 コンピュータビジョンとイメージメディア研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 池内克史, 幹事: 佐藤洋一, 塩原守人, 中村裕一)

日時 平成11年7月15日(木) 10:50～18:00

会場 東北大学工学部 電気情報館 453会議室

[仙台市青葉区荒巻青葉05. JR仙台駅より市バス(西口バスプール9番乗り場より, 青葉城址循環行き, 青葉台行き, 宮教大行き): 工学部前下車(約20分), 徒歩2分. タクシー: JR仙台駅より15分(約1700円), 仙台空港より50分(約6000円). キャンパスへの案内図(バス時刻表あり):

<http://www.eng.tohoku.ac.jp/eng/citymap.html>

E-mail:machi@aso.ecei.tohoku.ac.jp(大町真一郎)

Tel(022)217-7087 Fax(022)263-9418]

### 議題

[10:50～12:00]

- (1) 未校正カメラによるビジュアル・インターフェイス  
加藤真弓, 佐藤 淳(名工大)
- (2) 未校正ステレオポインターによる視覚誘導  
清水康人, 佐藤 淳(名工大)

[13:30～14:30] ●特別講演

- (3) 知能集積システムとその応用  
亀山充隆(東北大)

[14:40～15:50]

- (4) 移動カメラキャリブレーションの幾何学的AICによる安定化  
松永 力(朋栄), 金谷健一(群馬大)
- (5) 幾何学的AICによるモザイク生成のための安定化  
金澤 靖(豊橋技科大), 金谷健一(群馬大)

[16:00～18:00]

- (6) 陰影と反射率分布図の整合性について  
岡谷貴之, 出口光一郎(東北大)
- (7) 輪郭線図形の局所的平滑化による近似に基づく形状要素の

生成 本谷秀堅(東大), 出口光一郎(東北大)  
見学(17:10～18:00): 東北大学画像処理関係研究室

[合同研究会]

## ◆第94回 マルチメディア通信と分散処理研究会(DPS)

## ◆第14回 分散システム/インターネット運用技術研究会(DSM)

(発表件数: 28件)

DPS(主査: 滝沢 誠, 幹事: 勝本道哲, 櫻井紀彦, 東野輝夫)

DSM(主査: 箱崎勝也, 幹事: 相原玲二, 藤崎智宏, 松浦敏雄)

日時 平成11年7月15日(木) 10:30～17:30

16日(金) 10:00～15:45

会場 東北大学電気通信研究所(片平キャンパス)

A会場: 2号館4F 大会議室

B会場: 2号館4F 中会議室

[仙台市青葉区片平2-1-1. JR仙台駅より, 徒歩20分, またはタクシー(5分), または仙台市営バス(駅前西口バスプール11番より緑が丘3丁目行き, 西の平行き, 八木山南団地行き): 東北大正門前下車(愛宕大橋経由は東北大正門前を通りません), 徒歩約7分, または宮城交通バス(駅前西口バスプール12番より動物公園経由長町ターミナル行き): 東北大正門前下車, 徒歩約7分, または地下鉄: 五橋駅下車, 北2番の出入口より徒歩約8分. アクセス情報:

<http://www.riec.tohoku.ac.jp/overview/access/index-j.html>

Tel(022)217-5453(白鳥研究)]

### 議題

7月15日(木)

[10:30～12:00] ●ユーザ志向アプリケーション(A会場)

- (1) ユーザーエージェントによる個人のスケジュール獲得支援  
大沼義孝, 北形 元, 木下哲男, 白鳥則郎(東北大)
- (2) ネットワークコミュニティにおける参加者の相互関係の獲得と利用  
矢野 昇, 杉山達彦, 木下哲男, 白鳥則郎(東北大)
- (3) 利用者特性を考慮したディレクトリサービスの提案  
仲澤誠志, 杉山達彦, 木下哲男, 白鳥則郎(東北大)

[13:00～14:30] ●広域分散システム(A会場)

- (4) 日蝕中継におけるWWW分散サーバ群の構築とその有効性  
安田 豊(神戸大), 中山雅哉(東大)
- (5) 電子流通実装基盤SPAgent  
梶浦正浩, 後藤哲也, 高橋俊成, 秋山浩一郎(東芝)
- (6) PC UNIXによる中小企業向けVPNの実現と評価  
平山和弘(福島県ハイテクプラザ)  
山口誠一郎(山本電気), 釜石 忍(エヌケーテック)  
高橋 昌(福島県ハイテクプラザ)

[13:00～14:30] ●分散システム管理(B会場)

- (7) A view divergence control method of replicated data and the evaluation of its scale dependency  
山下高生, 小野 諭(NTT)
- (8) Recovery Protocol for Pseudo-Active Replication  
桧垣博章, 田中勝也, 滝沢 誠(東京電機大)
- (9) Object-based consistent global state in Distributed Systems  
田中勝也, 桧垣博章, 滝沢 誠(東京電機大)

[14:45～16:15] ●ネットワークアプリケーション(A会場)

- (10) 拡張仮想現実空間の伝統工芸への応用  
高坂幸春, 橋本浩二(岩手県立大)  
勝本道哲(CRL), 柴田義孝(岩手県立大)
- (11) 仮想空間の空間分割型分散管理における管理領域の動的変更に関する一考察  
清水孝一, 山本 潮, 小野里好邦(群馬大)
- (12) 学術文献の引用関係に基づく特徴量の抽出手法  
野口進祐, 木下哲男, 白鳥則郎(東北大)

[16:30~17:30] ●招待講演 (A会場)  
(13) 欧州の最新IT動向 菅野政孝 (NTTデータ)  
7月16日 (金)

[10:00~11:30] ●地域ネットワークとIX (A会場)  
(14) プライベートファイバを用いた分散地域IX構築  
河瀬 剛, 石田 亨, 国立 勉 (ソフトピアジャパン)  
伊藤義仁 (未来精工)  
(15) CATV上の通信・放送連携型新サービスシステム  
石田 亨, 河瀬 剛, 国立 勉 (ソフトピアジャパン)  
(16) ラベルスイッチを用いた分散IXの設計  
中川郁夫 (インテック・システム研究所)  
江崎 浩 (東大), 永見健一 (東芝)

[10:00~11:30] ●ネットワークミドルウェア (B会場)  
(17) 時間拡張LOTOSの処理系を用いたSMIL記述の実行とQoS制御  
寺島芳樹 (阪大), 安本慶一 (滋賀大), 東野輝夫 (阪大)  
安倍広多, 松浦敏雄 (大阪市立大), 谷口健一 (阪大)  
(18) ADIPS Frameworkに基づくJava Beansのエージェント化手法  
関場治朗 (東北大) 今野勝之 (富士通)  
菅沼拓夫, 木下哲男, 白鳥則郎 (東北大)  
(19) POLICYCOMPUTINGのセキュリティポリシーへの適用  
菅野政孝, 小熊慶一郎, 坂田祐司, 田中俊介 (NTTデータ)

[12:30~14:00] ●モバイルシステム (A会場)  
(20) 有限状態モデルに基づくモバイルシステムの仕様化  
板橋吾一, 高橋 薫 (仙台電波高専)  
(21) 並行計算 $\pi F$ を用いたモバイルシステム管理  
安藤敏彦, 高橋 薫, 加藤 靖 (仙台電波高専)  
(22) タイマシステムコールを用いるFSMプロトコルの適合性試験について  
森 亮憲, 樋口昌宏 (阪大)

[12:30~14:00] ●安全な情報コンセント (B会場)  
(23) PC-UNIXによるDHCPシステムの構築と運用  
青山耕治 (一橋大)  
(24) 既存DHCP端末で利用できる利用者にも管理者にも安全な情報コンセントシステムの構築  
丸山 伸 (京大), 浅野善男 (立命館大)  
辻 齊, 藤井康雄, 中村順一 (京大)  
(25) 情報コンセントにおける認証とアドレス偽造防止をVLAN機能により実現するシステムLANA2  
石橋勇人, 阪本 晃 (大阪市立大), 山井成良 (岡山大)  
安倍広多, 大西克実, 松浦敏雄 (大阪市立大)

[14:15~15:45] ●やわらかいネットワーク (A会場)  
(26) 進化型やわらかいネットワーク  
木下哲男, 杉浦茂樹, 菅沼拓夫 (東北大)  
菅原研次 (千葉工大), 白鳥則郎 (東北大)  
(27) 分散システムにおけるアプリケーション運用支援環境  
齋藤武夫, Glenn Mansfield, 木下哲男, 白鳥則郎 (東北大)  
(28) 利用者環境の違いとQoS保証を考慮したマルチメディア会議システム  
橋本浩二, 柴田義孝 (岩手県立大), 白鳥則郎 (東北大)  
\* 初日 (15日) の発表終了後, 懇親会を開催する予定です。

[合同研究会]

◆第55回 情報学基礎研究会

◆第19回 デジタル・ドキュメント研究会

(発表件数: 13件)

FI (主査: 木本晴夫, 幹事: 上田修一, 太田敏澄, 大山敬三)  
DD (主査: 安達 淳, 幹事: 大野邦夫, 空閑茂起, 福島敏高)  
日 時 平成11年7月16日 (金) 9:00~17:50  
会 場 電気通信大学大学院 情報システム学研究所 (IS)  
棟2F 大会議室

[東京都調布市調布ヶ丘1-5-1. 京王線: 調布駅 (北口) 下車,  
徒歩9分. Tel (0424) 43-5660. 大学案内URL:  
[http://www.uec.ac.jp/chizu\\_eki.html/](http://www.uec.ac.jp/chizu_eki.html/)  
キャンパス案内URL:  
<http://www.uec.ac.jp/campusnai.html>]

議 題

[9:00~12:00]

- (1) メガ競争時代におけるデジタルドキュメントの役割—XML EUROPE'99の報告— 大野邦夫 (INSエンジニアリング)
- (2) 文書交換における外字問題の一考察  
道坂 修, 橋口俊彦 (NTTデータ)
- (3) 関数化図形表現を用いた紙文書のデジタル化  
森 浩一, 和田耕一, 寅市和男 (筑波大)
- (4) XMLのビジネス分野への適用  
小林 茂, 宮本義昭, 高木康夫 (日本ユニシス)
- (5) オンラインジャーナル編集用文書処理システムの構築  
大山敬三, 神門典子, 佐藤真一 (学情センター)

[13:00~17:50]

- (6) 大規模テストコレクション構築について: NTCIR-1の訓練用検索課題の分析 栗山和子, 神門典子 (学情センター)
- (7) 用語間関係に着目した文書間関係に関する統計的分析と分析支援システムの開発  
石田和成 (松江高専), 太田敏澄 (電通大)
- (8) 単語の連想関係によるテキストマイニング  
渡部 勇, 三末和男 (富士通研)
- (9) テキストマイニングのための連想関係の可視化技術  
三末和男, 渡部 勇 (富士通研)
- (10) ハイパーリンクの構造を利用した検索結果の選別方法  
鷲崎誠司, 村本達也 (NTT)
- (11) 世界大百科事典の「テーマ年表検索」における年代情報抽出・ソート法  
金田 泰 (日立)
- (12) パーソナリティック・エージェントのもたらす情報の組織化  
岡田 勇, 太田敏澄 (電通大)
- (13) 生活医療情報の組織化におけるサイバークモンズ・モデル  
山路 学, 太田敏澄 (電通大)

◆第24回 数理モデル化と問題解決研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 富田悦次, 幹事: 城 和貴, 古瀬慶博, 三木光範)  
日 時 平成11年7月16日 (金) 10:00~14:20  
会 場 ホテル大佐渡

[新潟県佐渡郡相川町大字鹿伏288-2. 佐渡島両津港よりタクシー (約50分): 相川 (ホテル大佐渡) 下車.

Tel (0259) 74-3300 Fax (0259) 74-3219

<http://www1.sphere.ne.jp/hoteni/oosado.htm>

照会先: 仙石正和 (新潟大) Tel/Fax (0259) 262-6751]

議 題

[10:00~12:00]

- (1) プログラムスライシングのVRMLへの導入とその改良  
丸山博史 (NECソフト九州), 荒木啓二郎 (九大)
- (2) 文字列領域の問題解決における一階論理制約からのプログラム生成  
吉田忠行, 赤間 清, 宮本衛市 (北大)
- (3) setof参照を用いた問題解決  
辻 武士, 赤間 清, 宮本衛市 (北大)

[13:00~14:20]

- (4) マーカー型アリ群知能 松田 浩, 米澤保雄 (茨城大)
- (5) 自己非自己認識機構に基づく複雑適応システムの自律的構築  
長野 忍, 米澤保雄 (茨城大)



### ◆第43回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 柴山 守, 幹事: 加藤常員, 門林理恵子, 原正一郎)

日時 平成11年7月16日(金) 10:00~16:30

会場 高知女子大学永国寺キャンパス 講義棟2F 会議室

[高知市永国寺町5-15. JR(土讃線): 高知下車, 徒歩15分ま

たはタクシー5分. <http://www.kochi-wu.ac.jp/access-j.html>

E-mail: aaki@cc.kochi-wu.ac.jp (青木 敦)

Tel(088)873-2156 Fax(088)873-3934]

#### 議題

[10:00~12:00]

- (1) イメージデータ化された図書目録カードの検索システム  
栗田英和, 柴田裕介, 竹田正幸, 有川節夫(九大)
- (2) 国文学年鑑作成におけるデータの配列とその自動化の試み  
入口敦志(国文研)
- (3) 電子テキストの今昔  
小澤照彦(高知大)

[13:00~14:20]

- (4) HI-AMSアーキテクチャ上の異種メディアの統合  
木内 光, 矢野聡司, 小西 修(高知大)
- (5) データマイニング法によるマルチメディアの内容検索  
金山智一, 滝本裕一, 小西 修(高知大)

[14:30~16:30]

- (6) 北京版チベット大蔵経の高再現性デジタル画像化: 高精度スキャンング過程  
柴田みゆき, 箕浦曉雄, 宮下晴輝, 片岡 裕(大谷大)

- (7) 鳥根県並河萬里写真財団所蔵写真データベースシステムの構築について  
大本純子(鳥根県並河萬里写真財団)

- (8) インターネットを利用した地理情報サーバの構造と構築  
ベンカテッシュ・ラガワン, 柴山 守, 升本真二(大阪市立大)

\*15日の研究会前日に, 懇親会を予定しております。

### ◆第71回 情報システムと社会環境研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 黒川恒雄, 幹事: 魚田勝臣, 刀川 真, 辻 秀一)

日時 平成11年7月21日(水) 13:00~17:00

会場 情報処理学会 会議室(芝浦)(所在地は前記参照)

議題 特集: 情報システムに関するさまざまな研究アプローチ

- (1) リソースにおける競合問題を考慮したジョブショップスケジューリング方式の提案とその実証  
杉原弘章(三菱電機)  
小泉寿男(東京電機大), 片岡信弘, 高原照明(三菱電機)
- (2) 3次元CADが製品開発における協働プロセスに与える影響  
竹田陽子(国際大)

- (3) 表出的コミュニケーションを支援する情報システムとその社会的意味の考察  
刀川 真(NTTデータ)

- (4) サイバー・コモンズ: デジタル社会における社会情報システム学の課題  
太田敏澄(電通大)

- (5) 実践的知識マネジメントの観点からみた情報システム  
池谷のぞみ(東洋大)

- (6) 分析ソフトウェア改善の繰り返しによる情報システムのデザイン方法  
内木哲也(東洋大), 神沼靖子(前橋工科大)

### ◆第119回 データベースシステム研究会

(発表件数: 71件)

(主査: 清木 康, 幹事: 赤間浩樹, 角谷和俊, 遠山元道)

一夏のデータベースワークショップ1999(DBWS'99) 沖縄一

日時 平成11年7月21日(水) 13:40~16:50

22日(木) 9:00~18:00

23日(金) 8:40~11:50

会場 沖縄厚生年金休暇センター

[沖縄県島尻郡佐敷町字新里1688. 那覇バスターミナルからバス(39系百名線): 休暇センター下車(約1時間).

Tel(098)947-0111]

#### 議題

7月21日(水)

[13:40~14:55] ●1A 放送型データ管理

- (1) アクセス要求発生の間隔を考慮した放送データのキャッシング方式  
原 隆浩(阪大)  
矢島悦子(エフエム大阪), 塚本昌彦, 西尾章治郎(阪大)
- (2) 人気度に依存した放送配信スケジューリング方式のシミュレーション  
白田由香利, 飯沢篤志  
橋本隆子(次世代情報放送システム研/リコー)  
李 頌(筑波大)

- (3) 距離の公理に基づく情報放送フィルタリング方式  
西山揚子, 大和田俊和, 浅田一繁  
飯沢篤志(次世代情報放送システム研/リコー)  
古瀬一隆(茨城大)

[13:40~14:55] ●1B 半構造データ検索(1)

- (4) XML問い合わせ処理システム(xQues)の問い合わせ言語  
石川 博, 久保田和己, 金政泰彦(富士通研)
- (5) XML問い合わせ処理システム(xQues)の問い合わせ処理系  
久保田和己, 金政泰彦, 石川 博(富士通研)
- (6) XMLによる分子系統樹データの表現とその検索手法  
増山智久, 岸浪リサ, 吉川孝伸, 松田秀雄, 橋本昭洋(阪大)

[13:40~14:55] ●1C 画像・音楽DB

- (7) 文書画像からの分子系統樹データの抽出手法とその評価  
広中大雅, 田部智宏, 吉川孝伸, 松田秀雄, 橋本昭洋(阪大)
- (8) 大量画像アクセス手段の提案  
岩崎雅二郎, 両角清隆(リコー)

- (9) ハミングを用いた音楽検索システム  
小杉尚子, 西原祐一, 山室雅司(NTT)

[15:10~16:50] ●2A 時空間DB

- (10) WWW上での共有擬似3次元空間の実現  
小川剛史, 塚本昌彦, 西尾章治郎(阪大)
- (11) 擬似3次元空間の背景となる静止画の視点選択方法について  
宮原伸二, 小川剛史, 塚本昌彦, 西尾章治郎(阪大)
- (12) 3次元GIS実現のためのDB構造と処理方式に関する検討  
奥原 厚, 松本圭司, 川越恭二(立命館大)
- (13) 印象検索に基づくVRMLオブジェクトの対話型空間配置  
宇杉大介, 大島 茂, 堺 千秋(大和ハウス)  
田中克己(神戸大)

[15:10~16:50] ●2B WWW検索

- (14) 部分グラフを基本単位としたWeb文書検索: 単語の出現密度分布の適用  
佐野綾一, 松倉健志, 波多野賢治, 田中克己(神戸大)
- (15) Webコンテンツの巡回経路に基づくアクセス管理  
清光英成, 田中克己(神戸大)
- (16) WWW検索処理の効率化のためのベクトル空間圧縮モデル  
原田晃史, 川越恭二(立命館大)
- (17) World Wide Webにおける文脈を利用した同一実体の発見手法  
森嶋厚行, 北川博之(筑波大)

[15:10~16:50] ●2C 多次元DB

- (18) 多次元空間における類似探索手法の提案  
櫻井保志(NTT/奈良先端大)  
吉川正俊, 植村俊亮(奈良先端大), 児島治彦(NTT)
- (19) 楕円体距離に基づく類似検索の効率化に関する検討  
石川佳治, 北川博之(筑波大)
- (20) 従属性を用いた多次元データベースの設計法  
沙 飛, 古川哲也(九大)

- (21)領域検索のためのグー検索操作とフィルタリング  
 河岸洋暁, 小磯健吾, 田中克己 (神戸大)
- 7月22日 (木)
- [9:00~10:15] ●3A 映像の動的構成  
 (22)同期多視点映像の検索によるビデオハイパーメディアの動的構成  
 寶 勇偉, 秦 淑彦, 田中克己 (神戸大)
- (23)TV受信端末におけるダイジェスト作成及び視聴システムの試作  
 橋本隆子  
 白田由香利 (次世代情報放送システム研/リコー)  
 真野博子 (リコー)  
 飯沢篤志 (次世代情報放送システム研/リコー)
- (24)シナリオテンプレートによるストーリー性を重視したダイジェスト生成機構  
 植田和憲 (阪大)  
 鎌原淳三 (神戸商船大), 下條真司, 宮原秀夫 (阪大)
- [9:00~10:40] ●3B 時空間データモデル  
 (25)データベースの位相幾何モデル  
 牧之内顕文 (九大)
- (26)時空間データベース構築のためのムービングオブジェクトモデル  
 鶴飼規子, 増永良文 (お茶の水女子大)
- (27)仮想環境データベースシステムのためのデータモデル論  
 渡辺知恵美, 増永良文 (お茶の水女子大)
- (28)マルチメディアデータベースのためのデータ定義ダイアグラム  
 森崎慎之, 家富誠敏, 富井尚志, 有澤 博 (横浜国大)
- [9:00~10:40] ●3C テキストDB  
 (29)構造化インデクスの全文検索への適用  
 松村 敦, 高須淳宏, 安達 淳 (学情センター)
- (30)Support Vector Machineを用いた文書の分類手法  
 矢田裕之, 上原邦昭 (神戸大)
- (31)転置ファイルおよび接尾辞配列の効率的圧縮法  
 定兼邦彦, 今井 浩 (東大)
- (32) Virtual Channel: A Filtering and Synthesizing Method for Data Broadcast  
 馬 強, 角谷和俊, 田中克己 (神戸大)
- [10:55~12:10] ●4A 情報流通  
 (33)流通管理機構を持つ複合コンテンツの管理方法  
 梅本佳宏, 長谷川知洋, 寺西裕一, 佐藤哲司 (NTT)
- (34)Eclair:同期化コンテンツの放送型配信とその版管理方式の提案  
 野田玲子, 角谷和俊, 田中克己 (神戸大)
- (35)WWWにおけるインラインオブジェクトの配送順序制御について  
 中野 賢, 春本 要, 下條真司, 西尾章治郎 (阪大)
- [10:55~12:10] ●4B 情報空間DB  
 (36)映像の重要度と地図を利用した多視点映像のブラウジング方式  
 秦 淑彦, 廣瀬竜男, 田中克己 (神戸大)
- (37)XMLを基本としたテキスト空間情報ベース  
 相良 毅, 有川正俊 (東大)
- (38)GADGET/IV: 情報可視化の半自動設計支援環境-目的指向分類の考察とシステムアーキテクチャの基本設計-  
 古畑理香, 藤代一成, 市川哲彦, 竹島由里子 (お茶の水女子大)
- [10:55~12:10] ●4C 半構造データ検索 (2)  
 (39)あいまいな検索パターンの記述が容易な半構造データ検索言語  
 田島敬史 (神戸大)
- (40)Introduction of Aggregate Functions to a Language for Querying Structured Genome Documents  
 Aaron J. Stokes (CREST, JST)  
 Hideo Matsuda, Akihiro Hashimoto (阪大)
- (41)XML問い合わせ処理システム (xQues) のデータ格納管理  
 金政泰彦, 久保田和己, 石川 博 (富士通研)
- [13:20~14:35] ●5A 協調と分散  
 (42)協調作業支援における表示要求を考慮したオブジェクト表示の最適化  
 菊田裕次, 岩井原瑞穂 (九大)
- (43)協調作業の一貫性管理のためのメッセージ構造の動的再構成  
 井上創造, 岩井原瑞穂 (九大)
- (44)分散オブジェクト協調デスクトップの検討  
 窪野哲光 (東京電力)
- [13:20~15:00] ●5B モーション検索  
 (45)人体データベースにおける運動メディアエータの設計  
 今井さやか, 富井尚志, 有澤 博 (横浜国大)
- (46)カメラモーションに基づく類似動画像検索  
 遠藤 齊, 片岡良治 (NTT)
- (47)DTWを用いた身体動作における基本動作の抽出  
 大崎竜太, 上原邦昭 (神戸大)
- (48)身体動作データのマルチストリーム性を考慮した類似・非類似検索  
 矢部武志, 田中克己 (神戸大)
- [13:20~15:00] ●5C 高度検索  
 (49)仕様に基づいたRDBクエリ検索システム  
 村田美友紀 (八代高専), 掛下哲郎 (佐賀大)
- (50)連続値を含むメタデータを対象とした意味的連想検索方式  
 池田知弘, 清木 康 (慶大)
- (51)関連性の重ね合わせモデルに基づく問い合わせ表現の拡張  
 金沢輝一 (東大), 高須淳宏, 安達 淳 (学情センター)
- (52)複合階層索引の質問記述能力  
 河野弘史, 古川哲也 (九大)
- [15:30~18:00] ●パネル
- 7月23日 (金)
- [8:40~9:55] ●6A データマイグレーション  
 (53)SuperSQLによるデータマイグレーションツールの拡張  
 多崎 央, 遠山元道 (慶大)
- (54)応用データ自動生成のための変換定義言語  
 有澤達也, 遠山元道 (慶大)
- (55)データベース移動を用いた分散データベースシステムにおける複製を考慮したデータベースの位置管理手法  
 秋山豊和, 原 隆浩, 塚本昌彦, 西尾章治郎 (阪大)
- [8:40~9:55] ●6B データマイニング  
 (56)業績責任会計における時制マスタ管理システムの重要性  
 田中 聡 (ビーコンIT)
- (57)データ更新を伴うOperational OLAP  
 大場達生 (ビーコンIT)
- (58)一般化相関ルールマイニングの並列処理方式における統計情報を用いた候補分割負荷分散手法の評価  
 新谷隆彦, 喜連川優 (東大)
- [8:40~9:55] ●6C トランザクション  
 (59)Increasing Concurrency of Nested Transactions through Speculation  
 P. Krishna Reddy, Masaru Kitsuregawa (東大)
- (60)Javaのスレッドを用いた分散入れ子トランザクションの実現  
 井川智崇 (東工大)
- (61)帰納分類によるトランザクション動作の発見  
 三浦孝夫 (法政大), 塩谷 勇 (産能大)
- [10:10~11:50] ●7A モバイル・マルチDB  
 (62)移動体計算環境におけるアクティブデータベースのECAルール実行監視機構の設計と実装  
 寺田 努, 莫 君 (阪大)
- (63)Controlling Database Updates in Mobile Computing Environments with Frequent Disconnection  
 Yin-Huei Loh, Takahiro Hara, Masahiko Tsukamoto  
 Shojiro Nishio (阪大)
- (64)災害情報システムONIGIRIの設計と試作  
 大本英徹, 岸三樹夫, 中城 一, 田中大資, 三谷宗玄 (京産大)
- (65)マルチデータベース環境における時間的關係, および, 空間

的關係に関する解釈を伴うデータ統合方式の実現

細川宜秀 (筑波大), 石橋直樹 (慶大)

八代夕紀子 (お茶の水女子大), 清木 康 (慶大)

[10:10~11:25] ●7B 並列処理

(66)並列DBMS に於ける動的負荷分散機構の実装

安井隆宏, 田村孝之, 小口正人, 喜連川優 (東大)

(67)Online Heat Balancing for Parallel Indexed Database on Shared Nothing System

Hisham Feelifl, M. Kitsuregawa (東大)

(68)無共有並列計算機向けディレクトリ構造Fat-Btreeの実装とその評価

宮崎 純 (北陸先端大), 横田治夫 (東工大)

[10:10~11:25] ●7C 情報提示

(69)番組メタファアによるWebページの利用者適応型呈示方式

服部多栄子, 角谷和俊, 灘本明代

草原真知子, 田中克己 (神戸大)

(70)番組メタファアを用いた情報検索結果の提示方式

近藤宏行, 角谷和俊, 田中克己 (神戸大)

(71)ユーザ視点に即した仮想WWWページの動的生成による閲覧支援

品川徳秀, 北川博之 (筑波大)

\* 電子情報通信学会 (データ工学研究会) と共催, ACM SIGMOD 日本支部協賛.

\* 22日 (木) 18:30から懇親会を予定しております.

\* 宿泊申込等の詳細については下記URLをご参照ください.

http://www.mdbl.sfc.keio.ac.jp/IPSJ-DBS/

◆第132回 自然言語処理研究会 (発表件数:13件)

(主査:松本裕治, 幹事:武田浩一, 永田昌明, 宇津呂武仁)

日時 平成11年7月22日 (木) 13:00~16:45

23日 (金) 9:00~12:00

会場 新潟大学大学院自然科学研究科 大会議室

[新潟市五十嵐2の町8050. バス (JR新潟駅 万代口より新潟交通の新潟大学前行き, または大学・内野行き): 新大西門下車 (約40分), 大学構内徒歩5分. 新潟駅周辺の案内図は, 以下のURLを参照してください.

http://www.niigata-u.ac.jp/niigata\_station/index.html

大学構内の案内図は, 以下のURLを参照してください.

http://www.gs.niigata-u.ac.jp/japanese/route/frame.html

E-mail:miyazaki@ie.niigata-u.ac.jp (宮崎正弘)

Tel (025)262-6745 Fax (025)261-2502]

議題

7月22日 (木)

[13:00~14:30] ●情報抽出

(1) 有限状態変換器の誤り駆動型学習を用いた固有表現抽出

颯々野学, 塚本浩司 (富士通研)

(2) 世界大百科事典の「テーマ地図検索」における地名情報抽出法

金田 泰 (日立)

(3) 送受信履歴と情報抽出に基づく電子メールの個人適応型ランキング

長谷川隆明 (NTT)

[14:45~16:45] ●文書の構造化・要約

(4) 表層情報を利用したネットニュース領域構造解析

浅野久子, 永田昌明 (NTT)

(5) 不定型な広告情報の自動構造化

井上香織, 横路誠司, 高橋克己 (NTT)

(6) 情報検索タスクに基づいた評価による要約手法の比較

望月 源, 奥村 学 (北陸先端大)

(7) 話題構成に基づく文書自動要約: 本一冊を一頁に要約する試み

仲尾由雄 (富士通研)

7月23日 (金)

[9:00~12:00] ●解析・生成, 他

(8) 国際化Web Browserの設計

上園一知, 片岡朋子, 寛 捷彦 (早大)

(9) 全文検索のための字面解析による単語分割

飯塚泰樹 (松下電器)

(10) 動詞と名詞の意味的共起関係を用いた同音異義語のかな漢字変換

元永靖和, 池原 悟, 村上仁一 (鳥取大)

(11) 規則と用例を用いた構文意味融合型日本語構文解析

高橋博之, 宮崎正弘 (新潟大)

(12) 品詞タグつきコーパスにおける品詞体系の変換

乾健太郎 (九工大), 脇川浩和 (INSエンジニアリング)

(13) 英日話し言葉翻訳のための漸進的文生成手法

松原茂樹, 渡邊善之, 外山勝彦, 稲垣康善 (名大)

\* 1日目 (22日) の終了後, 17:00~18:00に新潟大学宮崎研究室の見学会, 18:30~19:30に新潟大学にて懇親会を予定しています.

\* 電子情報通信学会 (言語理解とコミュニケーション研究会) と共催.

◆第117回 知能と複雑系研究会 (発表件数:6件)

(主査:橋田浩一, 幹事:有馬 淳, 長尾 確, 山田誠二)

日程 平成11年7月22日 (木)・23日 (金)

会場 北大ベンチャービジネスラボラトリ コラボレーションルーム

[札幌市北区北13条西8丁目. JR札幌駅より地下鉄南北線:北12条駅から徒歩約10分.]

議題 「インターネット環境におけるオフィスシステムとAI」および一般

(1) 状態遷移モデルを用いた交渉会話のシミュレーション

鬼頭 隆 (通信総研)

(2) 様相オペレータを具備したマルチエージェントによる追跡問題の研究

増塩智宏, 安村禎明, 新田克己 (東工大)

(3) 確率文脈自由文法を用いたエージェント間での言語共有

鈴木貴雄, 東条 敏 (北陸先端大)

(4) 言語学におけるカテゴリー構造の複雑系多値論理解析

武田稔也, 東条 敏 (北陸先端大)

(5) 知識ナビゲーションのための概念図の自動生成

鍋島彰崇, 荒井秀一, 石川知雄 (武蔵工大)

(6) マルチエージェント技術を用いた文書群の自己組織化

村山正司, 中村裕一, 大田友一 (筑波大)

二方厚志 (電力中研)

\* 電子情報通信学会 (オフィスシステム研究会, 人工知能と知識処理研究会) と共催.

\* プログラムは暫定的なものです. 最新プログラムおよび会場の詳細は, SIG-ICSのWebページをご覧ください.

http://www.ymd.dis.titech.ac.jp/sig-ics/

◆第26回 音声言語情報処理研究会

(主査:新田恒雄, 幹事:川端 豪, 小林哲則, 嵯峨山茂樹)

金沢の奥座敷と呼ばれる湯涌温泉で, 1泊2日の宿形式の予定で開催します.

日時 平成11年7月23日 (金) 13:00~22:00

24日 (土) 8:30~15:00

会場 金沢湯涌温泉かなや

[金沢市湯涌町イ-56. Tel (0762)35-1211 Fax (0762)35-1214]

議題 テーマ「自然な発話の解析・理解・生成および音声対話システム, その他一般」

●招待講演: 日本語対話を日本語で考える

中島秀之 (電総研/北陸先端大)

[概要: 日本語の文法は柔軟で, 対話に向いていると考える. 英文法にとらわれない目で, 計算機で日本語の対話処理を行う手法について考えたい.]

●企画講演 ICASSP99 (Phoenix) の報告

「音声言語情報処理の方向を読みとる」

\* プログラムの詳細などについては次号本欄およびhttp://www.jaist.ac.jp/~sagayama/SIGSLP99July/をご覧ください.

\*研究会終了後、金沢の兼六園の見学を予定しています。  
\*宿泊費：13,000円(懇親会費を含む) ※別途資料代  
低料金で前日泊、翌日泊できます。参加申込の際に明記してください。  
\*参加申込方法：研究会開催のホームページ  
<http://www.jaist.ac.jp/~sagayama/SIGSLP99July/>を参照のうえ、  
E-mailにて下平 博(北陸先端大)  
E-mail:sim@jaist.ac.jp (cc:sagayama@jaist.ac.jp) へ、あるいは  
Tel(0761)51-1226, Fax(0761)51-1149へてに申し込んでください。  
参加申込締切 平成10年7月2日(金)  
照会先 嵯峨山茂樹(北陸先端大) E-mail:sagayama@jaist.ac.jp

~~~~~

#### ◆グラフィクスとCAD研究会

夏の集中研究集会「形状モデリングの基礎と応用」参加募集  
すでに恒例となりました「グラフィクスとCAD研究会・夏の集中研究集会」を、本年は、熱い討論でも耐えられるように北海道で催すこととなりました。奮ってご参加ください。

本年は、グラフィクスの基盤技術であるモデリングにスポットを当て、メインテーマを「形状モデルの基礎と応用」としました。モデリングと一言で表現しても、そこには数多くの話題があり、下記に示したものは、一例に過ぎません。基礎から応用まで、理論から実践まで、幅広い分野を対象とした討論の場を提供したいと考えています。

- ・CADのためのモデリング
- ・自然物/自然現象のモデリング
- ・インタラクティブモデリング
- ・モデリングシステム(ネットワーク利用も含む)
- ・情報の3D化、可視化
- ・イメージベースドレンダリング
- ・形状処理技術
- ・その他CG一般

日 程 平成11年8月23日(月)・24日(火)  
会 場 溪流荘(札幌市職員共済保養所)  
[札幌市南区定山溪温泉西2-5. Tel(011)598-2721]  
宿 泊 費 13,000円(消費税込) \*別途資料代  
参加申込 下記ホームページをご覧ください。  
<http://www.gcad.c.dendai.ac.jp/gcad/summer.html>  
照会先 山本 強(北大)  
E-mail:yamamoto@eng.hokudai.ac.jp  
齊藤 剛(東京電機大)  
E-mail:saitoh@saitohlab2.c.dendai.ac.jp  
\*プログラム等詳細は次号(7月号)に掲載予定。

~~~~~

#### \*\*\*研究会 論文募集\*\*\*

発表申込方法 研究会発表申込書の様式で、発表者名(登壇者に○)、略称所属、概要(50字程度)、発表申込者連絡先(住所、氏名、Tel、Fax、E-mail)を明記の上、各研究会照会先までE-mailまたはFaxで直接お申し込みください。下記の研究発表会以外および特に指定がない研究会は、事務局調査研究担当宛(E-mail:sig@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534)に開催日の3ヵ月前までにお申し込みください。

#### ◆アルゴリズム研究会

日 程 平成11年9月2日(木)  
会 場 北海道大学  
発表申込締切 平成11年6月28日(月)  
照会先 玉木久夫(明大)  
E-mail:tamaki@cs.meiji.ac.jp

Tel/Fax(044)934-7478

\*電子情報通信学会(コンピュータ学会)と連続開催。

#### ◆自然言語処理研究会

日 程 平成11年9月10日(金)  
会 場 東京女子大学  
発表申込締切 平成11年6月30日(水)  
申 込 先 E-mail:nl-ipsj-submit@cl.aist-nara.ac.jp  
照 会 先 松本裕治(奈良先端大)  
E-mail:matsu@is.aist-nara.ac.jp  
Tel(0743)72-5240 Fax(0743)72-5249

\*できるだけE-mailをお願いします。  
\*E-mailには返信しますので、返信のない場合はご連絡ください。

#### ◆コンピュータビジョンとイメージメディア研究会

日 程 平成11年9月16日(木)  
会 場 群馬大学  
発表申込締切 平成11年6月30日(水)  
照 会 先 塩原守人(富士通研)  
E-mail:shio@flab.fujitsu.co.jp  
Tel(044)754-2679 Fax(044)754-2347

\*申込受付後に受付済通知をお送りしますので、通知のない場合にはご連絡ください。

#### ◆数理モデル化と問題解決研究会

日 程 平成11年9月22日(水)  
会 場 北海道大学  
論文誌投稿申込締切 平成11年6月18日(金)  
研究会発表申込締切 平成11年6月25日(金)  
照 会 先 城 和貴(奈良女子大)  
E-mail:joe@ics.nara-wu.ac.jp  
Tel(0742)20-3443

\*できるだけE-mailをお願いします。連絡を受けましたら、3日以内に返信いたしますので、返信のない場合にはご連絡ください。  
\*数理モデル化と問題解決研究会に関する最新情報  
Web: <http://al.ei.tuat.ac.jp/mps/index.html>  
ML: 登録御希望の方は下記のアドレスに本文任意の電子メールをお送りください。正常に登録された場合折り返し登録完了のメールをお送りします。  
登録用アドレス: sigmps-join@keim.cs.gunma-u.ac.jp

#### ◆分散システム/インターネット運用技術研究会

日 程 平成11年9月24日(金)  
会 場 香川大学  
発表申込締切 平成11年6月25日(金)  
照 会 先 笠原義晃(九大)  
E-mail:kasahara@nc.kyushu-u.ac.jp  
Tel(092)642-2298 Fax(092)642-2294

\*できるだけE-mailをお願いします。  
\*E-mailには返信しますので、返信がない場合にはご連絡ください。

#### ◆デジタル・ドキュメント研究会

日 程 平成11年9月24日(金)  
会 場 名古屋大学  
発表申込締切 平成11年6月30日(水)  
照 会 先 菅沼 明(九大)  
E-mail:suga@is.kyushu-u.ac.jp  
Tel(092)583-7617 Fax(092)583-1338

\*できるだけE-mailをお願いします。  
\*E-mailには返信しますので、返信がない場合にはご連絡ください。

◆情報システムと社会環境研究会

日 程 平成11年9月27日 (月)

会 場 岩手県立大学

発表申込締切 平成11年6月28日 (月)

照 会 先 阿部昭博 (岩手県立大)

E-mail:abe@iwate-pu.ac.jp

Tel(019)694-2562 Fax(019)694-2563

\*できるだけE-mailでお願いいたします。

\*E-mailには返信しますので、返信がない場合にはご連絡ください。

~~~~~

1999年並列/分散/協調処理に関する  
『下関』サマー・ワークショップ (SWoPP下関'99)  
参加者募集

◆計算機アーキテクチャ研究会 (ARC)

◆ハイパフォーマンスコンピューティング研究会 (HPC)

◆システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会 (OS)

◆プログラミング研究会 (PRO)

上記4研究会は、「1999年並列/分散/協調処理に関する『下関』サマー・ワークショップ (SWoPP下関'99)」と題し、並列/分散/協調処理を横断的なキーワードとして、研究会を同時・連続開催いたします。プログラムは7月号に掲載いたしますが、各研究会の開催日程および宿泊等に関するお問い合わせ先をご案内いたします。多数の方々参加をお待ちしております。

日 程 平成11年8月2日 (月)~5日 (木)

会 場 海峡メッセ下関 (山口県下関市)

[http://www.joho-yamaguchi.or.jp/messe/]

各研究会開催日程およびテーマ

◇PRO:平成11年8月4日 (水)・5日 (木)

並列/分散/協調プログラミング言語と処理系

◇ARC:平成11年8月2日 (月)~4日 (水)

並列/分散/協調システムの支援アーキテクチャ技術と評価

◇OS:平成11年8月2日 (月)

並列/分散/協調システムソフトウェア

◇HPC:平成11年8月2日 (月)~4日 (水)

並列分散処理によるハイパフォーマンスコンピューティング

宿泊に関する問合せ 下記サテンドラベル下関営業所で宿泊施設の斡旋をしております。\*申込期限:6月末日

サテンドラベル下関営業所

SWoPP下関'99担当:末永, 三村, 寄森

〒750-0012 山口県下関市観音崎町14-16 日本火災ビル1F

Tel(0832)32-3131 Fax(0832)34-0220

宿泊申込書

宿泊の申し込みには、こちらで用意いたします専用の記入フォームをご利用ください。記入フォームは、準備が整い次第swopp-announceメーリングリストで配布いたします。また、下記の「SWoPPホームページ」からPostScript形式またはPDF形式のファイルをダウンロードすることもできます。こちらをご利用される場合は、ファイルを印刷して必要事項をご記入の上、FAXにより上記問合せ先までお送りください。

ワークショップ全体に関する問合せ先

\*電子メールによるお問合せを歓迎します。

〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1

九州大学大学院システム情報科学研究科 情報工学専攻

日下部茂 E-mail:swopp99-secretary@etl.go.jp

Tel(092)583-7623 Fax(092)583-1338

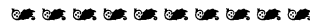
メーリングリストによる情報提供

SWoPPに関するメーリングリストを開設しています。SWoPPに関する最新の詳しい情報が必要な方はぜひ、本文にadd YOUR-ADDRESSとだけ書いた電子メールをswopp-request@etl.go.jpあてに送ってください (必ずYOUR-ADDRESSの所をご自分のメールアドレスと置き替えてください)。自動的にメーリングリストに登録され、以後最新情報が送られます。

WWWによる情報提供

SWoPPに関するWWWによる情報提供を行っています。プログラム、会場案内、宿泊申し込みその他の情報をリアルタイムで提供しております。http://www.etl.go.jp/~swopp/

\*なお、SWoPP下関'99の一環として、電子情報通信学会 (コンピュータシステム研究会・フォールトトレラントシステム研究会)を同時・並行開催いたします。詳細につきましては、電子情報通信学会誌5月号をご覧ください。



行事No.Z-2000

「西暦2000年問題の現状と対策  
—技術と法律—講演会」参加者募集

2000年まで6カ月を切って、西暦2000年問題への一般の関心が高まっている。今、西暦2000年問題について、技術と法律の両面から、正確な情報が求められている。ここでは、西暦2000年問題の最新状況を技術と法律の両面から、この分野の第一線で取り組んでいる専門家が最新状況も交えて解説する。

日 時 平成11年7月15日 (木) 13:00~17:00

(受付開始 12:30~)

会 場 早稲田大学国際会議場第二会議室

[東京都新宿区西早稲田1-20-14。地下鉄 (東西線) : 早稲田駅下車, 徒歩10分。Tel(03)5286-1755]

主 催 情報処理学会 会誌編集委員会

ソフトウェア工学研究会

協 賛 情報サービス産業協会

参加費 3,000円 \*テキスト「西暦2000年問題の現状と対策—技術と法律—」(情報処理学会1999年5月刊)含む

申込方法 本号会告欄または学会ホームページの行事申込書にてお申し込みください。

支払方法 当日現金にてお支払いください。

参加申込締切 定員 (100名) になり次第 (お早めにお申し込みください)

照 会 先 情報処理学会 会誌担当

プログラム

コーディネータ: 青山幹雄 (新潟工大)

[13:00~13:30] 「西暦2000年問題への視点」

石田晴久 (多摩美大/アスキー)

[13:30~14:00] 「我が国における西暦2000年問題対応の現状」

河野隆一 (インテック)

[14:00~15:00] 「西暦2000年問題への対応とソフトウェア保守」

上原三八 (富士通研)

—休憩—

[15:30~16:30] 「西暦2000年問題の法的課題」  
大谷和子 (日本総研)  
[16:30~17:00] 質疑応答



### 行事No.S-0099 「オブジェクト指向'99シンポジウム」 参加者募集

1995年から開催してきたオブジェクト指向シンポジウムも、今回で5回目になりました。オブジェクト指向技術は、ソフトウェア開発現場での本格的適用が拡大しつつあります。

「オブジェクト指向'99シンポジウム」では、先端技術の研究はもとより、特に実践的なテーマを中心にプログラムを作成いたしました。

キーノートは、“Patterns of Software”の著者であるRichard P. Gabriel氏と、“Inside CORBA”の著者であるWilliam Ruh氏をそれぞれお招きし、分散コンピューティングプラットフォームであるJiniについてソフトウェア開発へのインパクト、ならびに米国での分散オブジェクト技術をベースにしたシステムインテグレーションの実際をご講演いただきます。

チュートリアルは、3つのコースを設定しました。入門コースは、初学者のみならず、教育担当の方々にも参加していただき、オブジェクト指向の間口を広げていただきたいと思います。開発コースと実践コースは、モデリング、コンポーネントウェア、分散オブジェクト基盤など情報システム構築に必要な技術について、第一線の専門家が解説いたします。

パネルは、アプリケーションシステムやパッケージの開発者による開発現場での実態を報告します。またビジネスオブジェクトの標準化を推進している団体の代表の方々により、標準化状況と成果を報告していただきます。また、21世紀に向けた新しい技術への取り組みについてのパネルも用意しています。

ワークショップでは、これまで好評を博してまいりましたモデリングについて、実際に企業で開発を担当されている方々の視点を加え、新たな切口での活発な議論を行っていきたくと考えています。

皆様の参加をお待ちしております。

日 時 平成11年7月21日(水) 10:00~19:30  
22日(木) 10:00~17:45  
23日(金) 10:00~17:45  
会 場 東京工業大学(大岡山キャンパス)  
\*参加申し込みの方には詳細を後日送付  
主 催 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会  
協 賛 情報サービス産業協会, 日本ソフトウェア科学会  
参 加 費 会員: 25,000円 研究会登録会員: 20,000円  
学生: 5,000円, 非会員: 30,000円 (いずれも論文集, チュートリアル/ワークショップ資料代を含む)  
資料のみ 5,000円 (論文集, チュートリアル/ワークショップ資料, 送料込)  
申込方法 本号会告欄またはホームページの行事申込書にてお申し込みください。  
申込締切 平成11年7月9日(金)  
申込/照会先 情報処理学会 調査研究担当(シンポジウム係)

#### プログラム

- 7月21日(水)
  - [10:00~17:15] チュートリアル
  - 入門コース
    - (1) オブジェクト指向入門 ー学び方, 教え方のパターンー 高橋富夫(富士通)
    - (2) オブジェクト指向プログラミング 柴山悦哉(東工大)
    - (3) JAVAを使ったWebコンピューティング入門 中村輝雄(日立ソフト)
  - 開発コース
    - (4) Unified Processの開発プロジェクトへの適用 石塚圭樹(日本ラショナル)
    - (5) 速習ビジュアルモデリング 安竹由起夫(日本ラショナル)
  - \*人数制限あり・パソコン持参(下記注意事項参照)
  - (6) オブジェクト指向開発プロジェクト 酒匂 寛(Designers'Den)
  - 実践コース
    - (7) コンポーネントウェアとソフトウェア開発戦略 青山幹雄(新潟工大)
    - (8) 分散オブジェクト実装技術とEJB 成田雅彦(富士通)
    - (9) UMLを使った組込みソフトウェアの開発方法 渡辺博之(オージス総研)
  - [17:30~19:30] 意見交換会(東工大百年記念館)
- 7月22日(木)
  - [10:00~11:45] 招待講演
    - (10) Jini Richard Gabriel (Stanford大)
  - [12:45~14:15] チュートリアル
    - (11) アナリシスパターンの解説と応用 児玉公信(エヌ・ケー・エクサ)
  - [14:30~17:45] ワークショップ
    - (12) モデリングワークショップ 司会: 羽生田栄一(オージス総研)
  - [12:45~16:00] 論文発表
  - 開発環境/ツール
    - (13) オブジェクト指向設計の自動化システムSOME/EOS 原田 実(青山学院大)
    - (14) Java言語のためのCASEツール・プラットフォーム 蜂巣吉成(名大)
    - (15) パターン指向開発とパターン自動適用ツール 上原忠弘(富士通)
  - 事例(OOの適用性)
    - (16) オブジェクト指向適用の是非 山口 潔(日立)
    - (17) 未経験者によるオブジェクト指向設計の適用と評価 米田豊満(日立)
    - (18) ドメイン分析に基づくアーキテクチャ産出とアーキテクチャが要求分析およびシステムの進化に及ぼす効果 友枝 敦(富士総研)
  - ビジネスオブジェクト/コンポーネント
    - (19) ビジネスアプリケーションにおける業務ルール適用の実際 佐藤なごさ(NEC)
    - (20) コンポーネント指向業務設計技法(HIPACE/AGORA)の開発 団野博文(日立)
    - (21) 柔軟なカスタマイズが可能なコンポーネント技術について 佐野慎一(富士通)
  - 事例(Java/CORBA)
    - (22) J-Base-Web-Based Monitoring Framework-の開発 青田直之(山武)
    - (23) Java/CORBAを適用したネットワーク管理システムの開発 渡辺康隆(田村電機製作所)
    - (24) Javaによるシステムの開発設計とCOBOLによる現行系と

の比較評価

鈴木文音 (日立)

● [16:15~17:45] パネル

(25) ビジネスオブジェクトの標準化

司会: 津田道夫 (日立システム)

パネラ: 堀内 一 (CBOP), 鎌田博樹 (OMG)

榎本 晃 (JECALS)

● [16:15~17:45] 論文発表

○事例 (銀行, シミュレータ, 医療)

(26) e-business時代の銀行システム・ブランド・デザイン

山下眞澄 (日本IBM)

(27) オブジェクト指向分析設計技術による高エネルギー物理学実験測定器シミュレータの大規模国際共同開発

佐々木節 (KEK)

(28) オブジェクト指向による遠隔医療システムのモデル化とモデルシステムの開発

永田 宏 (国立がんセンター)

7月23日 (金)

● [10:00~11:45] 招待講演

(29) Generating business through objects

William A. Ruh (Concept Five Technologies)

● [12:45~17:45] パネル

(30) 開発現場からの報告

司会: 津田道夫 (日立システム)

パネラ: 豊田耕一 (ENICOM), 大本 進 (日立TO)

藤野 哲 (富士通), 堀 雅洋 (日本IBM)

友野晶夫 (エヌ・ケー・エクサ)

(31) オブジェクト指向の先端研究—21世紀に向けたソフトウェア技術の展望—

司会: 岸 知二 (NEC)

パネラ (モバイルエージェント): 佐藤一郎 (お茶の水女子大)

(インタラクティブシステム): 田中二郎 (筑波大),

荒木啓二郎 (九大), 他

● [12:45~16:00] 論文発表

○分散オブジェクト/エージェント

(32) ODPトレダを利用した分散コンポーネント管理サーバの開発

中島 震 (NEC)

(33) 分散オブジェクトの動的再配置方式の提案

藤岡秀樹 (日立ソフト)

(34) 協調動作機構の実体関連分析プロセスへの適用

大木幹雄 (日本工大)

○品質とメトリックス

(35) 継承木進化における統計的特性

中谷多哉子 (SLagoon)

(36) オブジェクト指向開発におけるフォールト発生早期予測手法の一提案

神谷年洋 (阪大)

(37) オブジェクト指向開発法における分析・設計仕様間のテスト方法

渡辺晴美 (北陸先端大)

○形式モデル

(38) オブジェクト指向分析モデルのプロトタイプ実行環境

青木利晃 (北陸先端大)

(39) ソフトウェア変更伝播の定式化とWebアプリケーション開発における事例

北山文彦 (日本IBM)

○パターン/フレームワーク

(40) CORBAオブジェクトの実装におけるデザイン・パターン事例

小野清志 (日本IBM)

(41) ネットワークソフトウェアの構成法に関する研究

森 忠夫 (南山大)

\*注:チュートリアル「速習ビジュアルモデリング」に参加される方は、ノートパソコンを持参していただくことになります。また、設備の関係上、先着30名様に限らせていただきます。本チュートリアルに参加ご希望の方は、シンポジウムへの参加申し込みに加えまして、別途シンポジウム事務局の方に登録が必要です。シンポジウムの参加申込書のコピーに「速習ビジュアルモデリング参加希望」と明記し、以下の宛先にE-mailまたはFaxにてお送りください。詳細はE-mailにてご連絡いたします。

E-mail:oo99@bisd.hitachi.co.jp Fax(045)549-1719

日立製作所システム開発本部第2部内 0099事務局宛

なお、シンポジウムの申し込み先となっております情報処理学会では本チュートリアルの参加申し込みの受け付けはできませんのでご注意ください。

\*最新のプログラムはソフトウェア工学研究会のホームページをご覧ください。http://www.comp.ae.keio.ac.jp/lab/ijjima/sigse.html



SSS99—Summer Symposium in Shinshu,99

「夏の情報教育シンポジウム」参加者募集

—教育の新時代:高校の新教科『情報』が開く世界—

2003年から本格的に開始される教育課程の改善の一環として、高校に普通教科『情報』が新設されることになった。これは、「ゆとりの中で生きる力を育む」ことを目指すこのたびの教育改革の1つの目玉であると言ってよく、すべての高校生にとっての必修科目が設定される点でも注目されている。

本研究会は1996年以来、この普通教科『情報』の設置とその教育内容について、専門的な見地から文部省初等中等教育局や教育課程審議会等に対して意見を述べてきた。1998年度に入り、情報処理教育委員会初等中等情報教育小委員会が発足した後は、同小委員会とともに、「この教科では、何を教えるべきか、何が教えらるるか」ということについて徹底した検討作業を行い、その結果を「試作教科書(仮称)」としてインターネット上に公開し、数次にわたる研究会において、討議・検討してきた。その結果、高校生の必修授業としての教科『情報』設置の意義は高く、次世代の若者の基礎教育に大きく寄与する可能性を明らかにできたと確信している。次には、情報教育を担当する人材を育成する態勢の整備と、情報教育を推進する実際的な教育教材や授業基盤の整備について、研究を通して専門的な意見を述べるとともに、小学校、中学校との連携、高等教育への接続性などについての諸問題を明らかにするため、具体的な活動を行って内外に理解を広める必要が痛感される。

本シンポジウムは、そのための活動の一環であり、高校の新教科『情報』の実施によって開かれる教育の可能性について、総合的な検討を行うことを目的とする。このため、参加者として、1)情報教育の専門家、2)初等中等教育の教員を中心とする教育の専門家、3)教育ソフト・教育コンテンツ作成にかかわる企業の専門家、を想定している。これからの情報教育は、すべての国民にとっての生涯学習の入口となる役割を担い、公教育の基本となるものであるから、これら、3つの異なる立場にある人々が一堂に会して、時間をかけてじっくりと研究・討論を行う必要があるという認識を持つに至ったからである。

シンポジウム会場として選んだ場所は長野県の山中にあり、低廉な料金で泊まり込みの研究会を行うのに適しており、いわゆる夏休みの時期に、大学等の研究者、高校や小・中学校の教員、そして企業のエンジニアが、堅い衣を脱いで、新しい教育の在り方とその実現に向けての夢を語り、実現に向けて研究計画を立案するのにふさわしいところである。

シンポジウムにおける研究・討論の様子は、インターネット上に公開するとともに、その報告書は学会内外に広く公表し、情報教育の進展に寄与することを目指す。

多数の方々のご参加をお待ちしております。

日 程 平成11年7月28日(水)13:00集合

~30日(金)12:30解散

会 場 かむりきそう冠着荘/坂井村公民館/クアハウス  
坂井(長野県東筑摩郡坂井村)

\*長野新幹線土田駅および篠ノ井線聖高原駅から専用送迎バス運行予定。

主催 情報処理学会 コンピュータと教育研究会  
 共催 情報処理学会 情報処理教育委員会 (本委員会および関連小委員会)  
 協賛 日本教育工学会, 教育情報システム学会, 電子情報通信学会, 教育工学研究専門委員会, 日本情報倫理協会, NTT長野支店  
 後援 長野県東筑摩郡坂井村, 長野県教育委員会, 文部省 (申請中)

参加費 会員: 27,000円 非会員: 32,000円  
 学生: 18,000円 (いずれも論文集, 宿泊費, 食事代を含む)  
 論文集のみ 5,000円 (送料, 消費税込)  
 申込締切 平成11年7月15日 (木)  
 \*定員 (80名) になり次第締切  
 申込方法 以下の照会先に必要事項を送付してください。  
 \*詳細は以下のURLをご参照ください。  
<http://www.cstt.ac.jp/kami/sss99/>  
 照会先 澤田伸一 E-mail:sawada@cc.tuat.ac.jp  
 東京農工大学工学部情報コミュニケーション工学科  
 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16  
 Tel(042)388-7450 Fax(042)385-9747

プログラム (予定/概要)

7月28日 (水)

午後●全体セッション1

- ・小中学・高校・大学の実践報告
- ・試作教科書の役割・反応・批判

夜 ●全体セッション2

- ・教科『情報』と指導要領の解説
- \*懇親会

7月29日 (木)

午前●全体セッション3

- ・学校のインターネット環境の今後

夜 ●ナイト・セッション

- ・A 「新教科『情報』」
- ・B 「情報倫理」
- ・C 「教育支援」

\*情報教育の中の, それぞれの問題を深く討論し, 次の朝, 分科会報告を行って, 議論の結果を, 参加者全員のものにします。

7月30日 (金)

午前・ナイト・セッション報告

- ・パネル討論

\*最後の日に, 参加者の意向によってテーマとパネリストを決めて, 討論会をします。

シンポジウム全体を通して, これからの情報教育のあり方, その研究方法, 実践の方向について, 参加者の相互理解を高め, 新しい教育の姿を探っていきたいと考えています。このため, 3日間を通しての参加をお願いいたします。



「音声認識セミナー  
 —基礎からディクテーションまで—  
 参加者募集

音声入力アプリケーションの基本技術である音声認識に関して, 初歩から最先端の音声ディクテーションまでを学ぶセミナーを開催いたします。本セミナーでは, 講義と実際のワークステーション上で動作する音声認識システムの構築を通して, 具体的な技術を学ぶことを目標としています。前半は, 隠れマルコフモデルを中心とした音声認識の基礎技術に関する講習で, 音声認識の研究を始めたばかりの学生・一般の方を対象としています。

後半は, 日本語ディクテーションシステムを中心とした大語彙音声認識技術に関する講習で, 前半を受講された方か, あるいは音声認識に関する基礎知識 (特に音響モデル) がある方を対象としています。参加は, 前半だけ, 後半だけ, あるいは両方のいずれでも結構です。皆様のご参加をお待ちしています。

日時 平成11年8月23日 (月) 13:00~17:00  
 24日 (火) 9:00~17:00  
 25日 (水) 9:00~17:00  
 26日 (木) 9:00~17:00  
 27日 (金) 9:00~12:00

会場 会津大学 コンピューター理工学部  
 (福島県会津若松市一箕町鶴賀)

主催 情報処理学会 音声言語情報処理研究会  
 後援 情報処理振興事業協会 (IPA) 独創的先進的情報技術に関する研究開発「日本語ディクテーション基本ソフトウェアの開発」(予定)

参加費 (テキスト, 一部のソフトウェアを含む)

前半のみ 一般: 21,000円 学生: 6,000円  
 後半のみ 一般: 21,000円 学生: 6,000円  
 前後半 一般: 31,000円 学生: 8,000円

申込締切 平成11年7月19日 (月) (定員30名)

申込/照会先 伊藤彰則 (山形大)

E-mail:aito@eie.yz.yamagata-u.ac.jp  
 Tel/Fax (0238)26-3369

プログラム

—前半: 音声認識の基本技術—

8月23日 (月)

[13:00~17:00] ・音声認識の基礎 (講義・実習)

武田一哉 (名大), 峯松信明 (豊橋技科大)

8月24日 (火)

[9:00~12:00] ・HMMを用いた連続音声認識 (講義・実習)  
 峯松信明 (豊橋技科大)

[13:00~17:00]

・文脈依存型のHMMと状態のクラスタリング (講義・実習)  
 清水 徹 (KDD)

8月25日 (水)

[9:00~12:00]

・認識文法を用いた連続音声認識 (講義・実習)  
 伊藤克亘 (電総研)

—後半: 日本語ディクテーション基本技術—

8月25日 (水)

[13:00~17:00]

・ディクテーション技術の概要と動向 (講義)  
 鹿野清宏 (奈良先端大)

・音声/言語データベース (講義)  
 小林哲則 (早大), 竹沢寿幸 (ATR)

・形態素解析 (講義・実習)  
 山本幹雄 (筑波大), 伊藤克亘 (電総研)

8月26日 (木)

[9:00~12:00]



- ・形態素解析 (実習のつづき)
- ・統計的言語モデル (講義・実習)  
伊藤彰則 (山形大), 田本真詞 (NTT)

[13:00~17:00]

- ・統計的言語モデル (実習のつづき)
- ・大語彙連続音声認識システム (講義・実習)  
河原達也 (京大), 松岡達雄 (NTT)

8月27日 (金)

[9:00~12:00]

- ・大語彙連続音声認識システム (実習のつづき)



## 平成11年電気・情報関連学会 連合大会のご案内

標記連合大会が今年度も開催されます。聴講料は無料ですので、奮ってご参集ください。

日時 平成11年8月27日 (金) 10:00~17:10  
会場 機械振興会館 地下2Fホール (〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8. 地下鉄日比谷線神谷町駅下車, 徒歩5分)  
主催 (社)映像情報メディア学会, (社)電気学会, (社)電子情報通信学会, (社)照明学会, (社)情報処理学会  
統一テーマ 「マルチメディア・グローバル時代の教育」  
聴講費 無料 \*ご自由にご参加ください。  
予稿集 頒布価格:1,050円 (税込)  
照会先 (社)映像情報メディア学会連合大会係  
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館209号室  
E-mail:gyoji@ite.or.jp Tel(03)3432-4677  
Fax(03)3432-4675

### プログラム

[10:00~14:25] ●招待講演 (昼休憩 11:30~13:00)

司会:藤田欣裕 (NHK)  
挨拶:西澤台次 (NHK)

- (1) 変わるメディアと教育をめぐる課題  
清原慶子 (東京工科大)
- (2) 次世代インターネットに向けて (米国, アジアの状況)  
青山友紀 (東大)
- (3) 産学連携教育のあり方  
島田 彌 (三菱)
- (4) 技術者資格の国際標準化 (仮題)  
大中逸雄 (阪大)

[14:40~17:10] ●日本学術会議シンポジウム

「電力未来技術を探る」 司会:牛島和夫 (九大)

- (1) 米国および情報先進国における重点政策  
内田俊一 (日本情報処理開発協会)
- (2) 我が国の重点政策  
土居範久 (慶大)
- (3) 産と学の結合, 理系と文系の結合  
久保宏志 (富士通FIP)
- (4) 総合討論

## 第32回情報科学若手の会開催のご案内

テーマ:インターネット時代のプライバシー

—Big browser is watching you—

若手の会は分野を限定した普通の研究会やシンポジウムとは異なり, 情報科学に関係する学生や企業, 大学の若手研究者が集まり, 形式や成果に捕らわれず自由な討論を行う場です。今回は「法的整備」を含むテーマということで, 法律に携わる若手の方々にも参加していただきたいと考えております。

情報化の波は, 世の中に急速に広がってきており, コンピュータは教育の場でも生活の場でも次第に重要な位置を占めてきています。そのような時代の流れを背景に, ささまざまなテーマについて, 若い人ならではの斬新なアイデア, 時代の風潮に捕らわれない, 新鮮でユニークな考え方を出し合おうということが若手の会の目的です。

若手の会は以下のように行われています。

1. 活発な討論の中から若手研究者ならではの斬新な発想を生み出し, 情報科学・情報工学の新しい可能性を考え, 将来の夢を語り合う。
2. 専門分野だけでなく情報科学のさまざまな分野で活躍する若手どうしの討論を通して視野を広げる。
3. 専門分野にこだわらず, 情報科学の全般にわたる若手研究者の横の繋がりを広げる。

若手の会参加者全員が議論に参加することを目標とし, 研究会スタイル (発表および質疑) を取らずに, 前年度に引き続きディスカッション形式で会を進めます。昨年度は「21世紀の新しい計算機」というテーマで, モバイルコンピューティングネットワークスーパーコンピューティング, 増大する外部記憶装置, 人とコンピュータとのかわり, という話題で話し合いました。

今年は、「インターネット時代のプライバシー」というテーマで行います。管理者はどのような情報を手に入れることができるのかといった技術的なチュートリアルも含め, どんなOS/Networkが欲しいか, どんな法的整備が欲しいか, どのような管理体制が欲しいか, といったことについて議論したいと考えています。

詳細な話題は決めていません。会を進めていくのは, 参加者みなさんです。議論の中で新鮮なアイデアがあれば, 取り入れていこうと考えています。

詳細については若手の会のホームページ, <http://ipsj.or.jp/sympo/prosym.html>の若手の会の項目をご覧ください。参加申込みはホームページからでも可能です。

より多くの若手の皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

日時 平成11年8月28日 (土) ~30日 (月)

会場 ポートピア横浜

[横浜市中区山手町115 港の見える丘公園]

Tel(045)621-9684 Fax(045)621-6667 (宿泊もこちらです)

定員 30名

参加費 (宿泊費込)

大学生, 大学院生:12,000円 社会人:14,000円

主催 プログラミングシンポジウム委員会

参加申込 E-mail, ホームページから, Fax, 郵送のいずれかの方法で以下の各項目をお知らせください。

氏名 (男性・女性の別), 所属 (学生の場合は学年も), 連絡先 (住所, 電話番号, Fax番号, E-mail address), 喫煙・禁煙の別。

申込締切 平成11年7月31日 (土) (必着)

申込先 早稲田大学理工学部二村研究室 (59-406)  
若手の会幹事宛 E-mail:wakate99\_sanka@nak.ics.keio.ac.jp  
〒169-0072 東京都新宿区大久保3-4-1  
Tel/Fax (03) 5286-3339  
若手の会幹事 山口文彦, 山本真也, 菊地進一 (慶大), 白  
倉悟子 (津田塾大), 中村嘉志, 楯岡孝道 (電気通信大),  
寛 一彦 (早大)



### 「サマーワークショップ・イン・小樽」 論文・参加募集

ソフトウェア工学研究会では、1997年の「ウィンターワーク  
ショップ・イン・松山」を最初として、恵那、高知と、毎年ウ  
ィンターワークショップを開催し、テーマを絞った集中的な議  
論の場を持ってきました。本年は時期を夏に設定し、「サマー  
ワークショップ・イン・小樽」を開催する予定です。今年度は  
「要求工学」、「システム開発におけるコラボレーション/コン  
カレントエンジニアリング」、「ソフトウェアアーキテクチャ」  
等のテーマを設定する予定です。皆様の積極的なご参加をお待  
ちしております。

日 程 平成11年9月9日(木)・10日(金)  
会 場 小樽市民センター(北海道小樽市)  
主 催 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会  
テ ー マ 全体セッションと討論中心の下記テーマ別セッ  
ションを設けます。

#### (1) 要求工学

要求工学に関する研究トピックスは幅広く多種多様化して  
おり、この分野の研究をより活性化するために、ソフトウェア工  
学研究会では要求工学ワーキンググループ(WG)が設立され、  
高知におけるワークショップを経て現在に至っております。同  
WGでは共通例題「国際会議におけるプログラム委員会業務  
([http://www.selab.cs.ritsumei.ac.jp/~ohnishi/RE/problem.  
html](http://www.selab.cs.ritsumei.ac.jp/~ohnishi/RE/problem.html))」を設けており、ワークショップでは共通例題に参加者  
の研究を適用した成果を報告し、議論いたします。要求工学  
WGメンバー以外の方でも共通例題を元にした成果報告を条件に  
ご参加を募ります。

#### (2) システム開発におけるコラボレーション/コンカレントエ ンジニアリング

複数の人や組織が協調して行うシステム開発では、さまざま  
な観点からシステムの分析や設計が行われ、多種多様な形態で  
情報の交換と共有がなされます。これを効率的に支援するための  
方法論、モデリング技法、支援ツールなどを議論します。

#### (3) ソフトウェアアーキテクチャ

性能や信頼性等ソフトウェアの持つさまざまなアスペクト  
と、ソフトウェアアーキテクチャとのかかわり合いについて議  
論するとともに、開発において各アスペクトをどのように捉え、  
記述し、アーキテクチャ設計に反映させていくか等について具  
体的に考えます。

参加費 会員:33,000円, 登録会員:30,000円

学生:20,000円(予定), 非会員:35,000円

(論文集代, 宿泊, 懇親会費を含む。)

応募要領 参加ご希望の方は、ポジションペーパー(A4判用紙  
2ページに参加希望テーマ名, 自己紹介(立場を含む), 何  
を議論したいか, どういう問題意識を持っているかなどを,  
情報処理学会論文誌原稿形式に準拠して書いてください  
(共著可)。3部に通常の研究発表申込書を添えて提出く

ださい。電子メール(LaTeX, テキスト, またはPSファイ  
ル)での応募を歓迎いたします。予稿集用に体裁を整える  
等のために、ポジションペーパーの最終版の作成をお願いす  
ることがあります。

スタイルファイルは<ftp://ftp.ipsj.or.jp/pub/toukou/>も  
しくは<http://www.ipsj.or.jp>で論文誌のページをたどった投  
稿案内のページにあります。LaTeXで作成されない方は情  
報処理学会論文誌を参考にされ、できるだけ体裁を合わせ  
てください。この場合はハードコピーを郵送またはPSフ  
ァイルを電子メールでご提出ください。

申込/照会先 岸 知二(NEC)

〒108-8557 東京都港区芝浦2-11-5 NEC五十嵐ビル

NECソフトウェアデザイン研究所システムデザイン技術部

E-mail:kishi@ccs.mt.nec.co.jp

Tel(03)5476-1089 Fax(03)5476-1113

\*お問い合わせ等は電子メールの利用を希望いたします。

スケジュール

応募締切:平成11年7月16日(金) 必着

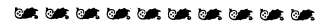
採否通知:平成11年7月30日(金)

ポジションペーパー最終版:採択の方に追ってご連絡します。

\*最終原稿は通常の研究会と異なりA4判用紙2ページのポジションペ  
ーパーとします。

\*参加費等, 最新の情報はホームページでご確認ください。

<http://www.comp.ae.keio.ac.jp/lab/ijima/sigse.html>



### 「コンピュータセキュリティシンポジウム'99 (CSS'99)」論文/参加募集

コンピュータセキュリティ研究会では、北陸先端科学技術大  
学院大学の共催、電子情報通信学会北陸支部の協賛により、第  
2回のコンピュータセキュリティシンポジウム'99(CSS'99)を  
下記の要領で開催いたします。

本シンポジウムは、コンピュータセキュリティの基礎となる  
理論、技術、通信プロトコル、コンピュータアーキテクチャ、  
オペレーティングシステム、アプリケーション、応用事例、管  
理運用、さらに社会科学的考察までの幅広いセキュリティに関  
連する内容の研究、技術の発展および普及、ならびに国内外の  
研究者、技術者相互の連絡および協力を促進することを目的と  
してあります。

以下をご覧のうえ、奮ってご応募ご参加ください。

日 程 平成11年10月21日(木)・22日(金)  
会 場 ホテル日航金沢(石川県金沢市本町2-15-1,  
Tel(076)234-1111 Fax(076)234-8802)

主 催 情報処理学会 コンピュータセキュリティ研究会  
共 催 北陸先端科学技術大学院大学  
協 賛 電子情報通信学会 北陸支部

#### 論文募集要項

1. テーマ (A) OSセキュリティ (B) ネットワークセキュ  
リティ (C) データベースセキュリティ (D) アクセス制  
御 (E) 個人識別, 認証 (F) 暗号 (G) セキュリティ評  
価・監査 (H) ウィルス対策 (I) 不正アクセス対策 (J)  
セキュリティ教育 (K) ソフトウェア保護, プライバシ保  
護 (L) 不正/有害情報のフィルタリング(PICISなど) (M)  
その他

## 2. スケジュール

発表申込締切(アブストラクト)：平成11年8月16日(月)

原稿締切日(カメラレディ)：平成11年9月14日(火)

\*8月中旬にCSS'99ホームページに執筆要項(カメラレディ)を掲載します。

\*論文集は提出原稿をそのままオフセット印刷します。

\*1件あたり、最大6ページです。

3. 申込方法 発表申込は、発表申込書に必要事項(申込日付、発表題目(和文・英文)、著者氏名・所属(和文・英文、登壇者に○印を付けてください)、概要(100~150字程度)、関連分野を3つ上記テーマより選択(ただし(M)を選択された方は詳細を明記願います)、連絡先(氏名、所属、E-mail、Tel、Fax、〒、住所))を記入の上、講演者の参加申込書とともに、8月16日(月)までに下記照会先(参加申し込みに関する事、その他)までお送りください。現在CSS'99ホームページからも申し込み受付中です。詳細はCSS'99ホームページをご覧ください。  
(<http://grampus.jaist.ac.jp:8080/css99/>)

\*講演者は必ず別刷をお買い求め願います。  
(別刷：4,500円/30部)

## 参加申込

1. 参加申込方法 参加申込書(CSS'99ホームページまたは下記照会先より入手してください)に必要事項を記入し参加費送金(郵便振替口座：00790-0-18087 CSS'99事務局)後に申込書をご送付ください。

\*できるだけwebからのお申し込みをお願いいたします。

## 2. スケジュール

参加申込特別価格締切：平成11年8月31日(火)

ホテル日航金沢宿泊申込締切：平成11年8月31日(火)

\*宿泊申込および宿泊費は、ホテル日航金沢に直接お願いします(ホテルでは、CSS'99のための破格の割引をしてくださるようです。宿泊の予約をされる場合にはコンピュータセキュリティシンポジウム'99の参加者であることをホテルにお伝えください)。

## 3. 参加費

8月31日(火)までに払い込みの場合

会員：10,000円 非会員：12,000円 学生：6,000円

9月1日(水)以後に払い込みの場合

会員：11,000円 非会員：12,000円 学生：7,000円

(いずれも論文集代を含む)

懇親会費：6,000円

論文集のみ：6,000円(送料込)

## 照会先

○参加申込に関する事、その他

〒923-1292 石川県能美群辰口町旭台1-1

北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 岡本栄司

E-mail:okamoto@jaist.ac.jp

Tel(0761)51-1285 Fax(0761)51-1149

○論文募集に関する事

〒923-1292 石川県能美群辰口町旭台1-1

北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 宮地充子

E-mail:miyaj@jaist.ac.jp

Tel(0761)51-1286 Fax(0761)51-1149

\*なるべくE-mailまたはFaxをお願いします。

## CSS'99実行委員

実行委員長：岡本栄司(JAIST)

顧問：武部 幹(金沢工大)

企画・プログラム：林 彬(金沢工大)

投稿先：宮地充子(JAIST) 会場：永瀬 宏(金沢工大)

会計：千石 靖(金沢工大) 登録：双紙正和(JAIST)

印刷：佐々木良一、寺田真敏(日立)

広報：多田 充(JAIST)



## 「2000年情報学シンポジウム」論文募集

—ネットワーク型情報メディアの活用と情報を活かす新技術—

本シンポジウムは、ネットワーク化社会における情報の円滑な流通と高度な利用の促進を目的に、1984年以来毎年開催して参りました。例年、研究・開発者と利用者が交流し、情報・知識の利用に関するアイデアや知見を交換する場として、多くの方々に参加いただいております。本年度も、日本を代表する研究者・技術者を招待して、上記テーマに関する最新の研究開発状況と今後の課題・展望を講演いただくとともに、以下の要領で論文を募集する運びとなりました。多数の論文のご投稿をお待ちしております。

日 時 平成12年1月13日(木)9:30~17:00

14日(金)9:30~17:00

会 場 日本学術会議講堂(東京都港区)

共同主催(予定) 日本学術会議(情報学研究連絡委員会、情報工学研究連絡委員会)、情報処理学会(情報学基礎研究会)、人工知能学会、日本医学会、日本化学会、日本数学会、日本地理学会、日本物理学会、情報知識学会、日本生物物理学会、日本ソフトウェア科学会

後 援(予定) 科学技術振興事業団、化学情報協会、学術情報センター、計測自動制御学会、国際電信電話、情報科学技術協会、情報通信学会、電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本機械学会、日本金属学会、日本原子力学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本社会情報学会、日本生化学会、日本電信電話、日本動物学会、日本農学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会

## 論文募集要項

トピックス 近年インターネットを始めとする情報ネットワークが急速に整備され、企業活動から日常生活にいたるまで幅広く利用されるようになってきた。一方、情報を分かりやすく提示する情報可視化技術や大量の情報から有用な情報を引き出す知識発見・情報抽出などの技術も盛んに研究されてきている。これらの技術はまだ広く用いられるにはいたっていないが、そのひとつの要因は、技術の研究者が現実のニーズを把握しきれていないこと、また、利用可能な技術の情報が利用者やシステム設計者に届いていないことにあると考えられる。そこで、今回のシンポジウムでは、情報の有効利用にかかわるトピックスを、情報処理・知識処理などの技術的側面から、あるいは社会科学的・教育学的側面等から取り組んだ論文を幅広く募集する。システムの運用に基づく問題提起なども歓迎する。中心とするトピックスは以下の通りであるが、本シンポジウムのテーマに沿った論文であれば下記以外でも構わない。また、発表内容はシンポジウムの趣旨に沿うものであれば既発表であっても構わない。

(1) 情報の活用を支援する技術：知識発見、情報抽出、加工、分類・体系化、情報の可視化、情報検索・フィルタリング、エージェントなど

- (2) ネットワーク型情報メディアを活用したシステムおよび運用事例：医療・福祉，電子図書館，教育，行政，サービス，電子商取引，ナレッジマネジメント，情報共有，グループウェアなど
- (3) ネットワーク化社会を支える社会制度・環境の整備：著作権，セキュリティ，情報リテラシーの教育など

投稿論文には、「情報セキュリティの理論とその応用」特集と朱書きしてください。  
 特集号予定 2000年8月



## 支部だより

**応募方法** ワードプロでA4用紙8枚以内の論文と題目，氏名，連絡先，職名を明記した別紙を添えて下記へ申し込むこと（発表者に○印を記入）。なお，未発表の原稿を本シンポジウムと共催学会の論文誌などへ並行して投稿することも，当シンポジウムとしては妨げない。

\*「情報学会論文誌:データベース」への投稿に関しては，<http://www.mdbl.sfc.keio.ac.jp/IPJSJ-DBS/Paper/>をご参照ください。

### スケジュール

- (1) 論文応募締切 平成11年9月3日（金）必着  
 (2) 採否通知 平成11年10月12日（火）までに発送  
 (3) 最終原稿締切 平成11年11月26日（金）  
 申込/照会先 情報処理学会 調査研究担当（シンポジウム係）

### 参加費（論文集代として）（予定）

共催学協会員：10,000円 学生：3,000円  
 非会員：15,000円

シンポジウム実行委員会 情報処理学会 情報学基礎研究会  
 実行委員長 仲尾由雄（富士通研）  
 E-mail:nakao@flab.fujitsu.co.jp  
 プログラム委員長 金田 泰（日立）  
 E-mail:kanada@crl.hitachi.co.jp



## 情報処理学会論文誌 「情報セキュリティの理論とその応用」特集 への論文投稿のご案内

### 論文誌編集委員会

情報処理学会の論文誌において，下記の要領で「情報セキュリティの理論とその応用」をテーマに特集号を企画しております。情報処理技術と通信技術の発展により生まれた情報環境を安全な電子空間とするための，基礎となる理論・技術，通信プロトコル，コンピュータアーキテクチャ，オペレーティングシステムの研究，およびそのアプリケーション，実装例，管理運用，さらに社会科学的考察をも含めた特集であります。研究会，シンポジウム，国際会議等で発表された論文や新規の論文を幅広く募集いたします。奮ってご投稿ください。

### 投稿要領

**論文の執筆要領** 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内によります。論文投稿規約は「情報処理」1999年1月号に掲載されています。

**査読手続き** 通常の論文誌投稿論文と同一ですが，特集号編集期限の関係上，著者への照会期間は通常（3カ月）より短縮されますので，投稿に際しあらかじめご了承ください。

**投稿締切** 1999年11月30日（火）

### 情報処理学会支部連絡先

- 北海道支部**：北海道大学工学部情報工学科内  
 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目  
 E-mail:ksaito@eng.hokudai.ac.jp Tel(011)706-6819  
 Fax(011)706-6819
- 東北支部**：東北大学大学院情報科学研究科内  
 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉  
 E-mail:hanyu@kameyama.ecei.tohoku.ac.jp  
 Tel(022)217-7153（直通） Fax(022)263-9401（直通）
- 東海支部**：（株）NTTデータ東海支社内  
 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-17-21 NTT DATA東銀ビル  
 E-mail:t-ipsj@tcp-ip.or.jp Tel(052)204-4517  
 Fax(052)204-4521
- 北陸支部**：富山県立大学工学部  
 〒939-0398 富山県射水郡小杉町黒河5180  
 E-mail:ataka@pu-toyama.ac.jp  
 Tel(0766)56-7500（ext.181） Fax(0766)56-8044
- 関西支部**：（財）関西情報センター内  
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8F  
 E-mail:info-soci@kiis.or.jp  
 Tel(06)6346-2543 Fax(06)6346-2443
- 中国支部**：NTTコミュニケーションウェア（株）  
 中国支社事業推進担当内  
 〒733-8645 広島県広島市西区商工センター2-6-1  
 E-mail:yoshioka@chugoku.nttcom.co.jp Tel(082)276-8702  
 Fax(082)276-8765
- 四国支部**：高知工科大学情報システム工学科内  
 〒782-8502 高知県香美郡土佐山田町宮ノ門185  
 E-mail:iwata@info.kochi-tech.ac.jp Tel(08875)7-2217  
 Fax(08875)7-2220
- 九州支部**：（株）NTTデータ九州支社 総務担当内  
 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1-17-21  
 NTT DATA博多駅前ビル  
 E-mail:bsarigam@bs.kyr.nttdata.co.jp Tel(092)475-5123  
 Fax(092)475-5185

\*各支部の最新情報は<http://www.ipsj.or.jp>からリンクしています。

### 東海支部 講演会

**日時** 平成11年6月26日（土）14：00～15：30  
**会場** 名古屋工業大学電気情報工学科3棟会議室（名古屋市昭和区御器所町）  
**演題** エージェントモデルとその応用  
**講師** 伊藤暢浩（名工大）  
**参加費** 無料（参加資格不問）  
**照会先** 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学電気情報工学科 陳 慰  
 E-mail:chen@elcom.nitech.ac.jp Tel(052)735-5452

### 中国支部 第5回電磁界の健康影響に関するシンポジウム

**日時** 平成11年7月13日（火）13：00～17：00  
**会場** 広島県民文化センター（広島市中区大手町1-5-3）

主催 電気学会 電磁界生体影響問題調査特別委員会  
共催 電気学会, 電子情報通信学会, 映像情報メディア  
学会, 照明学会, 情報処理学会, 計測自動制御学会 各中  
国支部, 中国・四国工学教育協会産業教育部会

定員 300名(先着順に申込受付)

参加費 2,000円(資料代として)

プログラム(予定)

○第1部:講演(13:00~14:50)

(1)電磁界問題の研究状況(開会挨拶)(30分)

関根泰次(東京理科大)

(2)身の回りの電磁界(40分)

伊坂勝生(徳島大)

(3)電磁界の健康影響(40分)

武部 啓(近畿大)

○第2部:解説コーナー(15:10~16:50)

「電磁界の健康影響の疑問に答える」司会:宅間 薫(京大)

伊坂勝生(徳島大), 笹野隆生(電力中研)

多気昌生(東京都立大), 東 敏昭(産業医科大)

宮越順二(京大)

○開会挨拶:宅間 薫

申込方法 A4判大の用紙に氏名(ふりがな), 連絡先(勤務  
先または連絡先住所, 電話番号), 参加費払込方法(現金  
書留による送金か, シンポジウム当日会場払い)を記入し,  
郵送またはFaxで下記照会先に申し込みのこと。

申込締切 平成11年6月29日(火)

照会先 電気学会電磁界生体影響問題調査特別委員会シン  
ポジウム事務局 Tel(03)3221-7313 Fax(03)3221-3704

九州支部 電気関係学会九州支部52回連合大会講演  
募集

日程 平成11年10月2日(土)・3日(日)

会場 九州工業大学工学部(北九州市戸畑区仙水町1-1)

主催 電気学会, 電子情報通信学会, 映像情報メディア  
学会, 照明学会, 情報処理学会, 電気設備学会, 日本音響  
学会 各九州支部

講演募集要項

○講演者 主催学会会員に限る(当支部所属に限らない)

○講演内容 最近行った研究, 計画および工事報告, 現地試  
験報告, 新製品の紹介など。

○講演方法

(1)1件10分以内(ただし都合により多少の短縮有り)。

\*講演募集の結果によっては然るべき件数を選択してシン  
ポジウム形式の講演とすることがある。

(2)OHPによる講演を原則とする。スライド使用不可。

(3)使用言語は日本語を原則とするが, 英語でも可。

○講演申込方法

(1)原稿は必ず当会所定の「原稿用紙」を使用すること。  
(オフセット印刷, 図面・表を含むA4判1頁とする)

(2)「原稿用紙」, 「講演申込書」は申し出により交付。

「原稿用紙」等 1部:100円

\*郵送の場合は1部250円, 2部以上のときは1部増すごと  
に150円増の郵便切手を送付のこと。

(3)「原稿」および「講演申込書」提出締切日

平成11年7月30日(金)午後5時 必着

○講演申込費 講演1件につき4,000円

講演者には論文集を1部大会当日受付にて贈呈する。別刷  
りの申し込みには応じない。振替郵便(下記参照)で講演  
申込費を支払う場合は, 論文申込時に振替払込書の受領書  
のコピーを必ず同封のこと。

申込/照会先 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学  
大学院システム情報科学研究科電気電子システム工学専攻

内 電気関係学会九州支部連合会

Tel(092)642-3960 Fax(092)642-3961

振替口座番号:01780-2-33001

加入者名:電気関係学会九州支部連合会



## 会議案内(協賛・後援)

◆:本会協賛・後援 1.開催日 2.会場 3.照会先 4.その他

【国内会議】

◆日本物理学会講習会99年度科学セミナー「生命力のみなもとー生体  
エネルギーへの物理的アプローチ」

1.平成11年7月22日(木)~23日(金)

2.野口英世記念会館(都内新宿区)

3.(社)日本物理学会 Tel(03)3434-2671

◆TC(テクニカルコミュニケーション)シンポジウム'99

1.平成11年9月2日(木)~3日(金) 2.工学院大(都内新宿区)

3.テクニカルコミュニケーター協会 Tel(03)3368-4607 Fax3368-5087

E-mail:jtca@j-way-www.j-way.net

◆トライボロジー会議'99

1.平成11年10月27日(水)~29日(金)

2.香川県民ホール(高松市)

3.(社)日本トライボロジー学会 Tel(03)3434-1926 Fax3434-3556

http://www.mep.titech.ac.jp/Nakahara/Jast/

◆第19回医療情報学連合大会

1.平成11年11月25日(木)~27日(土)

2.パシフィコ横浜(横浜市西区)

3.池田(北里大内) Tel(042)778-9652 Fax778-9654

E-mail:iked@kitasato-u.ac.jp

◆第9回設計工学・システム部門講演会

1.平成11年11月29日(月)~12月1日(水)

2.阪大コンベンションセンター(大阪市)

3.(社)日本機械学会会長 Tel(03)5360-3500 Fax5360-3508

【国際会議】

◆The 5th IFIP Conference on Intelligence in Networks

(SMARTNET '99)

1.平成11年11月22日(月)~26日(金) 2.タイ国

3. http://www.cs.ait.ac.th/smartnet99

ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト アジア地区予選京都  
大会

1.平成11年12月3日(金)~4日(土)他 2.京都市サテライトパーク

3. http://www.isse.kuis.kyoto-u.ac.jp/acm-japan/

The 15th International Conference on Pattern Recognition

1.平成12年9月3日(日)~8日(金) 2. Hotel Barcelo Sants

3. http://www.cvc.uab.es/icpr2000

◆第7回西太平洋地区音響学会議(WESTPRAC VII)

1.平成12年10月3日(火)~5日(木) 2.メルパルク熊本(熊本市)

3.事務局(熊本大内) Tel(096)342-3621 Fax342-3630

E-mail:westprac7@cogni.eecs.kumamoto-u.ac.jp



## その他のお知らせ

○「第34回科学技術情報振興賞受賞候補者」募集

情報科学技術の分野で優れた業績を上げられた方に対して, 論文賞,  
研究会優秀論文賞, 功績賞をもって表彰します。詳細は下記照会先  
にお問合せのうえ, 関係機関, 学識経験者の推薦または本人の申請に  
よりご応募ください。

応募締切 平成11年7月15日(木)

照会先 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3

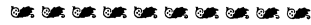
科学技術振興事業団情報提供部内「科学技術情報振興賞」事務局

E-mail:komori@jst.go.jp Tel(03)5214-8411 Fax(03)5214-8410

○「科学技術融合振興財団平成11年度助成金」のお知らせ

国内の大学・研究所等の非営利の研究機関に属する研究者を対象に、シミュレーション&ゲーミングに関する調査研究等への助成を行っています。詳細は下記照会先にお問合せください。

応募締切 平成11年10月15日(金)  
照会先 〒223-0062 横浜市港北区日吉本町1-4-24  
(財)科学技術融合振興財団 丸山  
E-mail:kys01311@nifty.ne.jp  
Tel(045)562-5432 Fax(045)562-6132



会員の皆様へのお知らせ・お願い

●会費、論文誌購読費および研究会登録費のご納入について

本年度の会費、論文誌購読費および研究会登録費をまだご納入いただいていない会員(一括扱いを除く)の方は、お早目にご納入ください。

\*口座自動振替登録会員の方へ

3月に振替未済の方および新規申込の方は、7月27日(火)に振替をいたします。残高をご確認いただき振替額不足にならないようご注意ください。

●会費、論文誌購読費および研究会登録費の口座自動振替納付のご利用について

個人会員(一括扱いを除く)の方は、銀行または郵便局の口座をご登録いただければ、会費、論文誌購読費および研究会登録費を毎年3月(または7月)27日(土日、祝祭日の場合は翌営業日)にご指定の口座から自動振替により納入することができます。次年度から自動振替を希望される会員の方は、下記申込方法をご参照のうえ11月末日までにお申し込みください。

\*\*\*申込方法\*\*\*

1. 都市銀行、地方銀行、信託銀行、信用金庫、労働金庫、外国銀行(日本国内支店)(信用組合、農協は除く)

(1)「預金口座振替依頼書」(Vol.40 No.3付録会告掲載)にご記入、ご捺印のうえ下記照会先へご郵送ください。

(2)記入要領 依頼書をご参照ください。

(3)通帳への記載事項

「ダイヤモンドファクター」「コウザフリカエ」または「DF・ジヨウシヨカイヒ」と印字されます。

2. 郵便局

(1)お近くの郵便局に通帳、印鑑をご持参いただき郵便局備付けの「自動振込利用申込」に必要事項(下記参照)をご記入のうえ窓口へ提出してください。

(2)必要事項

- ・振込先口座番号:00150-4-83484
- ・振込先加入者名:社団法人 情報処理学会
- ・振込開始月:3月または7月
- ・払込日:27日
- ・払込金の種類:会費 33
- ・料金等支払人:会員の住所、氏名、電話番号(口座名義人と同一の場合省略可)
- ・備考:会員番号

(3)通帳への記載事項

「会費 ジヨウシヨガツカイ」と印字されます。

\*会費以外(論文誌購読費および研究会登録費)の場合でも、同様に印字されます。

\*口座変更や口座自動振替中止の場合はすみやかに、下記照会先までご連絡ください。

なお、口座変更は新規登録と同様の手続きとなります。

●学生会員から正会員へ継続登録の皆様へ‘特典’

学生会員の皆様に引き続き学会活動を継続していただくため、下記の特典を設けました。ぜひ、本制度をご活用いただき、学会活動にお役立てください。

特典:全国大会(秋・第59回、春・第60回)の聴講参加章引換券を無料配付

対象者:平成11年3月卒業の学生会員の方で平成11年度正会員費を納入の方

●「会員証」の発行および会員データの確認について

本年度より会員証を毎年発行いたします。会員特典・本主催行事参加の際にご利用ください。同時に会員登録データの確認をさせていただきますので、データ確認書を6月30日(木)までにご返送ください。ご協力をお願いいたします。詳しくは「会員証」と同封の文書をご参照ください。

●会員名簿(平成11年版)の発行について

本年12月に会員名簿(平成11年版)を発行いたします(8月末現在のデータ利用)。詳細は会員証に同封の予約申込書等をご参照ください。

・発行形態(2種):A4版冊子、CD-ROM版(ソフト付き)

・予約価格:各1部 7,770円(定価10,500円)

消費税、送料込

・予約申込締切日:平成11年9月30日(木)必着

\*会員の方以外へは販売いたしません。また、専用申込書のみ受付となり、予約締切を過ぎた場合は定価頒布となりますのでご注意ください。

●機関誌・会員証などの未着について

「転居先不明」「転送期間経過」「該当者なし」等の理由により、郵便物が戻ってくる場合がありますのでお近くに機関誌や会員証が届かないという方がいましたら、下記照会先までご連絡いただきますようお願いください。

●会員資格について

会員資格は毎年自動継続になっております。退会を希望される会員の方は、退会届(会員番号・氏名・退会年月・退会希望の旨とその理由を明記したもの)を書面等にて照会先にご提出ください(E-mail、Fax可)。

照会先 情報処理学会 会員担当

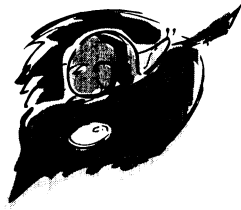
寄贈図書一覧

(99-26) 佐々木良一(著):“インターネットセキュリティ入門(岩波新書・新赤版606)”, 206p, (株)岩波書店, (1999-3):660円+税

(99-27) 藤本正友(著):“マルチメディア世代に向けてー光通信の舞台裏ー(ポピュラー・サイエンス203)”, 114p, (株)裳華房, (1999-4):1,300円+税

(99-28) 株式会社プリリアント・スタッフ, 永村弘道, 水田巴(著):“Oracle 8 Workgroup Server ー導入編ー”, 244p, (株)ソフト・リサーチ・センター, (1999-4):2,800円+税

(99-29) 鈴木昭男(著):“実践!! データベース設計バイブル”, 280p, (株)ソフト・リサーチ・センター, (1999-4):2,800円+税



## 第41回 通常総会

### 目 次

1. 平成10年度事業報告書
2. 平成10年度決算報告書
  - 2.1 一般会計
  - 2.2 特別会計
  - 2.3 規格会計
  - 2.4 総括表
3. 平成11年度事業計画書
4. 平成11年度収支予算書
5. 定款改訂について
6. 会費滞納会員の取り扱いについて
7. 名誉会員について
8. 平成11年度役員改選について

平成11年5月20日（木）午後4時から約2時間30分にわたり、第41回通常総会をニューサテライトホテル芝浦で開催した。

出席者5,246名（うち委任状5,169名、定款第39条による総会成立定数3,709名）。定款に基づき戸田会長を議長に、坂井理事を司会者として、下記の議案につき提案審議を行い、異議なく了承された。

- 第1号議案 平成10年度事業報告
- 第2号議案 平成10年度決算報告
- 第3号議案 平成11年度事業計画について
- 第4号議案 平成11年度予算について
- 第5号議案 定款等の改訂について
- 第6号議案 会費滞納会員の取り扱いについて
- 第7号議案 名誉会員について
- 第8号議案 平成11年度役員改選について

上記の第7号議案の名誉会員については、和田英一、中澤喜三郎および野口正一の3名が推挙され、引き続き平成10年度功績賞が高橋延匡、藤野喜一、牛島和夫および石田晴久の4名に贈呈された。

続いて、平成10年度論文賞が高橋大介（東大）ほか20名（5編）に、同Best Author賞が重近範行（慶大）ほか9名（5編）に、同坂井記念特別賞が松岡 聡（東工大）ほか3名にそれぞれ授与された（本誌巻頭参照）。

総会終了後、坂井元会長の乾杯の音頭により懇親パーティーを開き、元会長・副会長の他多数の旧役員、先輩を囲み、会員一同の親交を深めた。

## 1. 平成10年度事業報告書

### 1. 概 況

平成10年度は、将来ビジョンを具体的な姿で実現する諸施策を設定し、実行に移した。ここ数年の課題である会員減少に歯止めをかけるところまでの効果はまだみえていないが、学会の活動は以下のように各方面で活発化した。

新入会者は正会員は714名、学生会員は768名の増加をみたが（当初目標値は各1,000名）、退会者が予想以上の1,691名となったため増加分を相殺し、これに除名者692名が加わったため、年度末の総会員数は昨年度末の27,839名に比べて903名減の26,936名となった。これに対応する学会運営の仕組みとして、会員増強委員会を理事会のもとに設置し、会員増強のための諸施策を打ち出したほか、会員の満足度調査などの新規施策を実施する段階まで漕ぎ着けた。

会誌については、編集長制度を導入するとともに内容を充実させ、見やすいページレイアウトを行うなど、紙面の刷新を大いに図った。

また、論文誌では、査読制度の改善により査読期間が短縮したため、投稿、採録原稿数が前年比30%以上と大幅に増加した。

事業活動では、57回全国大会の参加者は1,519名、発表論文数は925件、58回全国大会の参加者は1,794名、発表論文数は840件であった。いずれも論文数が1,000件未満に止まったものの、21世紀に向けての招待・特別講演、公開パネル討論などを行い、これは活発であった。58回大会は、ベンチャーソフトウェアコンテストという新しい企画を盛り込み、好評を得た。連続セミナーは、実務者を中心に前年同様多くの聴講者を集め（参加者数189名）、技術の普及のみならず、学会の収支改善に大きく貢献した。

研究会活動は、登録者数は横這い（前年度比42名減の10,583名）であったが、研究会数は2研究会増え、研究発表会も活発であった。また、初めて研究会論文誌が4冊発行された。研究会開催のシンポジウムも多数の参加者を集めた（前年度比413名増の2,670名）。

国際活動は、一段と活発化した。IFIP、SEARCC活動のほか、IEEE-CSおよび韓国情報科学会KISSとの協定改訂などにより、相互協力を一段と強化する仕組みができた。また全国大会の場でIEEE-CS会長の講演会を開催した。

規格活動では、JTC1仙台総会の招致、ここでのリエンジニアリングの結論に基づいた組織の統廃合、デファクトスタンダードのISへの取込みを狙ったPAS制度の本格運用に向けてのガイドラインの見直し、JTC1投票案件の電子投票開始など、時代の要請に合った効率化とスピード化を行った。

当学会のプレゼンス向上に繋がるものとして、文部省高等教育局からは、「大学等の情報専門学科における情報処理教育の実態に関する調査研究」を、また、通商産業省からは「工学教育の外部認証制度（アクレディテーション）の導入促進に関する調査」の委託を受け、報告書を作成・提出した。

その他、理事会では総会に提案するべく定款の改訂審議を行った。また、情報処理教育委員会を理事会直属機構として常置化し、継続的な活動を行うこととした。

## 2. 会 員

平成11年3月31日（平成10年度末）現在の会員状況は、次の通りである。

|                          | 9年度末       | 10年度入会         | 退会               | 除名  | 10年度末      |
|--------------------------|------------|----------------|------------------|-----|------------|
| 名誉会員                     | 29         | 正→名 3          | 2                |     | 30         |
| 正会員                      | 26,101     | 714<br>学→正 640 | 1,525<br>正→名/外 5 | 692 | 25,233     |
| 学生会員                     | 1,706      | 768            | 164<br>学→正 640   | 3   | 1,667      |
| 海外会員                     | 3          | 1<br>学→正 640   | 0                | 0   | 6          |
| 会員合計                     | 27,839     | 2,128          | 2,336            | 695 | 26,936     |
| 賛助会員<br>(上段：社数<br>下段：口数) | 415<br>535 | 24<br>46       | 26<br>39         | 0   | 413<br>542 |

## 3. 第40回通常総会

平成10年5月20日（水）午後4時から1時間40分にわたり、ニューサテライトホテル芝浦（東京都港区芝浦）において、第40回通常総会を開催した。出席者は5,429名であった（うち委任状による出席は5,367名、定款第39条による総会成立定数は3,734名）。定款第36条にもとづき、戸田会長を議長として、下記の議案を審議し、異議なく承認された。

- 第1号議案 平成9年度事業報告について
- 第2号議案 平成9年度決算報告について
- 第3号議案 平成10年度事業計画について
- 第4号議案 平成10年度予算について
- 第5号議案 会費滞納会員の取扱について
- 第6号議案 名誉会員について
- 第7号議案 平成10年度役員改選について

上記第6号議案の名誉会員には、関本忠弘、室賀三郎および山田博の3名が推挙され、引続き平成9年度功績賞が淵一博および野口正一の2名に贈呈された。また、平成9年度論文賞を堂坂浩二（NTT）ほか3編（12名）に、Best Author賞を菊井玄一郎（NTT）ほか5編（6名）に、坂井記念特別賞を神場知成（NEC）ほか3名にそれぞれ授与された。

総会終了後、尾関元会長の乾杯の音頭により懇親会を開き、元会長・副会長ほか多数の旧役員、先輩を囲み、会員一同の親交を深めた。

## 4. 会議の開催

### 4.1 理事会

平成10年4月開催の第430回理事会以降、平成11年3月までに11回開催した。同年度内の役員は次の通りである(○：平成10年5月新任)。

会長 戸田 巖  
副会長 堀越 彌 ○松下 温  
常務理事 片岡雅憲 齋重壽和 坂井邦夫 阪田史郎  
鈴木健二 東田正信  
理事 水野忠則 宮原秀夫 ○江原暉将 ○大河内正明  
○大崎和仁 ○釜江尚彦 ○河田 亨 ○富田眞治  
○西尾章治郎 ○宮西洋太郎 ○吉澤康文  
監事 林 弘 ○増永良文

### 4.2 支部長会議

年2回、平成10年7月23日(木)および平成11年3月9日(火)に開催し、各支部の活動報告、本部、支部間の意見交換を行った。

### 4.3 企画検討会

学会運営の基本的方針を検討するため、平成10年5月、会長を座長とする企画検討会が発足し、年度内に4回開催し、定款改訂、支部強化・支援策、ボランティア活動、フェロー制度等について検討を行い、方針を決定した。

### 4.4 NGI特別委員会

次世代インターネット利用環境のビジョン策定、政策提言等を行うためのNGI特別委員会が発足し、堀越副会長を委員長として平成10年7月に発足し、年度中4回会議を開き、11年4月理事会に報告書を提出した。

### 4.5 論文・研究会調整委員会

研究会論文誌の発行に伴う、従来の論文誌との役割分担調整、長期的な論文誌の在り方等を検討するため、論文・研究会調整委員会が発足し、松下副会長を座長として平成10年7月に発足し、年度中3回会議を開催した。

## 5. 定款の改訂

当学会の取り扱う技術および事業の範囲が時代とともに変遷してきたため、定款に記載されている目的および事業の記載を変更する必要があること、また、総会の成立要件等を監督官庁からの指導に沿ったものとするため、代表会員制度を取り入れることとしたこと等から定款を改訂することとし、年度始めから作業を開始、企画検討会および理事会で審議を重ね、平成11年3月、最終案について理事会の承認を得た。同時に施行される代表会員選出規程(案)および一般規則(案)とともに第41回総会にかけることとした。

## 6. 表彰

### 6.1 功績賞

功績賞委員会(委員長 堀越副会長)において、平成10年度功績賞を次の4名に贈呈することとした(会員番号順)。

高橋延匡(拓殖大) 藤野喜一(創価大) 牛島和夫(九大)  
石田晴久(アスキー)

### 6.2 論文賞

論文賞委員会(委員長 堀越副会長)において、平成10年度論文賞として下記論文5編(21名)を選定した。

- ・分散メモリ型並列計算機による円周率の515億桁計算 (Vol.39, No.7) 高橋大介, 金田康正(東大)
- ・細粒度リポジトリに基づいたCASEツール・プラットフォームSapid (Vol.39, No.6) 福安直樹, 山本晋一郎, 阿草清滋(名大)
- ・オンチップ制御並列プロセッサMUSCATの提案 (Vol.39, No.6) 鳥居 淳(NEC), 近藤真己(NEC情報システムズ) 本村真人(NEC), 池野晃久(NEC情報システムズ) 小長谷明彦(北陸先端大), 西 直樹(NEC)
- ・クライアントにフォントを必要としない多言語HTML文書ブラウジングシステム (Vol.39, No.3) 前田 亮(奈良先端大) Myriam Dartois, 太田 純(図書館情報大) 藤田岳久(共立女子大)
- ・内容と構造を対象としたKJ法B型文章評価方法の提案と適用 (Vol.39, No.7) 阪口哲男, 杉本重雄, 田畑孝一(図書館情報大) 八木下和代(日本IBM), 宗森 純(阪大) 首藤 勝(大阪工大)

### 6.3 Best Author賞

会誌編集委員会(委員長 石田編集長)が発足委員会となり、平成10年度Best Author賞として下記5編(10名)を選定した。

- ・長野オリンピックのネットワークと情報提供システム (Vol.39, No.2) 重近範行, 中村 修(慶大)

- ・笹川信義(長野冬季オリンピック組織委員会), 村井 純(慶大)
- ・近似アルゴリズムに関する最近の話題 巡回セールスマン問題の近似アルゴリズム: 天才アローラによる20年ぶりの急進展 (Vol.39, No.6) 玉木久夫(明大)
- ・アニメとコンピュータ (Vol.39, No.7) 中嶋正之(東工大)
- ・WWW上の検索サービスの技術動向 (Vol.39, No.9) 林 良彦, 小橋喜嗣(NTT)
- ・コンピュータウイルスとワクチンとの戦い (Vol.39, No.12) 遠藤 基(日本コンピュータセキュリティ) 星澤裕二(シマンテック)

### 6.4 坂井記念特別賞

坂井記念特別賞選定委員会(委員長 松下副会長)において、平成10年度坂井記念特別賞を下記の4名に贈呈することとした。

- ・並列オブジェクト指向言語の効率的な実装法に関する研究 松岡 聡(東工大)
- ・情報抽出・情報検索等の高精度日本語テキスト処理技術に関する研究開発 木谷 強(NITTデータ)
- ・対話型協調作業における創造性支援技術とその音楽応用に関する研究 西本一志(ATR)
- ・コンピュータビジョン技術とその動画像符号化応用に関する研究開発 柴藤 稔(松下電器)

### 6.5 山下記念研究賞

各領域委員会が発足委員会となり、平成10年度山下記念研究賞として下記13編(14名)を選定した。

- (1) コンピュータサイエンス領域
  - ・WWW情報空間における文書データマイニングを用いた知的検索システム [アドバンスド・データベース・シンポジウム '96 (1996.12.2)] (データベースシステム研究会) 河野浩之(京大)
  - ・地理空間オブジェクトトレーダ(GSOT) 構想と仮想都市空間構築への適用方式の検討 [アドバンスド・データベース・シンポジウム '97 (1997.12.15)] (データベースシステム研究会) 谷崎正明(日立)
  - ・メディア処理用組み込みOS [98-OS-77 (1998.2.26)] (システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会) 藤井茂樹(松下電産)
  - ・バストラジスタ論理SPLとその設計事例 [DAシンポジウム '98 (1996.8.29)] (設計自動化研究会) 李 副烈(神戸大)
  - ・Laplace領域の解析的解法による高速高精度ゲートディレイ計算方法 [DAシンポジウム '97 (1997.7.11)] (設計自動化研究会) 河野一郎(日立)
  - ・分散メモリ型並列計算機による2, 3, 5基底のFFTの実現と評価 [96-HPC-62 (1996.8.29)] (ハイパフォーマンスコンピューティング研究会) 高橋大介(東大)
  - ・平面マップグラフ [98-AL-60 (1998.1.22)] (アルゴリズム研究会) 陳 致中(電機大)
- (2) 情報環境領域
  - ・オブジェクト指向型ディスプレイの研究 [98-HI-76 (1998.1.30)] (ヒューマンインタフェース研究会) 川上直樹, 稲見昌彦(NTT)
  - ・インターネット時代における大学の情報システムの基本コンセプト [97-IS-64 (1997.6.18)] (情報システム研究会) 内木哲也(東洋大)
  - ・日本語情報検索システム評価用テストコレクションの構築 [1998年情報学シンポジウム (1998.1.13)] (情報学基礎研究会) 木本晴夫(NTT)
  - ・WWWトラフィック分析と分散キャッシュ [97-DSM-5 (1997.5.16)] (分散システム運用技術研究会) 西川記史(日立)
  - ・字面解析を応用した日本語文章推敲支援ツールの開発 [97-DD-5 (1997.1.31)] (デジタル・ドキュメント研究会) 菅沼 明(九大)
- (3) フロンティア領域
  - ・単語を認識単位とした日本語ディクテーションシステム [97-SLP-15 (1997.2.7)] (音声言語情報処理研究会) 西村雅史(日本IBM)

### 6.6 大会優秀賞・大会奨励賞

第56回全国大会(平成10年前期)優秀賞・奨励賞委員会(委員長 大岩元)および第57回全国大会(平成10年後期)優秀賞・奨励賞委員会(委員長 阿草清滋)により選定された若手の登壇発表者は次の通りで、それぞれ第57回および第58回全国大会において表彰された。

- (1) 第56回全国大会(平成10年3月, 中央大学)
  - ・大会優秀賞 8名



- 永崎 健 (農工大) 石倉雅巳 (ATR) 井戸上彰 (KDD)  
 松岡篤郎 (シャープ) 佐藤潤一 (ATR) 楠元佳紀 (京大)  
 萬木優子 (三菱) 小野哲雄 (ATR)
- ・大会奨励賞 8名  
 勝倉 真 (東北大) 瀬川 修 (中部電力) 池田佳代 (NTT)  
 押野 卓 (日本工大) 寺岡照彦 (三菱) 市村高志 (電機大)  
 永戸克裕 (筑波大) 重森信利 (大阪電通大)
- (2) 第57回全国大会 (平成10年9月, 名古屋大学)  
 ・大会優秀賞 9名  
 伊藤貴之 (IBM) 金沢輝一 (東大) 田口 篤 (日本総研)  
 土肥紳一 (電機大) 中岩浩巳 (NTT) 長谷川輝之 (KDD)  
 福田民生 (東芝情報システム) 山内長承 (都立大)  
 山端 潔 (NEC)
- ・大会奨励賞 7名  
 青柳洋一 (東洋大) 大岸智彦 (KDD) 川田容子 (日立)  
 佐藤 純 (東洋大) 高野雄司 (北大) 山内亨司 (松下通信)  
 幸嘉平太 (NTT)

## 7. 機関誌編集活動

### 7.1 会誌「情報処理」(月刊)

平成10年4月以降, 毎月1回(除く8月)定例の編集委員会を開催し, 会誌「情報処理」第39巻4号から第40巻3号まで計12号(本文1,406ページ, 会告428ページ, 広告159ページ, 平均発行部数27,650部)を編集発行した。

本年度は新編集長のもと, 役立つ会誌, 読みやすい会誌とするため, 記事内容, レイアウトとも一新した。最先端の動きを紹介する「情報処理最前線」, 実務家向けの「事例」, 平易な解説で好評の「素朴な疑問」を引き続き掲載したほか, 新しい企画として肩のこらない「インタラクティブ・エッセイ」「コンピュータと通信」などの連載エッセイ, 「インターネット」などタイムリーな話題を取り上げた「コラム」を加えたほか, 技術用語を易しく解説した「単語帳」を随時掲載した。

また, 本誌の全面デジタル化により会誌編集作業経費の節減, 事務の効率化を図るとともに, 10年12月から掲載記事のweb公開の検討を開始した。

なお, 年度当初から編集委員会にコミュニケーションWGが新設された。

特集号のテーマは次の通りである。

| 巻・号  | 特集テーマ                          | 編集幹事         |
|------|--------------------------------|--------------|
| 39.4 | Java言語: 生いまま何が課題なのか            | 井田昌之         |
| 5    | 生きたインターネット研究への取り組みと成果          | 村井 純         |
| 6    | 電子出版・電子新聞                      | 真田正彦         |
| 7    | 21世紀への提言: 情報通信技術による教育改革        | 岡本敏雄<br>工藤育男 |
| 8    | 画像入力機器の最新技術                    | 浦中 洋         |
| 9    | ソフトウェアCALS実証実験報告, いよいよ実用化へ     | 佐藤和夫         |
| 10   | 大規模・高速ネットワークの構築・管理運用           | 中山雅哉<br>浜田雅樹 |
| 11   | 計算機クラスタ                        | 緑川博子         |
| 12   | 文化と情報技術の接点                     | 今井賢一         |
| 40.1 | 静かで快適な生活を求めてー最近のアクティブコントロール技術ー | 浜田晴夫         |
| 2    | マルチメディア符号化技術の動向                | 安田 浩         |
| 3    | TRONプロジェクトの15年                 | 坂村 健         |

会誌編集委員は次の通りである。

- 編集長 石田晴久  
 委員長 鈴木健二  
 副委員長 江原暉将 ほか委員5名  
 専門委員会  
 基礎・理論分野 主査 中野幹生 ほか20名  
 ソフトウェア分野 主査 市川哲彦 ほか17名  
 ハードウェア分野 主査 片山泰尚 ほか15名  
 アプリケーション分野 主査 浦谷則好 ほか19名  
 実務分野 主査 笠野 章 ほか15名  
 書評・ニュース分野 主査 中野恵一 ほか16名  
 コミュニケーション分野 主査 萩原洋一 ほか 8名

### 7.2 論文誌「情報処理学会論文誌」(月刊)

平成10年4月以降, 毎月1回(除く8月)定例の編集委員会を開催し,

「情報処理学会論文誌」第39巻4号から第40巻3号まで計12号(論文375編, テクニカルノート18編, 本文3,861ページ, 平均発行部数6,022部)を編集発行した。

平成9年度からのゲストエディタ制度, 研究会推薦論文制度等の導入, および査読のスピードアップが効果を現し, 投稿論文, 採録論文とも前年比3割を上回る増加を示した。また, 特集号の発行が多かったのも平成10年度の特徴である。

#### (1) 査読委員の見直し

査読委員の活動状況を見直し, 入れ替えを図った。

#### (2) 新査読基準による査読報告書の使用

新しい査読基準による報告書の使用を開始した。これにより査読のスピードアップに貢献した。

#### (3) 研究会との連携

研究会・論文誌調整委員会により, 研究会論文誌との棲み分けについて検討した。

| 巻・号  | 特集テーマ                                   | 編集幹事  |
|------|-----------------------------------------|-------|
| 39.4 | 新世代データベース技術ーインターネット・マルチメディア・モバイルを中心としてー | 清木 康  |
| 5    | 次世代ヒューマンインタフェース・インタラクション                | 平川秀樹  |
| 6    | 並列処理                                    | 佐藤三久  |
| 10   | 分散協調支援とその応用                             | 松下 温  |
| 40.1 | マルチメディア通信と分散処理                          | 滝沢 誠  |
| 2    | ヒューマンインタフェースとインタラクション                   | 竹林洋一  |
| 3    | 人文科学とコンピュータ                             | 八村広三郎 |

論文誌編集委員は次の通りである。

- 委員長 宮原秀夫  
 副委員長 富田真治  
 委員 基礎グループ 主査 森下真 ほか13名  
 ソフトウェアグループ 主査 谷口秀夫 ほか21名  
 ハードウェアグループ 主査 中島克人 ほか19名  
 アプリケーショングループ 主査 安田孝美 ほか23名

平成10年度から研究会編集の論文誌を発行した。年度中に発行された論文誌は次の通りである。

プログラミング(プログラミング研究会): 2冊

数理モデル化と応用(数理モデルと問題解決研究会): 1冊

データベース(データベース研究会および情報学基礎研究会): 1冊

## 8. 事業活動

### 8.1 全国大会

第57回(平成10年後期)全国大会(阿草清滋プログラム委員長)は東海支部の協力により名古屋大学で開催, また, 第58回(平成11年前期)全国大会(村岡洋一プログラム委員長)は早稲田大学で開催した。

各プログラム委員会では, 魅力あるテーマによる公開パネル討論や特別セッション, デモセッションなどを開催したが, 第57回, 第58回大会とも講演参加者数が伸び悩んだ。

大会の概要は次の通り。

|          | 第57回(平成10年後期)                                                  | 第58回(平成11年前期)                                                                                                                                    |
|----------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 期 日      | 平成10年10月5日(月)<br>~7日(水)                                        | 平成11年3月 9日(火)<br>~11日(木)                                                                                                                         |
| 会 場      | 名古屋大学工学部                                                       | 早稲田大学西早稲田キャンパス                                                                                                                                   |
| 発表論文     | 925件                                                           | 840件                                                                                                                                             |
| 参加者(延人数) | 1,519名, うち非会員57名(約6,400名)                                      | 1,794名, うち非会員288名(約5,500名)                                                                                                                       |
| 大会スローガン  | 21世紀のみえる技術                                                     | 新世紀メディア・インフラストラクチャ                                                                                                                               |
| 招待/特別講演  | 21世紀のみえる技術ー情報学の新しい方向ー 甘利俊一(理科学研)<br>電子商取引における認証局の役割 米倉昭利(ECOM) | Doing Software Right: Current and Near-term Actions Leonard Tripp (IEEE-CS会長)<br>大文字の第2次科学革命ー物質エネルギーと法則>から<情報・プログラム>へー 吉田民人(中大)<br>脳を創る 松本 元(理研) |

|         |                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         |                                                                                                                                                                                                      | ベンチャーソフトウェアコンテスト<br>西 和彦 (アスキー)                                                                                                                                                                                                                                          |
| シンポジウム  |                                                                                                                                                                                                      | IFIP報告<br>-WCC '98に参加して-<br>-IFIP TC活動この1年-<br>情報処理学会IFIP委員会                                                                                                                                                                                                             |
| 公開パネル討論 | 21世紀の技術者育成<br>コーディネータ<br>神沼靖子 (前橋工科大)<br>日本の風土と21世紀のソフトウェア<br>コーディネータ<br>石田晴久 (アスキー)<br>IP@Homeの展望<br>-家庭内LANの技術的要件, 社会的要件-<br>コーディネータ<br>下條真司 (阪大)<br>21世紀の研究者<br>-研究者の流動性-<br>コーディネータ<br>稲垣康善 (名大) | 世紀末討論会: 20世紀, コンピュータ・サイエンスは何の役に立ったか? -現場エンジニア vs. 理論研究者たちの壮絶バトル-<br>コーディネータ<br>竹内郁雄 (電通大)<br>高校における新教科「情報」とその教員の育成-情報科学/情報工学はどのように貢献すべきか?-<br>コーディネータ<br>武井恵雄 (帝京大)<br>情報検索の新たな展開<br>-テストコレクションからサーチエンジンまで-<br>コーディネータ<br>細野公男 (慶大)<br>アクセリテイション<br>コーディネータ<br>都倉信樹 (阪大) |
| 特別セッション |                                                                                                                                                                                                      | インターネットとビデオ<br>コーディネータ<br>松本修一 (KDD研)                                                                                                                                                                                                                                    |

## 8.2 連続セミナー

平成10年度 (担当 剣重壽和理事) は, 社会に情報処理技術を広めるため, 会員外にも参加を公募し, 「グローバル化, 多様化時代を支える情報システム構築のための最新技術動向と展望」をテーマとして, 年度中に次の通り連続セミナーを6回実施した (場所 工学院大学参加者189名)。

なお, 本セミナーは参加者からも好評であり, 学会の収支改善に引き続き大きく貢献した。

第1回 平成10年 6月25日 (木)

ネットワーク時代のソフトウェア開発

第2回 平成10年 7月22日 (水)

ハードウェア/プロセッサ技術の最新動向と展望

第3回 平成10年10月23日 (金)

インターネットを支える最新の技術基盤

第4回 平成10年11月26日 (木)

モバイルコンピューティングの展望

第5回 平成11年1月28日 (木)

エレクトロニックコマースの最新状況と展望

第6回 平成11年3月26日 (金)

進展するヒューマンコンピュータ・インタラクション

## 8.3 プログラミング・シンポジウム

プログラミング・シンポジウム委員会 (委員長 和田英一) において次のシンポジウムを開催した。

(1) 第40回プログラミング・シンポジウム (参加者130名)

平成11年1月12日 (火) ~14日 (木) 箱根ホテル小涌園

(2) 夏のプログラミング・シンポジウム (参加者31名)

平成10年8月2日 (日) ~4日 (火) 慶應義塾立科山荘

(3) 情報科学若手の会 (参加者20名)

平成10年9月3日 (木) ~5日 (土) 三ヶ日保養センター (浜名湖)

(4) 秋のプログラミング・シンポジウム (参加者24名)

平成10年9月16日 (水) ~18日 (金) 池田町田園ホール (北海道)

## 8.4 平成10年電気・情報関連学会連合大会

照明学会を事務担当学会として, 平成10年8月に日本学術会議講堂で開催した。概要は次の通りであった。

|                    |                                                                                                                                     |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成10年電気・情報関連学会連合大会 |                                                                                                                                     |
| 期 日                | 平成10年8月28日 (金)                                                                                                                      |
| 会 場                | 日本学術会議講堂                                                                                                                            |
| 参加者数               | 220名                                                                                                                                |
| 招待講演               | 自動車ライフサイクルエネルギー低減<br>池浦憲二 (日産)<br>道路交通における視認性と環境問題のバランス<br>成定康平 (中京大)<br>ITSと21世紀のどうろ交通<br>徳山日出男 (建設省)<br>車の情報化と今後の動向<br>野口好一 (トヨタ) |
| 日本学術会議<br>シンポジウム   | 電力未来技術を探る<br>宅間 薫 (京大) ほか                                                                                                           |

## 8.5 協賛・後援等の活動

未来のヒューマンインターフェース・シンポジウム (日本学術会議人間工学研連主催) (平成10年6月12日 (金), 日本学術会議講堂) ほか87件

## 9. 出版・電子化

### 9.1 出版委員会

出版委員会では, 引き続き情報フロンティアシリーズ2冊 (シリーズ計22冊) を刊行したほか, 歴史特別委員会 (委員長 高橋 茂) が中心となって編纂した「日本のコンピュータ発達史」を平成10年6月にオーム社から発行した。

このほか「オブジェクト指向最前線'98」(平成10年9月, 朝倉書店) を発行した。また, 平成11年3月, 教科書編集委員会を新設し, 教科書シリーズの発行について検討を開始した。

委員長 松下 温

幹 事 阪田史郎 大蒔和仁

委 員 大河内正明 大槻 繁 小花貞夫 釜江尚彦

坂下善彦 千葉 滋 林 弘 藤井和彰

東野輝夫 本位田真一 増永良文 松本裕治

### 9.2 英文図書委員会

海外向け英文図書「Advanced Information Processing Technology」シリーズのうち, "Domain Oriented Systems Development-Principles and Approaches-「および "Designing Communication and Collaboration Support System"の2冊を平成10年11月および平成11年2月にそれぞれ発行した。平成11年度以降は年4冊程度発行の予定である。

委員長 齊藤忠夫

副委員長 阪田史郎 大蒔和仁

幹 事 近山 隆

委 員 奥乃 博 ほか7名

### 9.3 歴史特別委員会

歴史特別委員会が中心となって1960年から1980年頃までの我が国におけるコンピュータの歴史を編纂した「日本のコンピュータ発達史」を平成10年7月に発行した。

委員長 高橋 茂

幹 事 松永俊男 ほか委員9名

### 9.4 電子化専門委員会

魅力的な画面にするとともに, アクセスの容易化, 各種申込への対応等のためにホームページを一新した (平成10年5月) のを始め, 会誌, 論文誌のWebへの掲載, 課金システム, 電子メール転送システム等について検討し, 理事会に提言した。平成11年度に順次実現を図る。

委員長 堀越 楠

副委員長 阪田史郎

幹 事 大蒔和仁

委 員 安達 淳 片岡雅憲 河田 亨 鈴木健二

塚本享治 富田真治 東田正信 宮原秀夫

## 10. 調査研究活動

### 10.1 調査研究運営委員会

学会活動の核である調査研究活動を活性化するため, 論文誌編集委員会と論文・研究調整委員会を設け, 協調を図るとともに, 新しい多様な価値の創造のために, 研究会活動の一環として研究会による論文誌の編集を行った (内容は論文誌の項に掲載)。

また, 研究会および領域の運営方法等の見直し, 新分野の開拓等の検討を行うとともに, 学会活動, 関連事業, とくに領域委員会を通じた全国大会への協力を行った。また, 産官学の連携研究の推進のため, 科学技術振興調整費による総合研究課題の検討を行った。

委員は次の通りである。

委員長 安西祐一郎  
 幹事 西尾章治郎 水野忠則 吉澤康文  
 委員 菅野政孝 勅使河原可海 富田真治 西田豊明  
 萩谷昌己 平田圭二 松岡 聡 松山隆司  
 安村通見

(1) 領域委員会 (3)

各領域委員会ごとに委員会を開催し、領域の運営方法の充実を図るとともに、関連する学会活動と連携しつつ、当該領域ならびに関連分野に関しての研究会活動の活性化を図った。

特に、研究会による論文誌の編集については、各研究会論文誌編集の進捗状況および関連委員会の検討経過を踏まえて議論を行った。また、全国大会に対しては、プログラム委員等を選出して協力を行った。

- 1) コンピュータサイエンス領域委員会 (年3回開催) 委員長 安村通見
- 2) 情報環境領域委員会 (年3回開催) 委員長 勅使河原可海
- 3) フロンティア領域委員会 (年3回開催) 委員長 松山隆司

特に領域内ジョイント研究会 (FJK '98) を開催し領域内のつながりを深めた。

(2) 調査委員会 (0)

情報処理教育カリキュラム調査委員会が平成10年度から理事会直属機関として独立したため、年度中調査委員会は設置されなかった。

(3) 研究会 (29)

| 研究会名                         | 英文略称 | 主査 (連絡委員数) | 登録者数   | 発表回数 (件)    |
|------------------------------|------|------------|--------|-------------|
| <b>&lt;コンピュータサイエンス領域&gt;</b> |      |            |        |             |
| データベースシステム                   | DBS  | 田中克己 (39)  | 496    | 3 (112)     |
| ソフトウェア工学                     | SE   | 玉井哲雄 (40)  | 512    | 4 (73)      |
| 計算機アーキテクチャ                   | ARC  | 中島 浩 (38)  | 391    | 5 (73)      |
| システムソフトウェアとオペレーティング・システム     | OS   | 徳田英幸 (28)  | 349    | 3 (59)      |
| 設計自動化                        | DA   | 今井正浩 (33)  | 305    | 4 (72)      |
| ハイパフォーマンスコンピューティング           | HPC  | 佐藤三久 (25)  | 360    | 5 (84)      |
| プログラミング                      | PRO  | 上田和紀 (32)  | 385    | 5 (75)      |
| アルゴリズム                       | AL   | 加藤直樹 (32)  | 343    | 6 (53)      |
| 数理モデル化と問題解決                  | MPS  | 中森眞理雄 (26) | 250    | 5 (50)      |
| <b>&lt;情報環境領域&gt;</b>        |      |            |        |             |
| マルチメディア通信と分散処理               | DPS  | 滝沢 誠 (41)  | 510    | 5 (106)     |
| ヒューマンインタフェース                 | HI   | 竹林洋一 (44)  | 524    | 6 (57)      |
| グラフィクスとCAD                   | CG   | 近藤邦雄 (26)  | 420    | 5 (48)      |
| 情報システムと社会環境**                | IS   | 黒川恒雄 (25)  | 328    | 4 (17)      |
| 情報学基礎                        | FI   | 木本晴夫 (24)  | 266    | 4 (48)      |
| 情報メディア                       | IM   | 上林憲行 (36)  | 310    | 1 (12)      |
| オーディオビジュアル複合情報処理             | AVM  | 一ノ瀬進 (21)  | 265    | 4 (28)      |
| グループウェア                      | GW   | 岡田謙一 (25)  | 367    | 5 (46)      |
| 分散システム運用技術                   | DSM  | 林 英輔 (24)  | 280    | 4 (44)      |
| デジタル・ドキュメント                  | DD   | 安達 淳 (14)  | 260    | 5 (29)      |
| モバイルコンピューティング                | MBL  | 水野忠則 (30)  | 333    | 4 (51)      |
| コンピュータセキュリティ*                | CSEC | 土居範久 (25)  | 316    | 4 (53)      |
| <b>&lt;フロンティア領域&gt;</b>      |      |            |        |             |
| 自然言語処理                       | NL   | 松本祐治 (35)  | 480    | 6 (123)     |
| 知能と複雑系                       | ICS  | 橋本浩一 (30)  | 511    | 4 (48)      |
| コンピュータビジョンとイメージメディア          | CVIM | 長谷川純一 (36) | 477    | 5 (68)      |
| コンピュータと教育                    | CE   | 武井忠雄 (33)  | 480    | 4 (43)      |
| 人文科学とコンピュータ                  | CH   | 山田契治 (25)  | 289    | 4 (40)      |
| 音楽情報科学                       | MUS  | 平賀 謙 (24)  | 287    | 5 (54)      |
| 音声言語情報処理                     | SLP  | 新田恒雄 (29)  | 293    | 5 (71)      |
| 電子化知的財産・社会基盤*                | EIP  | 森 亮一 (20)  | 196    | 3 (45)      |
| 合 計                          |      | (868)      | 10,583 | 124 (1,682) |

\* 新設 \*\* 名称変更 (旧情報システム)

(4) 研究グループ (4)

| 研究グループ名                 | 主 査  | 発表回数 (論文数) | 記 事        |
|-------------------------|------|------------|------------|
| <b>&lt;情報環境領域&gt;</b>   |      |            |            |
| システム評価                  | 宮崎正俊 | 3回 (23件)   |            |
| 高度道路交通システム              | 松下 温 | 1回 (11件)   | 平成10年7月設立  |
| 高品質インターネット              | 池田克夫 | 2回 (16件)   | 平成10年8月設立  |
| <b>&lt;フロンティア領域&gt;</b> |      |            |            |
| エンターテイメントコンピュータビュートイング  | 釜江尚彦 | 1回 (3件)    | 平成10年10月設立 |

10.2 シンポジウム・講習会等

平成10年度中に次の通り22回開催した。

| 題 名                                   | 研究会名略称                | 開催期日/場所                                 | 参加者          | 演題数  |
|---------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------|--------------|------|
| 1998年並列処理シンポジウム (JSPP'98)             | ARC, OS, HPC, PRO, AL | 平成10年6月3日 (水) ~5日 (金)<br>名古屋国際会議場       | 269名         | 75件  |
| グラフィクスとCADシンポジウム                      | CG                    | 6月12日 (金) ~13日 (土) 早大                   | 91名          | 21件  |
| マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DiCoMo) ワークショップ | DPS, GW, MBL          | 7月8日 (水) ~10日 (金) (指宿)                  | 162名         | 102件 |
| DAシンポジウム'98                           | DA                    | 7月16日 (水) ~18日 (金) (浜松)                 | 127名         | 49件  |
| 画像の認識・理解シンポジウム (MIRU'98)              | CVIM                  | 7月29日 (水) ~31日 (金) 未来会館 (岐阜)            | 356名         | 154件 |
| 音声認識セミナー                              | SLP                   | 8月24日 (月) ~28日 (金) 会津大                  | 前34名<br>後33名 | 11件  |
| オブジェクト指向'98シンポジウム                     | SE                    | 9月16日 (水) ~18日 (金) 東大                   | 168名         | 49件  |
| 情報メディアシンポジウム'98                       | IM                    | 9月24日 (木) ~25日 (金) 工学院大                 | 50名          | 15件  |
| コンピュータセキュリティシンポジウム'98                 | CS                    | 10月29日 (木) ~30日 (金)<br>ホテルセンチュリー21 (広島) | 169名         | 53件  |
| モバイルコンピューティングシンポジウム'98                | MBL                   | 11月6日 (金)<br>日本電気本社ビル (東京)              | 58名          | 3件   |
| 日本語音声ディクテーション基本技術講習会                  | SLP                   | 8月21日 (木) ~23日 (土) 会津大                  | 35名          | 6件   |
| モバイルコンピューティング'97                      | MBL                   | 9月12日 (金)<br>NTTデータ                     | 106名         | 6件   |
| コンピュータシステム・シンポジウム                     | OS                    | 11月6日 (木) ~7日 (金)<br>(NTTゆかり荘)          | 50名          | 22件  |
| コンピュータ音楽チュートリアル                       | MUS                   | 11月21日 (土) 早大                           | 37名          | 3件   |
| グループウェア'98シンポジウム                      | GW                    | 11月27日 (金)<br>機械振興会館                    | 46名          | 9件   |
| 高度道路交通システム'98シンポジウム                   | ITS                   | 12月2日 (水)<br>三菱電機ビル (東京)                | 132名         | 7件   |
| アドバンスド・データベースシンポジウム'98                | DBS                   | 12月2日 (水) ~4日 (金) 工学院大                  | 92名          | 24件  |
| ゲームとモデル化シンポジウム                        | MPS                   | 12月10日 (木) ~11日 (金) 農工大                 | 76名          | 11件  |
| MPEG4&JPEG2000シンポジウム                  | AVM                   | 12月18日 (金) 早大                           | 143名         | 9件   |
| 1999年情報学シンポジウム                        | FI                    | 平成11年1月13日 (水) ~14日 (木)<br>日本学術会議講堂     | 87名          | 22件  |
| ウインターワークショップ・イン・高知                    | SE                    | 1月21日 (木) ~22日 (金) 高知工科大                | 46名          | 44件  |
| 利用者指向の情報システムシンポジウム                    | IS                    | 1月22日 (金)<br>東洋大白山校舎                    | 16名          | 12件  |
| 分散システム/インターネット運用技術'99                 | DMS                   | 2月4日 (木) ~5日 (金) 大阪市立大学情報総合センター         | 143名         | 18件  |
| インタラクション'99                           | HI, IM, GW            | 3月4日 (木) ~5日 (金) 東工大                    | 218名         | 64件  |

### 10.3 小規模国際会議

平成10年度中に次の通り1回開催した。

| 会議名                                                                                                  | 開催期間                  | 参加者               | 開催地       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------|-----------|
| 第5回データの組織化に関する国際会議<br>The 5th International Conference of Foundations of Data Organization (FODO'98) | 平成10年11月12日(木)～14日(土) | 133名<br>(うち海外28名) | 神戸商工会議所会館 |

## 11. 情報処理教育委員会

### 11.1 情報処理教育委員会

平成9年度まで情報処理教育カリキュラム調査委員会として、調査研究運営委員会のもとで期限付きの活動を行ってきたが、平成10年度から継続的な活動を行うために理事会直属の情報処理教育委員会(委員長 都倉信樹(阪大))として常置化された。年度内に3回開催、小委員会を設置し情報教育に関する調査研究を行うとともに、平成11年度に向けて教育賞制定およびシンポジウム開催などの検討を行った。

平成11年3月、産業構造の転換と情報処理教育シンポジウムをもとに執筆された「21世紀：豊かな情報化社会の実現を願って－教育の視点から－」を編集、発行した。

### 11.2 調査研究委員会(文部省委嘱)

文部省高等教育局から「大学等の情報専門学科における情報処理教育の実態に関する調査研究」の委嘱を受け、大学等の情報専門学科における情報処理教育に関する委員会(代表 都倉信樹)を設け、調査研究を行った。その中で先に発表したコンピュータサイエンス教育カリキュラムJ97に関するアンケートを収集し、その結果をまとめて報告書を作成、提出した。

### 11.3 調査研究委員会(通商産業省委嘱)

通商産業省産業政策局から「工学教育の外部認証制度(ア krediteーション)の導入促進に関する調査」の委託を受け、ア krediteーション委員会(代表 高橋延匡(拓殖大))を設け、情報処理分野に於ける認定基準の策定を中心に調査研究を行った。当学会で作成した報告書は同様の委託を受けた化学工学会および日本機械学会のものとともに、日本工学会から通産省へ提出された。

## 12. 国際活動

### 12.1 IFIP委員会

平成10年度中に4回開催し、IFIPの国内活動を中心に企画・審議した。

|      |                                                                                                                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員長  | 三浦武雄 (IFIP日本代表, 理事)                                                                                                                                                                                                |
| 副委員長 | 片岡雅憲                                                                                                                                                                                                               |
| 幹事   | 大河内正明                                                                                                                                                                                                              |
| 委員   | 伊藤貴康 (IFIP/TC1) 笈 捷彦 (TC2)<br>高橋延匡 (TC 3) 木村文彦 (TC 5)<br>齊藤忠夫 (TC 6) 矢島敬二 (TC 7)<br>内木哲也 (TC 8) 黒川恒雄 (TC 9/TC11)<br>南谷 崇 (TC10) 堂下修司 (TC12)<br>黒須正明 (TC13) 江尻正員 (IAPR)<br>田畑邦晃 (IFIP日本代表事務局)<br>吉澤允博 (IFIP日本代表事務局) |

### 12.2 国際業務委員会

平成10年度中に7回開催し、IEEE-CSとの協力、主催・共催会議の申請等について審議を行った。

|      |                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------|
| 委員長  | 片岡雅憲                                                          |
| 副委員長 | 大河内正明                                                         |
| 委員   | 塚本享治(電総研), 山田昭彦 (IEEE)<br>大岩 元 (SEARCC日本代表)<br>増永良文 (お茶の水女子大) |

### 12.3 IFIP活動

(1) 平成10年8月31日(月)～9月8日(火)にウイーン/ブタペストで開催されたIFIP General AssemblyとIFIP Congress '98に三浦委員長が出席し、GAでは産業界からのメンバー加入など積極的な提案を行った。IFIP Congress '98への参加状況は別項の通り。

(2) 平成11年2月28日(日)～3月4日(木)にインドのゴアで開催されたIFIP Council Meetingに三浦委員長が出席した。

(3) 平成11年3月に開催された全国大会で、IFIP委員会としてシンポジウムを開催した。

### 12.4 SEARCC関係

平成11年2月19日(金)～20日(土)マレーシアで開催されたSEARCC理事会に大岩 元日本代表の代理として上條史彦氏(東海大)が出席した。

### 12.5 その他の国際活動

(1) KISS(韓国情報科学会)関係

・平成10年10月30日(金)のKISS創立25周年に戸田会長が同会を訪問し、講演を行うとともに、既存の協力協定を補う新たな取り決めについて打合せを行った。その結果、12月21日付けて相互のホームページ充実、会誌記事の交換等を盛り込んだ新協力協定が締結された。

・平成11年1月22日(金)にKISS会長が来日し、戸田会長と新協力協定の具体化について懇談した。

(2) IEEE, IEEE-CS関係

・平成10年4月21日(火)IEEE-CS会長Doris Carverと当学会戸田会長との間で両学会間の会員割引、会誌論文の交換等を内容とする協力協定が調印された。

・平成10年6月当学会の主唱でIEEE-CSとの間でインターネットに関する国際会議を開催することとなり、平成12年の開催を日処に両学会間で細目について具体案の検討を進めた。

・平成11年3月の全国大会においてIEEE-CS会長のDr. Leonard Tripp氏が講演した。

### 12.6 国際会議の開催

(1) 第20回ソフトウェア工学国際会議(共催)

ICSE 98: International Conference on Software Engineering

開催日:平成10年4月16日(木)～26日(日)

開催地:国立京都国際会館他

委員長:鳥居宏次 参加者:978名, うち海外33カ国, 301名

(2) アジア太平洋地域コンピュータヒューマンインタラクション1998(共催)

APCHI '98: Asia Pacific Computer Human Interaction 1998

平成10年7月15日(水)～17日(金) 開催地:湘南国際村

委員長:黒須正明 参加者:200名, うち海外15カ国, 150名

(3) 情報処理国際連盟・教育技術委員会ネットワーク時代の情報専門家教育国際会議(共催)

IFIP/WG3.4 '98: International Working Conference

－Educating Professionals for Network-Centric Organisations

平成10年8月23日(日)～28日(金) 開催地:国立婦人教育会館

委員長:大槻説乎 参加者:80名, うち海外8カ国, 25名

(4) 第15回IFIP世界コンピュータ会議

IFIP Congress '98: 15th World Computer Congress

開催日:平成10年8月30日(日)～9月5日(土)

開催地:ウイーン, ブタペスト

参加者:1,232名, うち日本54名, 日本以外74カ国, 1,178名

(5) 第5回実時間計算システムと応用国際会議(共催)

RTCSA '98: Fifth International Conference on Real-Time Computing Systems and Applications

開催日:平成10年10月27日(火)～29日(木)

開催地:広島市立大

委員長:徳田英幸 参加者:100名, うち海外10カ国, 60名

(6) 第4回自律分散システム国際会議(主催)

ISADS '99: IEEE International Symposium on Autonomous Decentralized System

開催日:平成11年3月21日(日)～23日(火)

開催地:東京国際フォーラム

委員長:森 欣司 参加者:220名, うち海外18カ国, 80名

### 12.7 協賛・後援等の活動

Pacific Graphics '98(平成10年10月26日(月)～29日(木), シンガポール国立大)ほか25件。

## 13. 規格調査活動

### 13.1 国際活動の状況

#### 13.1.1 JTC1全体の活動

(1) JTC1リエンジニアリングの具体化

JTC1は平成7年3月のシドニー総会以来、リエンジニアリングを積極的に推進してきたが、平成10年6月の仙台総会および平成11年1月のリオデジャネイロ総会を経て、その成果が具体化され、今後のJTC 1の活動体制はほぼ固まった。

1) JTC1のテクニカルディレクションとして、当初14が設定されたが、11に整理された。

①テクニカルディレクションの整理

a) 符号化文字セット(SC 2), ユーザインタフェース(SC 35)のテクニカルディレクションを1つにまとめ、文化的及び言語学上の適応性とユーザインタフェースというテクニカルディレクションとし、これにはSC 2, SC 35の他にSC 22/WG 20を含むことになった(仙台総会)。

b) SC 33の廃止に伴い、分散アプリケーションサービスのテクニカル

ディレクションを廃止（仙台総会）。

c) SC 1の廃止に伴い、IT用語のテクニカルディレクションを廃止（リオ総会）。

②2つのSC（専門委員会）の解散

a) SC 1（用語）…引受の幹事国がないため（リオ総会）。

b) SC 33（分散アプリケーションサービス）…引受の幹事国がないため（仙台総会）。

③2つのSCの新設

a) SC 34（文書記述言語）…幹事国は米国。

b) SC 35（ユーザインタフェース）…幹事国は仏国。

④ラポーターグループのリストラクチャリング

a) IIT-RG（Implementing Information Technology Rapporteur Group）の新設（仙台総会）。

b) RA-RG（Registration Authorities Rapporteur Group）の解散（リオ総会）。

c) GII-RG（Global Information Infrastructure Rapporteur Group）の解散（リオ総会）。

2) リオデジャネイロ総会で全てのSC議長にSCビジネスプラン報告書の提出を義務づけた。

3) ビジネスチーム制度を継続し、ビジネスチーム提案には、ビジネスニーズと必要な主要なリソースを明確としたビジネスプランを必須とすることを明確にした。

(2) PAS（Publicly Available Specification）制度本格的運用に向けて

平成7年1月から実施してきたPAS制度の試行を平成10年度に終了し、平成11年1月にブラジルで開催されたJTC 1総会では、「PAS Management Guide-Revision 1 of JTC1 N3582」（JTC 1 N5746）として承認し、過渡的な配慮をしつつ、PAS制度をJTC 1の正規の制度として採用することを決定した。PAS制度の改訂のポイントは、(a) PAS Submitterの有効期限（2年間）の更新手続きの明確化、(b) PAS サブmitterとしてのスコープの明確化、(c) PAS提出期限の設定、(d) PASプロセス全体の透明性の向上、(e) PASが国際標準となった際のコピーライト規定の明確化等。(b)と(d)は日本がその寄書で強く主張した点が反映されたもの。

(3) 電子化推進

JTC 1の平成10年度における電子化推進活動として以下を実施した。

1) IIT-RG（Implementing Information Technology Rapporteur Group）の設置

2) 電子投票の試行に続き、いよいよ実施に移すことを決定した。最初のJTC 1の電子投票は平成11年5月締め切りのDTR投票で行う。

3) Webサイトを立ち上げていないSCに対し、直ちにWebサイトを立ち上げるよう要請した。

4) ITTFドキュメントの電子化要請

一方、情報規格調査会の電子化の面では、専門委員会が独自に運営できるWEB/FTPサイトを留意した。間もなく専門委員会単位での運用が始まる。専門委員会内の情報配布や情報交換に使用するほか、専門委員会独自の情報発信にも利用される予定である。

また、こうしたインフラストラクチャができたことにより、サイト運用の国際連携（国際SCのサイトとの連携）の課題も出てくると考えられる。

(4) 国際規格の出版状況

平成10年の国際規格の出版数は、IS 155件、ISP 23件、TR 22件で合計200件（平成9年：IS 105件、ISP 23件、TR 7件で合計135件）であり、昨年に比べ大幅に（48%）増加したが、主因はSC33が35件増加したことであり、SC33以外の増減は小幅である。一方、国際規格案となったものがDIS 92件、DISP 1件、DTR 13件で合計106件あり（平成9年DIS 143件、DISP 29件、DTR 26で合計198件）昨年に比べ大幅に（47%）減少したが、主因はOSIに関する国際規格の開発が終局を迎えたことである。

### 13.2 情報規格調査会の国際活動

(1) 日本提案による国際標準化の推進

磁気記録媒体に関するJISをファストトラック手続きで国際規格化を継続的に推進しているなかで、今年度は下記3件のDVD関連のJISがDIS投票で承認された。

DIS 16448: 120mm DVD-Read-only disk (JIS X 6241)

DIS 16824: 120mm rewritable disk (DVD-RAM) (JIS X 6243)

DIS 16825: Case for DVD-RAM disk (JIS X 6244)

(2) 国際活動における日本の主要な役割

日本が担当する役職数は、欧州諸国に比肩する規模を維持している。

1) 議長、コンピナー、ラポーターなど

下記に示すとおり2名の新任と2名の交替、および2名の退任があり、平成10年度末においては、SC 2, SC 23, SC 29 (Acting), SC 7/WG 6, SC 17/WG 9, SC 26/WG 12, SC32/WG 4, SC 29/WG 1/BIG, SC 29/WG 11/DSM, SC 31/WG 4/Applicationの計10名であった。

平成10年度の新任者

SC 32/WG 4コンピナー：芝野耕司（東京外大）

SC 31/WG 4/Applicationラポーター：吉岡稔弘（松下電器）

平成10年度の交替者

SC 23議長：三橋慶喜（日本板硝子）から戸島知之（NTTインテリジェントテクノロジー）

SC 29議長：安田 浩（東大）から渡辺 裕（Acting, NTT）

平成10年度の退任者

SC 21/WG 3/SQL Multimediaラポーター：芝野耕司（東京外大）

SC 21/WG 7/ODP Naming Frameworkラポーター：田中 明（日立）

2) 登録機関の日本代表ラポーターの退任：藤崎正人（NEC）

3) 適合性評価および相互運用性の日本代表ラポーター：斎藤 輝（日本IBM）、田中省三（富士通）

4) GIIの日本代表ラポーターの退任：竜田敏男（日本IBM）

5) IITの日本代表ラポーターの新任：東田正信（NTT）

6) プロジェクトエディタ

14名の退任と下記に示す10名の新任があり、平成10年度末においては、SC 6（8名）、SC 7（4名）、SC 11（9名）、SC 23（5名）、SC 24（1名）、SC 25（2名）、SC 29（8名）、SC 32（1名）、SC 34（1名）、SC 35（3名）の計42名（プロジェクト数73）であった。

平成10年度の新任者

SC 11：酒井和夫（日立）

SC 23：後藤芳和（松下電器）、宮本治一（日立）、横川文彦（パイオニア）、吉田富夫（松下電器）

SC 29：上野幾朗（三菱電機）、田原勝己（ソニー）、中屋雄一郎（日立）、西口正之（ソニー）、出葉義治（パイオニア）

3) セクレタリアート

下記に示す1名の交替があり、平成10年度末においては、SC 2（当調査会）、SC 6/WG 1（当調査会、NTT）、SC 7/WG 6（当調査会、NEC）、SC 17/WG 9（日本事務機械工業会）、SC 23（当調査会）、SC 26（JEIDA、NEC）、SC 29（当調査会）の7つの国際事務局を担当した。

平成10年度の交替者

SC 17/WG 9：桐谷俊雄（日本事務機械工業会）から野原三郎（日本事務機械工業会）

(3) JTC1仙台総会の開催

第1回のJTC 1総会（昭和62年<1987年>11月、東京）を我が国に招致してから約10年が経過し、主要国を一巡り以上した状況を勘案し、本年、再び我が国が総会（第12回）を主催した。今回は、東京以外の都市を検討し、結局、仙台を選定した。会場、会議設備、宿泊施設、等々の準備は丁度1年前から取りかかり、総会を成功裏に終了する事が出来た。内容は以下の通りである。

日 時：平成10年6月1日（月）～5日（金）

（初日はChairmen's Forum）

場 所：仙台国際センター

出席者：総計82名（18ヶ国、4機関（ISO、IEC、ITU-T、CEN/ISSS）内、日本からの出席者は12名）

(4) 国際会議への参加

平成10年度は246回の会議が開催されたが、うち212回の会議に日本から1,307名が参加した（うち外国開催190回、日本からの参加者955名）。なお、当調査会がホストとなり日本で開催したものは10回であった。

### 13.3 国内委員会の活動状況

(1) 委員会等の開催状況

事業執行に関しては、規格総会、規格役員会、運営委員会、広報委員会および表彰委員会を計20回開催した。技術活動のうち、JTC 1全体に関する事項は、技術委員会、技術委員会/幹事会および技術委員会/Ad hoc会議で対応し、SCへの対応は、専門委員会と関連する小委員会等が担当した。技術活動関係の委員会開催回数は計483回であった。

なお、平成11年3月末現在の技術委員会、技術委員会/幹事会、SWG、専門委員会、小委員会、サブグループの数は、それぞれ1, 1, 19, 52, 13であり、技術委員会以下の委員の総数は、重複を含めて1,168名、オブザーバは166名であった。

(2) 各専門委員会の活動の概況

1) 第1種専門委員会関係

JTC 1の組織変更等に対応して、下記の国内委員会の組織変更を行った。

・SC 6専門委員会：抽象構造文記法関係の審議をするためにSC6/ANS1 SGを新設した。

・SC 7専門委員会：開放型分散処理関係の審議をするためにSC7/DOP作業グループ SGを新設した。

・SC 18専門委員会：国際的組織変更（SC 33, 34, 35に改組）に合わ

せて廃止した。  
 ・SC 21専門委員会：国際の組織変更（SC32, SC 33に改組）に合わせ  
 て廃止した。  
 ・SC 29専門委員会：知的財産権関係の審議をするためにSC 29/WG  
 11/MPEG-4/知財コンテンツ情報SGを新設した。  
 ・SC 30専門委員会：国際の組織変更（SC 32に改組）に合わせて廃止  
 した。  
 ・SC 32専門委員会：国際の組織変更に対応するためにSC 32ならびに  
 WG 1～WG 5を新設した。  
 ・SC 33専門委員会：国際の組織変更に対応するために専門委員会を  
 設置したが、幹事国が見つからず国際の組織が廃止されたため、それ  
 に伴って専門委員会を廃止した。  
 ・SC 34専門委員会：国際の組織変更に対応するために新設した（旧  
 SC18/WG8）。  
 ・SC 35専門委員会：国際の組織変更に対応するためにSC 35ならびに  
 WG 1～WG 4を新設した（旧SC18/WG9）。

2) 第2種専門委員会関係

文字コード標準体系検討専門委員会（委員長：石崎俊（慶大））を  
 新設、4回の会議を開催した。

3) 第3種専門委員会関係

情報処理用語人工知能－機械学習、情報処理用語電子メール、情報  
 処理用語信頼性、保守および可用性のJIS原案の作成にあたり、それぞ  
 れに対応する委員会を設けて活動した。

13.4 その他

(1) 広報活動

広報活動として、次の事業を実施した。

1) 刊行物

・「情報技術標準Newsletter」：季刊誌（年4回）および別冊（年2回）  
 を発行した。

3月号別冊：年間国際会議出席者状況、年間国際規格等発行状況

6月号別冊：専門委員会関係活動報告（平成9年度）

2) 情報技術標準化フォーラムの開催

・平成10年7月15日（水）、ソフトウェア開発を見直す標準的なアプロ  
 ーチソフトウェア技術標準からの提案（講師 山本喜一（慶大）、  
 村上憲稔（富士通）、藤野喜一（創価大））を規格賛助員会社の社員を  
 対象に開催した。

3) ホームページ

平成10年8月より、情報規格調査会の会員その他情報技術標準化  
 に関心を持つ人が参加できる公開討論や意見交換のコーナー「ITSCJ  
 広場」を開設した。

(2) 情報規格調査会の表彰

情報規格調査会事業に関連して、顕著な功績あるいは貢献があった  
 者を、平成10年7月15日（水）に開催した規格総会で表彰した。

1) 標準化功績賞：2名

浦城恒雄（テレコム機器） 大石完一（パルステック工業）

2) 標準化貢献賞：11名

池田克夫（京大） 石川博道（日立，故人） 稲垣充廣（NTT）  
 植村俊亮（奈良先端大） 内山光一（東芝）  
 宇野 栄（日本IBM）加藤重信（凸版印刷）  
 富田正典（日本システムインテグレーション） 蓮池和夫（KDD）  
 松尾谷徹（NEC） 森紘一（富士通） 和田英穂（富士通）

技術活動関係委員会（氏名は委員長名を示す）

[技術委員会関係]

技術委員会

棟上昭男

技術委員会/幹事会

棟上昭男

[第1種専門委員会]

SC 1（用語）

大野義夫

SC 2（符合化文字集合）

石崎 俊

SC 6（通信とシステム間の情報交換）

木下研作

SC 7（ソフトウェア技術）

山本喜一

SC 11（フレキシブル磁気媒体）

荒木 学

SC 22（プログラム言語、その環境及びシステムソフトウエ  
 アインタフェース）

寛 捷彦

SC 23（情報交換用光ディスクカートリッジ）

田中邦彦

SC 24（コンピュータグラフィックス及びイメージ処理）

川合 慧

SC 25（情報機器間相互接続）

岡田義邦

SC 27（セキュリティ技術）

苗村憲司

SC 29（音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情  
 報符号化）

富永英義

SC 31（自動識別及びデータ取得技術）  
 SC 32（データベース管理サービス）  
 SC 34（文書の記述と処理の言語）  
 SC 35（ユーザシステムインタフェース）  
 [第2種専門委員会]  
 文字コード標準体系検討  
 [第3種専門委員会]  
 情報処理用語人工知能－機械学習JIS  
 情報処理用語電子メールJIS  
 情報処理用語、保守及び可用性JIS改正

柴田 彰  
 米田 茂  
 小町祐史  
 山本喜一  
 石崎 俊  
 平井通宏  
 田辺雅秋  
 平井通宏

14. 日本学術会議・各省庁関係

- 平成10年8月28日（金）に開催された日本学術会議3研連代表と電  
 気・情報関連学会役員連絡会に戸田会長ほか3名が出席した。
- 平成10年11月18日（水）に開催された日本学術会議第5部長と関  
 連学会との懇談会に松下副会長が出席した。
- 平成10年11月26日（木）の理事会に日本学術会議情報工学研連の  
 甘利委員長が出席、同研連の最近の動き等について説明し、役員と質  
 疑を行った。
- 平成11年1月13日（火）～14日（水）に日本学術会議講堂で行われ  
 た「情報学シンポジウム」（参加者87名）を共催した。
- 平成11年3月15日（月）～18日（木）に開催された「第6回アジア  
 学術会議」（場所：日本学術会議）を後援した。
- 通商産業省の「工学教育の外部認証制度の導入促進に関する調査  
 研究」の対象学会として協力している。
- 文部省所管のサイエンスボランティア委員会に参加し、活動を行  
 っている。

15. 日本工学会・他学会関係

- 平成10年4月17日（金）に開催された日本工学会主催の学協会共  
 通問題に関する討論会に参加した。
- 電気情報関連6学会共同の「情報化社会の発展に向けた提言」を  
 まとめ、平成10年4月21日（火）に記者発表した。当学会からは坂井  
 理事が連絡会委員として、また、阪田理事がホームページWG、大岩  
 元（慶大）がリテラシーWGの各委員として参加した。
- 平成10年8月28日（金）に日本学術会議講堂において平成10年電  
 気・情報関連学会連合大会を開催した。
- 国際的エンジニア教育検討委員会に高橋前副会長、大岩 元（慶  
 大）が参加して活動している。

16. 支部活動

16.1 北海道支部（支部長 藤原詳隆）

- 支部総会（平成10年5月7日（木）於北大、参加者80名）
- 情報処理北海道シンポジウム '98（平成10年5月14日（木）、15日  
 （金）於北大、参加者200名）
- 支部大会（電気関係学会北海道支部連合大会）（平成10年10月17  
 日（土）、18日（日）、於北大、参加者571名）
- 幹事会（3回）、評議員会（3回）、奨励賞選定委員会（2回）
- 講演会（14回）、見学会（1回）

16.2 東北支部（支部長 樋口龍雄）

- 支部総会（平成10年4月22日（水）、於東北大、参加者150名）
- 電気関係学会東北支部連合大会（平成10年8月21日（金）、22日  
 （土）、於東北大）
- 講演会等（5回）、研究会（4回）
- 支部だよりの発行（4回）
- 支部奨励賞の選考

16.3 東海支部（支部長 内川嘉樹）

- 支部総会（平成10年5月12日（火）、於愛知厚生年金会館、参加者  
 356名）
- 評議員会（3回）、幹事会（5回）
- 電気関係学会東海支部連合大会（平成10年9月21日（月）、22日  
 （火）、於三重大）
- 講演会（7回）、研究会他（4回）、講習会（2回）

16.4 北陸支部（支部長 服部進実）

- 支部総会特別講演会（平成10年5月15日（金）、於金澤工大、参加  
 者124名）
- 幹事会・評議員会（4回）

(3) 電気関係学会支部連合大会（平成10年10月17日（土）、18日（日）、於福井工大）

(4) 研究講演会（5回）、研究会（3回）、見学会（1回）

(5) 優秀学生表彰（12名）

#### 16.5 関西支部（支部長 堂下修司）

(1) 支部総会・記念講演会（平成10年5月15日（金）、関西情報センター、参加者462名）

(2) 評議員会・幹事会合同会議（1回）、幹事会（5回）

(3) 支部大会、関西情報関連学会連合大会（平成10年7月10日（金）、阪大、参加者345名）

(4) 支部大会、電気関係学会支部連合大会（平成10年11月6日（金）、7日（土）、大阪府立大）

(5) セミナ（1回）、講演会（1回）、見学会（2回）

(6) サイバーメディア（3回）、新ソフトウェア産業（準備会1回）各研究会

#### 16.6 中国支部（支部長 佐々木博司）

(1) 支部総会（平成10年5月8日（金）、於中国電力、参加者192名）

(2) 評議員会（3回）、幹事会（3回）

(3) 電気・情報関連学会中国支部連合大会（平成10年10月24日（土）、於岡山県立大）

(4) 講演会（15回）、見学会（2回）、講習会（1回）

(5) コンピュータセキュリティシンポジウム 198（共催）

#### 16.7 四国支部（支部長 坂本明雄）

(1) 支部総会（平成10年5月8日（金）、愛媛大、参加者82名）

(2) 評議員会および幹事会（4回）

(3) 電気関係学会支部連合大会（平成10年10月16日（金）、於徳島大）

(4) 講演会等（2回）

(5) 支部奨励賞（平成11年3月、32名）

(6) 四国支部10周年記念誌刊行

#### 16.8 九州支部（支部長 河口英二）

(1) 支部総会（平成10年5月6日（水）、九大、参加者251名）

(2) 支部大会、電気関係学会支部連合大会（平成10年10月2日（金）、3日（土）、於大分大）

(3) 幹事会（3回）、評議員会（2回）

(4) 奨励賞選定委員会（2回）

(5) 若手の会セミナー（平成10年7月29日（水）～31日（金））

(6) 研究会（1回）、講習会（1回）、講演会等（4回）

#### 17. 広報・会員増強活動

平成9年度に発足した広報委員会を財務委員会と改称（委員長 堀

越副会長）、広告取得活動をはじめとする財務の改善策を検討した。年度途中で会員増強委員会が発足し、会員獲得に向けて幅広い活動を開始した。

#### 17.1 財務委員会

広告収入の増加を図るため、広告依頼先の選定、役員を中心とした企業紹介などを実施したほか、全国大会経費削減などを提案した。10月をもって委員会は終了し、会員増強委員会に引き継がれた。

#### 17.2 会員増強委員会

会員増強と当会活動に積極的に貢献する会員の増加を目的として平成10年10月に設立、年度内に次の活動を行った。

・IEEE-CS会員、ベンチャー企業へ入会勧誘パンフレットを送付

・新会員紹介キャンペーンの実施

・大学会員を中心に学会活動協力委員をお願いし、新入会勧誘、卒業後の継続等を依頼

・学会紹介のビジュアルなパンフレットの作成

・ポスター、入会案内の見直し

・学生会員から正会員への移行時に全国大会無料参加券配布を決定

・大学、工専等の既設、新設情報関連学部へのポスター・パンフレットの配布

・JISA会員、各種助成団体、ソフトウェア会社等への賛助会員加入の呼びかけ

#### 17.3 会員特典の充実

平成11年度からの会員証発行に伴い、レンタカー会社、ホテル等との契約による会員割引サービスの拡充に努めた。

#### 18. 事務局

#### 18.1 情報発信の推進

電子化タスクフォースが中心となって、構想を推進し、10年5月に学会ホームページのリニューアルが完成、学会紹介、行事案内、採録論文の掲示等会員サービスの充実に努めた。

#### 18.2 システム化による作業の効率化

新会員・研究会システムの開発作業を進め、年度末には一部稼働を開始した。このほか、編集作業のDTP化、電子メールの活用などOA機器活用による作業のレベルアップと効率化を一段と推進した。

#### 18.3 職員数等

平成10年度中の職員の入社3名、退社4名、年度末在籍者は31名（うち規格部9名）であった。

平成10年6月から事務局長の後任として、柳川隆之（NEC）が就任した。

2. 平成10年度決算報告書

I 収支計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目         | 予算額         | 決 算 額       |              |             | 差 異         | 備 考 |
|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-----|
|             |             | 公益事業        | 収益事業         | 計           |             |     |
| I. 収入の部     |             |             |              |             |             |     |
| 1. 機関誌収入    | 144,422,000 | 41,556,453  | 107,177,402  | 148,733,855 | △4,311,855  |     |
| 会 誌         | 45,534,000  | 41,556,453  | —            | 41,556,453  | 3,977,547   |     |
| 論 文 誌       | 98,888,000  | —           | 107,177,402  | 107,177,402 | △8,289,402  |     |
| 2. 事業収入     | 73,614,000  | 62,185,122  | 6,546,969    | 68,732,091  | 4,881,909   |     |
| 大会等         | 48,789,000  | 43,295,863  | —            | 43,295,863  | 5,493,137   |     |
| 講習会等        | 15,906,000  | 16,435,650  | —            | 16,435,650  | △529,650    |     |
| 出版          | 8,919,000   | 2,453,609   | 6,546,969    | 9,000,578   | △81,578     |     |
| 3. 調査研究収入   | 126,796,000 | 133,541,314 | —            | 133,541,314 | △6,745,314  |     |
| 研究会         | 79,226,000  | 69,754,732  | —            | 69,754,732  | 9,471,268   |     |
| シンポジウム等     | 47,070,000  | 56,427,676  | —            | 56,427,676  | △9,357,676  |     |
| 調査委員会       | 0           | 0           | —            | 0           | 0           |     |
| 教育委員会       | 500,000     | 7,358,906   | —            | 7,358,906   | △6,858,906  |     |
| 4. 国際活動収入   | 1,495,000   | 779,921     | —            | 779,921     | 715,079     |     |
| 5. プログラミング  |             |             |              |             |             |     |
| ・シンポジウム収入   | 5,756,000   | 6,757,052   | —            | 6,757,052   | △1,001,052  |     |
| 6. 入会金収入    | 1,800,000   | 1,346,000   | —            | 1,346,000   | 454,000     |     |
| 7. 会費収入     | 269,643,000 | 260,807,464 | —            | 260,807,464 | 8,835,536   |     |
| 8. 基本財産運用収入 | 2,000       | 5,200       | —            | 5,200       | △3,200      |     |
| 9. 雑収入      | 7,400,000   | 8,635,620   | 3,147,774    | 11,783,394  | △4,383,394  |     |
| 10. 貸付金戻り収入 | 0           | 6,000,000   | —            | 6,000,000   | △6,000,000  |     |
| 11. 諸積立取崩収入 | 0           | 11,214,200  | —            | 11,214,200  | △11,214,200 |     |
| 当期収入合計      | 630,928,000 | 532,828,346 | 116,872,145  | 649,700,491 | △18,772,491 |     |
| 前期繰越収支差額    | 179,291,407 | 311,605,669 | △132,314,262 | 179,291,407 | 0           |     |
| 収入合計        | 810,219,407 | 844,434,015 | △15,442,117  | 828,991,898 | △18,772,491 |     |

注) 差異の欄の△は予算に対しての増を示す。

| 科 目         | 予算額         | 決 算 額       |              |             | 差 異         | 備 考 |
|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-----|
|             |             | 公益事業        | 収益事業         | 計           |             |     |
| II. 支出の部    |             |             |              |             |             |     |
| 1. 機関誌発行業務費 | 193,127,000 | 92,192,986  | 91,588,121   | 183,781,107 | 9,345,893   |     |
| 会 誌         | 102,246,000 | 92,192,986  | —            | 92,192,986  | 10,053,014  |     |
| 論 文 誌       | 90,881,000  | —           | 91,588,121   | 91,588,121  | △707,121    |     |
| 2. 事業業務費    | 62,133,000  | 46,213,048  | 6,823,737    | 53,036,785  | 9,096,215   |     |
| 大会等         | 47,113,000  | 38,645,696  | —            | 38,645,696  | 8,467,304   |     |
| 講習会等        | 6,892,000   | 5,991,939   | —            | 5,991,939   | 900,061     |     |
| 出版          | 8,128,000   | 1,575,413   | 6,823,737    | 8,399,150   | △271,150    |     |
| 3. 調査研究業務費  | 139,593,000 | 136,047,008 | —            | 136,047,008 | 3,545,992   |     |
| 研究会         | 88,539,000  | 77,549,798  | —            | 77,549,798  | 10,989,202  |     |
| シンポジウム等     | 44,367,000  | 48,866,807  | —            | 48,866,807  | △4,499,807  |     |
| 調査委員会       | 1,458,000   | 1,120,111   | —            | 1,120,111   | 337,889     |     |
| 教育委員会       | 5,229,000   | 8,510,292   | —            | 8,510,292   | △3,281,292  |     |
| 4. 国際活動業務費  | 11,843,000  | 9,874,583   | —            | 9,874,583   | 1,968,417   |     |
| 5. プログラミング  |             |             |              |             |             |     |
| ・シンポジウム業務費  | 5,171,000   | 6,080,213   | —            | 6,080,213   | △909,213    |     |
| 6. 会員業務費    | 75,479,000  | 73,650,479  | 4,843,818    | 78,494,297  | △3,015,297  |     |
| 7. 管理費      | 157,741,000 | 135,921,161 | 27,595,767   | 163,516,928 | △5,775,928  |     |
| 8. 貸付金支出    | 0           | 2,960,000   | —            | 2,960,000   | △2,960,000  |     |
| 9. 回収不能見込額  | 0           | 5,064,994   | —            | 5,064,994   | △5,064,994  |     |
| 当期支出合計      | 645,087,000 | 508,004,472 | 130,851,443  | 638,855,915 | 6,231,085   |     |
| 当期収支差額      | △14,159,000 | 24,823,874  | △13,979,298  | 10,844,576  | △25,003,576 |     |
| 次期繰越収支差額    | 165,132,407 | 336,429,543 | △146,293,560 | 190,135,983 | △25,003,576 |     |

注) 差異の欄の△は予算に対しての増を示す。

II 正味財産増減計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

1) 増加の部 (単位:円)

| 科 目     | 決 算 額      |            |             | 備 考 |
|---------|------------|------------|-------------|-----|
|         | 計          | 公益事業       | 収益事業        |     |
| 資産増加額   |            |            |             |     |
| 当期収支差額  | 10,844,576 | 24,823,874 | △13,979,298 |     |
| 什器備品増加額 | 121,800    | 121,800    |             |     |
| 貸付金増加額  | 2,960,000  | 2,960,000  |             |     |
| 負債減少額   |            |            |             |     |
| 前受金減少額  | 50,409,250 | 50,409,250 | 0           |     |
| 計       | 64,335,626 | 78,314,924 | △13,979,298 |     |

2) 減少の部 (単位:円)

| 科 目     | 決 算 額      |            |      | 備 考 |
|---------|------------|------------|------|-----|
|         | 計          | 公益事業       | 収益事業 |     |
| 諸積立金取崩額 | 10,742,667 | 10,742,667 |      |     |
| 資産減少額   |            |            |      |     |
| 貸付金減少額  | 6,000,000  | 6,000,000  |      |     |
| 計       | 16,742,667 | 16,742,667 | 0    |     |

3) 合計の部 (単位:円)

| 科 目       | 決 算 額       |             |              | 備 考     |
|-----------|-------------|-------------|--------------|---------|
|           | 計           | 公益事業        | 収益事業         |         |
| 当期正味財産増加額 | 47,592,959  | 61,572,257  | △13,979,298  | 1) - 2) |
| 前期繰越正味財産額 | 588,608,988 | 707,830,564 | △139,221,576 |         |
| 期末正味財産合計額 | 616,201,947 | 769,402,821 | △153,200,874 |         |



Ⅲ 貸借対照表  
平成11年3月31日

(単位：円)

| 科目              | 合計                 | 公益事業               | 収益事業               |
|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| <b>I. 資産の部</b>  |                    |                    |                    |
| 1. 流動資産         |                    |                    |                    |
| 現金預金            | 627,067,778        | 627,067,778        |                    |
| 未収金             | 21,018,651         | 20,204,691         | 813,960            |
| 貸付金             | 3,260,000          | 3,260,000          |                    |
| 仮払金             | 4,645,216          | 4,645,216          |                    |
| 収益事業流用金         | 134,135,916        | 134,135,916        |                    |
| (うち当期増加額)       | ( 11,122,996 )     | ( 11,122,996 )     |                    |
| 流動資産合計          | 790,127,561        | 789,313,601        | 813,960            |
| 2. 固定資産         |                    |                    |                    |
| (1)有形固定資産       |                    |                    |                    |
| 什器備品            | 19,276,770         | 19,276,770         |                    |
| (2)その他の固定資産     |                    |                    |                    |
| 電話加入権           | 10,300             | 10,300             |                    |
| 退職引当資産          | 42,839,809         | 42,839,809         |                    |
| 敷金              | 16,898,317         | 16,898,317         |                    |
| 固定資産合計          | 79,025,196         | 79,025,196         |                    |
| <b>資産合計</b>     | <b>869,152,757</b> | <b>868,338,797</b> | <b>813,960</b>     |
| <b>II. 負債の部</b> |                    |                    |                    |
| 1. 流動負債         |                    |                    |                    |
| 未払金             | 31,670,447         | 19,835,369         | 11,835,078         |
| 前受金             | 36,518,340         | 28,474,500         | 8,043,840          |
| 仮受金             | 2,721,304          | 2,721,304          |                    |
| 公益事業流用金         | 134,135,916        |                    | 134,135,916        |
| (うち当期増加額)       | ( 11,122,996 )     | ( 11,122,996 )     |                    |
| 流動負債合計          | 205,046,007        | 51,031,173         | 154,014,834        |
| 2. 固定負債         |                    |                    |                    |
| 退職給与引当金         | 42,839,809         | 42,839,809         |                    |
| 貸倒引当金           | 5,064,994          | 5,064,994          |                    |
| 固定負債合計          | 47,904,803         | 47,904,803         |                    |
| <b>負債合計</b>     | <b>252,950,810</b> | <b>98,935,976</b>  | <b>154,014,834</b> |

| 科目                 | 合計                 | 公益事業               | 収益事業                |
|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| <b>III. 正味財産の部</b> |                    |                    |                     |
| 1. 基本金             | 500,000            | 500,000            |                     |
| 2. 諸積立金            |                    |                    |                     |
| 国際活動積立金            | 74,106,500         | 74,106,500         |                     |
| 長期活動積立金            | 240,000,000        | 240,000,000        |                     |
| 研究活動積立金            | 50,356,607         | 50,356,607         |                     |
| アロウミン・ソング・ソング積立金   | 4,396,044          | 4,396,044          |                     |
| 諸積立金合計             | 368,859,151        | 368,859,151        |                     |
| 3. その他正味財産         | 246,842,796        | 400,043,670        | △153,200,874        |
| <b>正味財産合計</b>      | <b>616,201,947</b> | <b>769,402,821</b> | <b>△153,200,874</b> |
| (うち当期正味財産増加額)      | ( 47,592,959 )     | ( 61,572,257 )     | ( △13,979,298 )     |
| <b>負債及び正味財産合計</b>  | <b>869,152,757</b> | <b>868,338,797</b> | <b>813,960</b>      |

Ⅳ 繰越金処理計算書

平成11年3月31日

(単位：円)

|                  | 合計          | 公益          | 収益           |
|------------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 次期繰越収支差額      | 190,135,983 | 336,429,543 | △146,293,560 |
| 2. 資金特定額         | 9,968,464   | 9,968,464   |              |
| 国際活動積立金          | 318,800     | 318,800     |              |
| 研究活動積立金          | 8,945,122   | 8,945,122   |              |
| アロウミン・ソング・ソング積立金 | 704,542     | 704,542     |              |
| 3. 次期繰越金額        | 180,167,519 | 326,461,079 | △146,293,560 |

注) 資金特定とは、特定の目的に使用する資金の保留をいう。

収支計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

坂井記念賞

(単位：円)

| 科目              | 予算額        | 決算額        | 差異       | 備考 |
|-----------------|------------|------------|----------|----|
| <b>I. 収入の部</b>  |            |            |          |    |
| 1. 雑収入          | 15,000     | 15,729     | △729     |    |
| 当期収入合計          | 15,000     | 15,729     | △729     |    |
| 前期繰越収支差額        | 6,481,805  | 6,481,805  | 0        |    |
| 収入合計            | 6,496,805  | 6,497,534  | △729     |    |
| <b>II. 支出の部</b> |            |            |          |    |
| 1. 坂井記念業務費      | 1,368,000  | 1,257,720  | 110,280  |    |
| 当期支出合計          | 1,368,000  | 1,257,720  | 110,280  |    |
| 当期収支差額          | △1,353,000 | △1,241,991 | △111,009 |    |
| 次期繰越収支差額        | 5,128,805  | 5,239,814  | △111,009 |    |

注) 差異の欄の△は予算に対しての増を示す。

山下記念賞

(単位：円)

| 科目              | 予算額       | 決算額       | 差異       | 備考 |
|-----------------|-----------|-----------|----------|----|
| <b>I. 収入の部</b>  |           |           |          |    |
| 1. 雑収入          | 18,000    | 14,232    | 3,768    |    |
| 当期収入合計          | 18,000    | 14,232    | 3,768    |    |
| 前期繰越収支差額        | 7,086,807 | 7,086,807 | 0        |    |
| 収入合計            | 7,104,807 | 7,101,039 | 3,768    |    |
| <b>II. 支出の部</b> |           |           |          |    |
| 1. 山下記念業務費      | 840,000   | 577,666   | 262,334  |    |
| 当期支出合計          | 840,000   | 577,666   | 262,334  |    |
| 当期収支差額          | △822,000  | △563,434  | △258,566 |    |
| 次期繰越収支差額        | 6,264,807 | 6,523,373 | △258,566 |    |

注) 差異の欄の△は予算に対しての増を示す。

2.3 規格会計

I 収支計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

(単位：円)

| 科目             | 予算額         | 決算額         | 差異          | 備考 |
|----------------|-------------|-------------|-------------|----|
| <b>I. 収入の部</b> |             |             |             |    |
| 1. 規格賛助員       |             |             |             |    |
| 会費収入           | 172,200,000 | 171,150,000 | 1,050,000   |    |
| 2. 補助金等収入      | 25,000,000  | 30,012,400  | △5,012,400  |    |
| 3. 雑収入         | 1,200,000   | 7,689,852   | △6,489,852  |    |
| 当期収入合計         | 198,400,000 | 208,852,252 | △10,452,252 |    |
| 前期繰越収支差額       | 191,974,075 | 191,974,075 | 0           |    |
| 収入合計           | 390,374,075 | 400,826,327 | △10,452,252 |    |
| <b>II 支出の部</b> |             |             |             |    |
| 1. 事業費         | 115,550,000 | 103,863,942 | 11,686,058  |    |
| 2. 管理費         | 96,850,000  | 92,627,117  | 4,222,883   |    |
| 当期支出合計         | 212,400,000 | 196,491,059 | 15,908,941  |    |
| 当期収支差額         | △14,000,000 | 12,361,193  | △26,361,193 |    |
| 次期繰越収支差額       | 177,974,075 | 204,335,268 | △26,361,193 |    |

注) 差異の欄の△は予算に対しての増を示す。

II 正味財産増減計算書  
平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

1) 増加の部 (単位:円)

| 科目         | 決算額        | 備考 |
|------------|------------|----|
| 資産増加額      |            |    |
| 当期収支差額     | 12,361,193 |    |
| 什器備品購入額    | 855,750    |    |
| 負債減少額      |            |    |
| 退職給与引当金取崩額 | 1,964,541  |    |
| 計          | 15,181,484 |    |

2) 減少の部 (単位:円)

| 科目         | 決算額       | 備考 |
|------------|-----------|----|
| 資産減少額      |           |    |
| 什器備品売却額    | 2,185,325 |    |
| 負債増加額      |           |    |
| 退職給与引当金繰入額 | 1,771,546 |    |
| 計          | 3,956,871 |    |

3) 合計の部 (単位:円)

| 科目        | 決算額         | 備考      |
|-----------|-------------|---------|
| 当期正味財産増加額 | 11,224,613  | 1) - 2) |
| 前期繰越正味財産額 | 185,925,463 |         |
| 期末正味財産合計額 | 197,150,076 |         |

III 貸借対照表  
平成11年3月31日

(単位:円)

| 借方       |             | 貸方            |              |
|----------|-------------|---------------|--------------|
| 科目       | 金額          | 科目            | 金額           |
| I. 資産の部  |             | II. 負債の部      |              |
| 1. 流動資産  |             | 1. 流動負債       |              |
| 現金預金     | 175,829,405 | 未払金           | 11,116,160   |
| 未収金      | 26,509,000  | 前受金           | 0            |
| 仮払金      | 298,700     |               |              |
| 流動資産合計   | 202,637,105 | 流動負債合計        | 11,116,160   |
| 2. 固定資産  |             | 2. 固定負債       |              |
| 什器備品     | 5,629,131   | 退職給与引当金       | 12,814,323   |
| 退職給与引当資産 | 12,814,323  |               |              |
| 固定資産合計   | 18,443,454  | 固定負債合計        | 12,814,323   |
|          |             | 負債合計          | 23,930,483   |
|          |             | III. 正味財産の部   |              |
|          |             | 1. 基本金        | 0            |
|          |             | 2. 正味財産       | 197,150,076  |
|          |             | 正味財産合計        | 197,150,076  |
|          |             | (うち当期正味財産増加額) | (11,224,613) |
| 資産合計     | 221,080,559 | 負債及び正味財産合計    | 221,080,559  |

2.4 総括表 (一般会計・規格会計)

I 収支計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

(単位:円)

| 科目       | 合計            | 一般          | 規格          | 備考 |
|----------|---------------|-------------|-------------|----|
| 収入合計     | 1,229,818,225 | 828,991,898 | 400,826,327 |    |
| 支出合計     | 835,346,974   | 638,855,915 | 196,491,059 |    |
| 次期繰越収支差額 | 394,471,251   | 190,135,983 | 204,335,268 |    |

II 正味財産増減計算書

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

1) 増加の部 (単位:円)

| 科目         | 合計         | 一般         | 規格         | 備考 |
|------------|------------|------------|------------|----|
| 資産増加額      |            |            |            |    |
| 当期収支差額     | 23,205,769 | 10,844,576 | 12,361,193 |    |
| 什器備品増加額    | 977,550    | 121,800    | 855,750    |    |
| 貸付金増加額     | 2,960,000  | 2,960,000  |            |    |
| 負債減少額      |            |            |            |    |
| 前受金減少額     | 50,409,250 | 50,409,250 |            |    |
| 退職給与引当金取崩額 |            |            | 1,964,541  |    |
| 計          | 79,517,110 | 64,335,626 | 15,181,484 |    |

2) 減少の部 (単位:円)

| 科目         | 合計         | 一般         | 規格        | 備考 |
|------------|------------|------------|-----------|----|
| 諸積立金取崩額    | 10,742,667 | 10,742,667 |           |    |
| 資産減少額      |            |            |           |    |
| 貸付金減少額     | 6,000,000  | 6,000,000  |           |    |
| 什器備品減少額    | 2,185,325  |            | 2,185,325 |    |
| 負債増加額      |            |            |           |    |
| 退職給与引当金繰入額 | 1,771,546  |            | 1,771,546 |    |
| 計          | 20,699,538 | 16,742,667 | 3,956,871 |    |

3) 合計の部 (単位:円)

| 科目        | 合計          | 一般          | 規格          | 備考      |
|-----------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 当期正味財産増加額 | 58,817,572  | 47,592,959  | 11,224,613  | 1) - 2) |
| 前期繰越正味財産額 | 754,534,451 | 568,608,988 | 185,925,463 |         |
| 期末正味財産合計額 | 813,352,023 | 616,201,947 | 197,150,076 |         |

III 貸借対照表  
平成11年3月31日

(単位:円)

| 科目         | 合計            | 一般          | 規格          |
|------------|---------------|-------------|-------------|
| 1. 資産の部    |               |             |             |
| 流動資産       | 992,764,666   | 790,127,561 | 202,637,105 |
| 固定資産       | 97,468,650    | 79,025,196  | 18,443,454  |
| 資産合計       | 1,090,233,316 | 869,152,757 | 221,080,559 |
| 2. 負債の部    |               |             |             |
| 流動負債       | 216,162,167   | 205,046,007 | 11,116,160  |
| 固定負債       | 60,719,126    | 47,904,803  | 12,814,323  |
| 負債合計       | 276,881,293   | 252,950,810 | 23,930,483  |
| 3. 正味財産の部  |               |             |             |
| 正味財産       | 813,352,023   | 616,201,947 | 197,150,076 |
| 負債及び正味財産合計 | 1,090,233,316 | 869,152,757 | 221,080,559 |

3. 平成11年度事業計画書

1. 概況

平成11年度は、平成9年度の将来ビジョン検討委員会報告に沿って昨年度から進めている諸施策を踏まえ、会員のニーズを的確に捉え、学会の一層の活性化につながる積極的な事業展開を図るため、次の諸点を重点事項として実施する。(1) 研究活動の活性化、(2) 情報処理教育の重視、(3) 会員サービスの充実、(4) 情報化の推進、(5) 学会活動の国際化、(6) 財務基盤の強化。

研究活動の活性化については、研究発表および討論を盛んにすることに努め、研究会活動を活性化させる。

教育面では、情報処理教育カリキュラムの検討および教育内容の認定制度の具体化の検討を推進し、教育分野への貢献を図る。その一環として、教育関係の表彰制度を新たに設ける。

会員サービスの充実については、会誌の誌面充実を進め、会員にタイムリーに役立つ情報を提供する。論文誌も技術の進歩に見合ったスピーディな発行に努め、また、研究会論文誌の継続発行により多様な研究の発表の場を提供してゆく。事業活動では、全国大会を2回開催し、同時に社会人向け無料の公開パネルを併催する。実務家に好評の連続セミナーも例年通り、年6回開催する。

情報化では、会誌および論文誌の電子的提供に備えた施策を講じてゆくと同時に、学会ホームページの充実を進め、会員に対する情報提供を一段と進める。また、機関誌編集や学会事務の情報化による合理化をさらに進める。

国際面では、IEEE-CSとのインターネットに関する国際会議の企画を進めるとともに、IEEE、ACMとの協力推進、IFIP WCC 2000およびSEARCC '99の支援、韓国KISSなど他の海外学術団体との協調、会議への積極参加を推進する。

情報規格調査会活動では、研究会およびその他学会内外関連機関との連携の強化、日本提案による国際標準化の推進、国際活動への積極的貢献等に努める。

これらの活動を支える学会の組織・制度面では、定款改訂を、総会、文部省の承認を得て実施するほか、これに伴う代表会員制度の新設やフェロー制度の導入等を進めることとする。

## 2. 会 員

会員数を次のとおり予定する。

|                          | 10年度末      | 平成11年度入会            | 平成11年度退会               | 11年度末      |
|--------------------------|------------|---------------------|------------------------|------------|
| 名誉会員                     | 30         | 3                   | 0                      | 33         |
| 正 会 員                    | 25,233     | 1,200<br>(学生→正) 600 | (除名) 600<br>(退会) 1,200 | 25,233     |
| 学生会員                     | 1,667      | 800                 | (学生→正) 600<br>(退会) 150 | 1,717      |
| 海外会員                     | 6          | 2                   | 0                      | 8          |
| 会員合計                     | 26,936     | 2,605               | 2,550                  | 26,991     |
| 賛助会員<br>(上段：社数<br>下段：口数) | 413<br>542 | 30<br>40            | 10<br>10               | 433<br>572 |

## 3. 会議の開催

以下の会議を行う。

### 3.1 第41回通常総会

平成11年5月20日(木)にニューサテライトホテル芝浦(東京都港区)で開催する。

### 3.2 理事会

定款改訂に伴う諸規程の改定、理事分担業務、役員選挙方法等を検討する。

### 3.3 支部長会議

各支部活動の現況報告のほか、本支部間の連絡、要望等について審議、検討する。

## 4. 定款の改訂

定款に記載されている当学会の目的および事業の変更、総会の成立要件の変更、代表会員制度の導入等を目的とした定款改訂を総会の承認および文部省の認可を待って実施する。またこれに伴い、代表会員選出規程および一般規則を制定するほか、関連諸規程の見直しを行う。

## 5. 表 彰

### 5.1 功績賞

### 5.2 論文賞

### 5.3 Best Author賞

### 5.4 坂井記念特別賞

### 5.5 山下記念研究賞

### 5.6 大会優秀賞、大会奨励賞

### 5.7 優秀教育実践賞、優秀教材開発賞、教育貢献賞

## 6. 会誌、論文誌編集活動

### 6.1 会誌「情報処理」(月刊)

#### (1) 深い内容をタイムリーに解説

平成10年度にJournalからMagazineに変身した会誌をより一層、会員に親しまれ、役立つものとするために、記事の企画から執筆、閲読までの過程を充実させ、専門家の執筆によるタイムリーで、かつ深い内容の記事を専門家以外にも分かりやすくかつ興味深く読めるよう編集する。

#### (2) 電子版会誌の出版を開始

検索の容易さ、ハイパーリンク機能やマルチメディア機能の利用、会誌の迅速な配布、など会員サービスの向上を目的として、会誌の電子化を開始する。本年度は、電子版の会誌を試験公開して、会員の意見を広く収集し、本格公開に反映する。

#### (3) 記事の範囲を拡大

情報処理技術が広く社会に浸透するに従って、本学会の扱う分野も

拡大している。会誌記事の範囲を、コンテンツ制作技術や著作権などコンテンツに関するものに広げ、幅広い会員の興味を引くものとする。特に、我が国として独自性のある技術や作品を取り上げる。

#### (4) ページ数の遵守

年間ページ数は、本文各号112頁、会告(別冊)40頁、全国大会プログラム(年2回、別冊)各60頁、広告各号14頁以上を遵守する。

## 6.2 論文誌「情報処理学会論文誌」(月刊)

### (1) 論文誌における国際化と情報発信の在り方の検討

論文アブストラクトなどのWeb公開、英文オンラインジャーナルの発行など

### (2) 論文編集処理の電子化の検討

スタイルファイルの改善、電子投稿・査読方式の検討と試行など

### (3) 論文誌の在り方の検討

研究会論文誌との連携、論文種別拡大(サーベイ、招待論文)、論文数増大/裾野拡大に伴う分冊化の検討

### (4) 査読期間の短縮

平成9、10年度に行った査読期間短縮の効果が現れてきたので、さらにこれを推進するため、査読方法の改善、査読委員の見直し等に努める。

## 7. 事業活動

### 7.1 全国大会

(1) 第59回全国大会 平成11年9月28日(火)～30日(木)(岩手県立大)

(2) 第60回全国大会 平成12年3月14日(火)～16日(木)(拓殖大)

### 7.2 連続セミナー

会 場：工学院大学

テーマ：ネットワーク社会フロンティアへの挑戦

第1回 ウェアラブルコンピューターコンピュータを身にまとい新しいコミュニケーションを始めようー 平成11年7月7日(水)

第2回 皆が発信するメガチャンネル時代ーインターネットAVサービスとMPEG4、MPEG7の全貌ー 9月20日(月)

第3回 車社会とモバイルコンピューティングーITS/IMT2000/MMAC技術による新展開を見通すー 10月29日(金)

第4回 放送が変わる、インターネットによるデータ配信ーHTMLからXMLへー 開催日未定

第5回 ネットワーク社会の犯罪防止とプライバシーの保護 平成12年1月21日(金)

第6回 安心ホームヘルスケア/バーチャルホスピタルー高齢化社会の活力維持を目指して未病状態からのケアが始まるー 開催日未定

### 7.3 プログラミング・シンポジウム

(1) プログラミング・シンポジウム(平成12年1月、場所未定)

(2) 夏のプログラミング・シンポジウム(開催未定)

(3) 情報科学若手の会(開催未定)

### 7.4 産業フォーラム

産業界で最近使用され始めた、あるいは近い将来使用が予想される技術テーマについて、学界メンバと産業界メンバとの間で、率直な意見交換を行う場を提供し、情報交換により相互に技術研究最先端の状況を把握できるようにする目的で、初の試みとして産業フォーラムを開設する。

平成11年度は、「Webコンピューティングによる企業間連携」、「次世代インターネット」、「ITS」、「情報家電」等のテーマを取り上げる。

### 7.5 電気情報関連学会連合大会

平成11年8月27日(金)(会場未定)

## 8. 出版・電子化

### 8.1 出 版

#### (1) 教科書シリーズの新規発行

平成11年度下期に刊行開始、以降毎年3～5冊の発行を目指す。マルチメディアを視野に入れたオンライン出版も検討。

(2) 英文図書“Advanced Information Technology in Japan Series”の継続発行

年2、3冊のペースで発行する。

(3) 「情報フロンティアシリーズ」の継続発行

### 8.2 電子化・情報発信

#### (1) 会誌・論文誌等のwebへの掲載開始

無償の試行期間(平成11年10月～12年3月)を経て平成12年度より有償掲載を開始。

#### (2) 課金システムの稼働

会誌、論文誌のWebへの掲載に伴う課金システムの稼働と安定的運用(課金方式の決定・システム構築は平成11年度上期中、試験運用は

平成11年度下期、実運用は平成12年度に開始予定)

(3) 接続回線の増強、ファイル容量の増大

電子化委員会での決定に基づき、平成11年度の早期に実施。

(4) 学術情報センターシステムとの連携強化

学術情報センターと科学技術振興事業団が計画している電子ジャーナル投稿・編集・流通システムの利用可能性を検討する。

(5) 著作権の明確化

電子化した著作物の著作権を明確にするため、著作権規定の改定を行う(会誌担当と協力)。

(6) 電子メール自動転送サービスの開始

電子メールの自動転送サービスの開発を平成11年度上期中に実施し、下期(平成11年10月)より実施する。

## 9. 調査研究活動

### 9.1 研究会、調査委員会、研究グループの活動計画

(1) 研究会活性化のための研究会・領域の運営方法等の見直し検討

(2) 研究会活動を中心とした情報学の発展を考慮した新分野の開拓および既存研究会の見直し

(3) 全国大会をはじめとする関連諸活動との連携促進

### 9.2 領域委員会 (3)

3つの領域に対応して本年度も以下の領域委員会を設け、研究発表および討論を盛んにすることに努め、研究会活動の活性化促進を図る。

(1) コンピュータサイエンス領域委員会

(2) 情報環境領域委員会

(3) フロンティア領域委員会

### 9.3 研究会 (30)、研究グループ (4)

各領域に以下に記すような研究会、研究グループを設け、活発な研究会活動を展開する。本年度から新たな研究会「ゲーム情報学」が充足するとともに、2研究会の名称を変更する。

<コンピュータサイエンス領域>

・研究会 (9) (研究会名のかっこ内は英略称)

データベースシステム (DBS)、ソフトウェア工学 (SE)、計算機アーキテクチャ (ARC)、システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)、システムLSI設計技術 (SLDM) (名称変更)、ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)、プログラミング (PRO)、アルゴリズム (AL)、数値モデル化と問題解決 (MPS)

<情報環境領域>

・研究会 (12)

マルチメディア通信と分散処理 (DPS)、ヒューマンインタフェース (HI)、グラフィクスとCAD (CG)、情報システムと社会環境 (IS)、情報学基礎 (FI)、情報メディア (IM)、オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)、グループウェア (GW)、分散システム/インターネット運用技術 (DSM) (名称変更)、デジタル・ドキュメント (DD)、モバイルコンピューティング (MBL)、コンピュータセキュリティ (CSEC)

・研究グループ (3)

システム評価 (SE)、高品質インターネット (HQI) (10年8月設立)、高度道路交通システム (ITS) (10年7月設立)

<フロンティア領域>

・研究会 (9)

自然言語処理 (NL)、知能と複雑系 (ICS)、コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)、コンピュータと教育 (CE)、人文科学とコンピュータ (CH)、音楽情報科学 (MUS)、音声言語情報処理 (SLP)、電子化知的財産・社会基盤 (EIP)

新設研究会: ゲーム情報学 (GI)

・研究グループ (1)

エンターテインメントコンピューティング (EC) (10年10月設立)

### 9.4 研究会論文誌の発行と計画

(1) 多様な価値の創造、研究会活性化のための研究会論文誌の発行

研究会論文誌の編集・発行計画

・プログラミング

年間発行回数: 5 編集委員長: 上田和紀

・数値モデル化と応用

年間発行回数: 3 編集委員長: 白石洋一

・データベース

年間発行回数: 4 編集委員長: 田中克己, 中谷多哉子

発刊予定

・インターネット

年間発行回数: 2 編集委員長: 一井信吾

(2) 永続性を指向した基幹論文誌との関係の調整および編集作業の見直し

論文・研究会調整委員会の検討結果を受けながら、基幹論文誌との関係の調整を図る。また、印刷作業に関して研究会論文誌編集委員と業者の作業分担の見直し。

(3) 研究会論文誌掲載論文の研究成果を公知するための販売制度の導入検討

研究会登録会員のみには配布するだけでなく、一般会員でも購読可能にするための検討開始。

### 9.5 シンポジウム・講習会等 (29件)

| シンポジウム・講習会等名                 | 主催研究会略称               | 期 間                   | 場 所             |
|------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------|
| システムLSIシンポジウム                | SLDM                  | H11.5.25 (火)          | 中央大             |
| 1999年並列処理シンポジウム (JSPF99)     | ARC, OS, AL, PRO, HPC | H11.6.9 (水) ~11 (金)   | つくば国際会議場        |
| CAD/ビジュアルコンピューティング合同シンポジウム   | CG                    | H11.6.24 (木) ~25 (金)  | 阪大              |
| DICOM '99シンポジウム              | DPS, GW, MBL          | H11.6.30 (水) ~7.2 (金) | ホテルシーモア (和歌山)   |
| DAシンポジウム                     | SLDM                  | H11.7.15 (木) ~17 (土)  | 遠鉄エンバイヤホテル (浜松) |
| オブジェクト指向 '99シンポジウム           | SE                    | H11.7.21 (水) ~23 (金)  | 東工大             |
| AVMシンポジウム                    | AVM                   | H11.7.                | 早大              |
| 夏の情報教育シンポジウム                 | CE                    | H11.7.28 (木) ~30 (土)  | 冠着荘 (長野)        |
| チュートリアル・コンピュータと音楽III         | MUS                   | H11.8.                | 国民宿舎「水郷」        |
| サマーワークショップ                   | SE                    | H11.9.9 (木) ~10 (金)   | 小樽              |
| ヒューマンインタフェースプロフェッショナル4       | HI                    | H11.9.10 (金) ~11 (土)  | ビッグパレットふくしま     |
| 人文科学とコンピュータシンポジウム1999        | CH                    | H11.9.17 (金) ~18 (土)  | 国立民族学博物館        |
| 情報デザインの共体験ワークショップ            | IM                    | H11.10.12 (火) ~13 (水) | 多摩美大            |
| コンピュータシステムシンポジウム             | OS                    | H11.10.20 (水) ~21 (木) | 未定              |
| ゲームプログラミングワークショップ            | GI                    | H11.10.22 (金) ~24 (日) | 箱根セミナーハウス       |
| エンターテインメントコンピューティングシンポジウム    | EC*                   | H11.10.               | 未定              |
| コンピュータセキュリティシンポジウム '99       | CSEC                  | H11.11.4 (木) ~5 (金)   | 金沢              |
| サイバースペースにおける先駆的社會・文化実験プロジェクト | IM                    | H11.11.25 (木) ~26 (金) | 工学院大            |
| モバイルコンピューティングシンポジウム          | MBL                   | H11.11.               | 東京              |
| アドバンスド・データベース・シンポジウム '99     | BDS                   | H11.12.1 (水) ~3 (金)   | 工学院大            |
| マルチメディア通信と分散処理ワークショップ        | DPS                   | H11.12.1 (水) ~3 (金)   | 別府 (大分)         |
| APSEC '99                    | SE                    | H11.12.8 (水) ~10 (金)  | 高松              |
| 問題解決とモデル化 (2) シンポジウム         | MPS                   | H11.12.9 (木) ~10 (金)  | 東京農工大           |
| ITSシンポジウム                    | ITS*                  | H11.12.10 (金)         | 未定              |
| 2000年情報学シンポジウム               | FI                    | H12.1.13 (木) ~14 (金)  | 日本学術会議講堂        |
| 情報システムシンポジウム                 | IS                    | H12.1.21 (金)          | 東洋大             |
| デジタルドキュメントシンポジウム             | DD                    | H12.1.28 (金)          | 工学院大            |
| 分散システム運用技術シンポジウム2000         | DSM                   | H12.2.4 (木) ~5 (金)    | 慶大              |
| インタラクション2000                 | GW, HI, IM            | H12.3.3 (金) ~4 (土)    | 東工大             |

\*印は研究グループ

## 10. 情報処理教育委員会

- (1) アクレディテーション委員会  
専門基準の策定などを行う。
- (2) カリキュラムの見直し  
ISの見直し、初等・中等教育の検討などを行う。
- (3) シンポジウムの開催  
アクレディテーションと初等中等教育を中心としたシンポジウムの開催
- (4) 教育賞の制定  
優秀教育実践賞、優秀教材開発賞、教育貢献賞を設け、表彰を行う。

## 11. 国際活動

### 11.1 海外学会との連携・協力による会員サービスの向上

IFIPや米国のACM、IEEE-CSを始め、アジアの関係学会との連携を深める。このため、前年度のIEEE-CSとの協力協定に続き、本年度は、ACMおよびインド・コンピュータ学会との会員サービスを目的とした相互協力に関する協定を締結し緊密化を図る。

- (1) ACM等との協力協定締結の検討
- (2) インド・コンピュータ学会との協力協定締結
- (3) その他国際学会・コンソーシアムとの交流推進

### 11.2 IFIP WCCおよび各TCへの積極的な参加

- (1) IFIP活動の会員への広報と産業界との連携推進  
・会誌にIFIP活動の解説記事を掲載する。  
・電子協（日本電子工業振興協会）を通じて産業界との連携を図る。  
・昨年に引き続き全国大会でシンポジウムを開催する。
- (2) IFIP WCC 2000（2000年8月に中国で開催）準備への協力  
日本からのプログラム委員会への参加など
- (3) IFIP TCへの委員の積極的な参加  
IFIP TCへの委員の参加を推進のため、当学会の交流援助金を活用して支援する

### 11.3 IEEE-CSとの協力関係の強化

- (1) 会費割引の相互実施
- a) IPSJ会員がIEEEとIEEE-CSの両方に加入する場合  
IEEEとIEEE-CSの会費10%割引は98年から実施済み。  
IPSJ会費の10%割引は、定款改訂を待って実施する。  
日本のIEEE支部会費の割引は交渉を継続する。
- b) IPSJ会員がIEEEに加入せずIEEE-CSのみに加入する場合  
相互割引については、交渉を継続する。
- (2) IEEE-CS/IPSJ共催の国際会議（仮称：SAINT）の開催準備  
・対象分野：InternetのInfrastructureとApplications  
・IEEE-CSとIPSJがfounder（毎回共催）で、他にも共催を求める。  
・開催時期：第1回は2000年11～12月頃か2001年1～2月（21世紀最初の国際会議）  
・開催地：第1回は米国西海岸（San Francisco周辺）、第2回は日本  
・予定参加者：第1回は300～500人（将来は1500人目標）  
・第1回のGeneral co-chair：日本（戸田会長）、米国（未定）

### 11.4 ACMとの協力関係の強化

- (1) 協力協定締結（1985年のJoint Membership Agreementの強化）の検討
- (2) IPSJ会員の関心が高いCACM論文の翻訳を会誌に掲載
- (3) ACMにSIGがあるという特徴を生かしてSIGレベルの協力を推進する。

### 11.5 国際会議の主催・共催

- (1) 第28回並列処理に関する国際会議  
ICPP99: The 28th International Conference on Parallel Processing 平成11年9月21日（火）～24日（金）会津大
- (2) 実時間計算システムとその応用国際会議  
RTCSA99: Real-Time Computing Systems and Applications 平成11年12月13日（月）～15日（水）香港
- (3) アジア南太平洋設計自動化会議2000  
ASP-DAC 2000: Asia and South Pacific Design Automation Conference 2000 平成12年1月25日（火）～28日（金）パシフィコ横浜

## 12. 情報規格調査会活動

### 12.1 日本提案による国際標準化の推進

- (1) 従来より実施されているSC11およびSC23からの日本提案を支援し、今後も活発に継続するよう働きかけると同時に、その他のSCに対しても一層この提案型の活動を展開するよう促し、必要な支援を行う。

(2) 前記電子フォーラムを活用するなどして、学会研究会より日本提案の“シーズ（種）”が提示されるよう働きかけ、共同で日本提案のための作業を行う。

### 12.2 国際活動への積極的貢献

- (1) 重点指向の方針のもとに、国際会議への参加および国際会議の招致を積極的に行う。
- (2) 機会があればChairman, Convenor, Project Editorを積極的に引き受ける。
- (3) Secretariatの人的資源とワークロードを見直し、事務環境・体制を強化する。

### 12.3 学会会員およびIEEEなど学会内外の関連機関との連携の強化

- (1) 学会会員に国際標準化の意義、現状を理解してもらう機会を設けるとともに、標準化活動に関するオープンな電子的フォーラムを設定し、会員と情報規格調査会傘下の専門委員会委員との間の活発な意見交換を促す。
- (2) IEEE-SA Standards Boardとの協力の経験を活かし、情報処理学会の学会活動と標準化活動の連携を強化するとともに、情報処理学会標準の可能性についても検討を開始する。

### 12.4 文字コードの標準体系の見直し

文字コードの国際標準体系について、今後のニーズ、市場性、開発・保守などの観点から検討し、公的機関が担当すべきレバートリとその他の機関が分担すべきものを明確化すると共に、将来に渡って文字コード標準体系全体を収容できるアーキテクチャを提案することを目指す。

### 12.5 電子化による標準活動の活性化と活動のオープン化

- (1) 平成10年度は専門委員会が当調査会のサーバを使用できる環境を整備したが、本年度は実際に使用を開始し、審議の効率化に役立てる。
- (2) 情報を一方的に流すだけでなく、平成10年度から始まったITSCJの広場や前記学会会員用フォーラムを含む双方向のコミュニケーションを通して、より使われる標準の開発や開発期間の短縮などに関するアイデアを募るとともに標準化活動の活性化をはかる。

## 13. 関連学協会との連絡・協力

### 13.1 日本学術会議との連絡・協力

関連研究連絡委員会との連絡会の開催および行事の共同主催を行う。

### 13.2 平成11年電気・情報関連学会連合大会

平成11年電気・情報関連学会連合大会（平成11年8月27日（金）、場所未定）を幹事学会と協力して開催するとともに、日本学術会議3研連役員と関連学会役員連絡会議に参加する。

### 13.3 文部省所管のサイエンスボランティア活動に参加

### 13.4 国際的エンジニア教育検討委員会への参加

### 13.5 日本工学会ほか関連団体との連絡・協力

電気情報関連6学会共同の「情報化社会の発展に向けた提言」に伴うホームページWG、リテラシーWGに平成10年度に引き続き委員を派遣し活動を継続する。

## 14 支部活動

各支部では、支部総会、幹事会、評議員会、支部大会、電気関係学会連合大会等の開催を計画。このうち四国支部では、5月14日（金）の支部総会において支部創立10周年記念行事として講演、祝賀会等を開催する。また、関西支部では新ソフトウェア産業研究会が発足する。

各支部総会へは本部から役員を派遣し、学会の現状、定款改訂の背景等について報告を行う。また、支部支援のため本部で派遣講師の紹介等を新たに実施する。

## 15. 広告増加、会員増強、会員特典、情報公開

### 15.1 財務基盤の強化

役員所属企業に引き続き広告増加の協力を要請するほか、その他情報関連企業、出版社等への広告依頼対象を広げ、広告増加に努める。また、経費節減、業務合理化を進め、財務基盤の強化を図る。

### 15.2 会員増強委員会

- ・学会活動活性化委員による企業の新入社員、大学学生の入会勧誘運動の推進
- ・会員による新会員紹介運動の実施
- ・大学等の情報系学科の職員、IEEE-CS、ACM会員に対する入会勧誘
- ・全国大会、シンポジウム等での新入会員獲得運動の実施
- ・賛助会員の新規加入の推進

15.3 会員特典

- ・会員証の新規発行
- ・レンタカー、ホテル、書店等との協定拡大による会員割引制度の充実
- ・会費払込の便宜のため、コンビニエンスストアからの払込み実施

15.4 情報公開

会員のニーズに沿った適時、適切な情報発信、情報公開の実施

16. 事務局業務の改善

16.1 システム化の推進

会員・研究会新システムの定着化、課金システムの開発、インターネットの拡大活用、設備・ソフトの増強、システム保守体制の確保

16.2 職員関係

事務局組織の見直し、適切な人事ローテーションの実施、講習会への参加等による事務技術の向上、勤務評価制度の継続実施、アルバイト・外注の積極的活用。

4. 平成11年度収支予算書

4. 平成11年度収支予算書

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで

一般会社

| 科 目                 | 予 算 額       |              |             | 前年度予算       | 増 減        | 備 考 |
|---------------------|-------------|--------------|-------------|-------------|------------|-----|
|                     | 公益事業        | 収益事業         | 合 計         |             |            |     |
| I. 収入の部             |             |              |             |             |            |     |
| 1. 機関誌収入            | 44,927,000  | 111,659,000  | 156,586,000 | 144,422,000 | 12,164,000 |     |
| 会誌                  | 44,927,000  | —            | 44,927,000  | 45,534,000  | △607,000   |     |
| 論文誌                 | —           | 111,659,000  | 111,659,000 | 98,888,000  | 12,771,000 |     |
| 2. 事業収入             | 66,395,000  | 21,717,000   | 88,112,000  | 73,614,000  | 14,498,000 |     |
| 大会等                 | 48,248,000  | —            | 48,248,000  | 48,789,000  | △541,000   |     |
| 講習会                 | 15,635,000  | —            | 15,635,000  | 15,906,000  | △271,000   |     |
| 出版                  | 2,512,000   | 21,717,000   | 24,229,000  | 8,919,000   | 15,310,000 |     |
| 3. 調査研究収入           | 136,522,000 | —            | 136,522,000 | 126,796,000 | 9,726,000  |     |
| 研究会                 | 82,254,000  | —            | 82,254,000  | 79,226,000  | 3,028,000  |     |
| シンポジウム等             | 49,538,000  | —            | 49,538,000  | 47,070,000  | 2,468,000  |     |
| 調査委員会               | 1,000,000   | —            | 1,000,000   | 0           | 1,000,000  |     |
| 教育委員会               | 3,730,000   | —            | 3,730,000   | 500,000     | 3,230,000  |     |
| 4. 国際活動収入           | 1,900,000   | —            | 1,900,000   | 1,495,000   | 405,000    |     |
| 5. プログラミング・シンポジウム収入 | 6,339,000   | —            | 6,339,000   | 5,756,000   | 583,000    |     |
| 6. 入会金収入            | 2,160,000   | —            | 2,160,000   | 1,800,000   | 360,000    |     |
| 7. 会費収入             | 265,669,000 | —            | 265,669,000 | 269,643,000 | △3,974,000 |     |
| 8. 基本財産運用収入         | 3,000       | —            | 3,000       | 2,000       | 1,000      |     |
| 9. 雑収入              | 5,850,000   | 5,739,000    | 11,589,000  | 7,400,000   | 4,189,000  |     |
| 当期収入合計              | 529,765,000 | 139,115,000  | 668,880,000 | 630,928,000 | 37,952,000 |     |
| 前期繰越収支差額            | 326,461,079 | △146,293,560 | 180,167,519 | 179,291,407 | 876,112    |     |
| 収入合計                | 856,226,079 | △7,178,560   | 849,047,519 | 810,219,407 | 38,828,112 |     |

| 科 目                  | 予 算 額       |              |             | 前年度予算       | 増 減         | 備 考 |
|----------------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-----|
|                      | 公益事業        | 収益事業         | 合 計         |             |             |     |
| II. 支出の部             |             |              |             |             |             |     |
| 1. 機関誌発行業務費          | 91,528,000  | 97,640,000   | 189,168,000 | 193,127,000 | △3,959,000  |     |
| 会誌                   | 91,528,000  | —            | 91,528,000  | 102,246,000 | △10,718,000 |     |
| 論文誌                  | —           | 97,640,000   | 97,640,000  | 90,881,000  | 6,759,000   |     |
| 2. 事業業務費             | 47,310,000  | 23,186,000   | 70,496,000  | 62,133,000  | 8,363,000   |     |
| 大会等                  | 41,147,000  | —            | 41,147,000  | 47,113,000  | △5,966,000  |     |
| 講習会                  | 5,569,000   | —            | 5,569,000   | 6,892,000   | △1,323,000  |     |
| 出版                   | 594,000     | 23,186,000   | 23,780,000  | 8,128,000   | 15,652,000  |     |
| 3. 調査研究業務費           | 148,457,000 | —            | 148,457,000 | 139,593,000 | 8,864,000   |     |
| 研究会                  | 92,736,000  | —            | 92,736,000  | 88,539,000  | 4,197,000   |     |
| シンポジウム等              | 46,885,000  | —            | 46,885,000  | 44,367,000  | 2,518,000   |     |
| 調査委員会                | 2,451,000   | —            | 2,451,000   | 1,458,000   | 993,000     |     |
| 教育委員会                | 6,385,000   | —            | 6,385,000   | 5,229,000   | 1,156,000   |     |
| 4. 国際活動業務費           | 13,418,000  | —            | 13,418,000  | 11,843,000  | 1,575,000   |     |
| 5. プログラミング・シンポジウム業務費 | 5,354,000   | —            | 5,354,000   | 5,171,000   | 183,000     |     |
| 6. 会員業務費             | 75,895,000  | 5,504,000    | 81,399,000  | 75,479,000  | 5,920,000   |     |
| 7. 管理費               | 136,946,000 | 15,720,000   | 152,666,000 | 157,741,000 | △5,075,000  |     |
| 当期支出合計               | 518,908,000 | 142,050,000  | 660,958,000 | 645,087,000 | 15,871,000  |     |
| 当期収支差額               | 10,857,000  | △2,935,000   | 7,922,000   | △14,159,000 | 22,081,000  |     |
| 次期繰越収支差額             | 337,318,079 | △149,228,560 | 188,089,519 | 165,132,407 | 22,957,112  |     |

規 格 会 計

(単位：円)

| 科 目          | 予 算 額       | 前年度予算       | 増 減         | 備 考 |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| I. 収入の部      |             |             |             |     |
| 1. 規格賛助員会費収入 | 169,400,000 | 172,200,000 | △2,800,000  |     |
| 2. 補助金等収入    | 33,124,000  | 25,000,000  | 8,124,000   |     |
| 3. 雑収入       | 550,000     | 1,200,000   | △650,000    |     |
| 当期収入合計       | 203,074,000 | 198,400,000 | 4,674,000   |     |
| 前期繰越収支差額     | 204,335,268 | 191,974,075 | 12,361,193  |     |
| 収入合計         | 407,409,268 | 390,374,075 | 17,035,193  |     |
| II. 支出の部     |             |             |             |     |
| 1. 事業費       | 107,085,000 | 115,550,000 | △8,465,000  |     |
| 2. 管理費       | 95,030,000  | 96,850,000  | △1,820,000  |     |
| 当期支出合計       | 202,115,000 | 212,400,000 | △10,285,000 |     |
| 当期収支差額       | 959,000     | △14,000,000 | 14,959,000  |     |
| 次期繰越収支差額     | 205,294,268 | 177,974,075 | 27,320,193  |     |

坂井記念賞特別会計

(単位：円)

| 科 目      | 予 算 額      | 前年度予算      | 増 減        | 備 考 |
|----------|------------|------------|------------|-----|
| I. 収入の部  |            |            |            |     |
| 1. 受取利息  | 10,000     | 15,000     | △5,000     |     |
| 当期収入合計   | 10,000     | 15,000     | △5,000     |     |
| 前期繰越収支差額 | 5,239,814  | 6,481,805  | △1,241,991 |     |
| 収入合計     | 5,249,814  | 6,496,805  | △1,246,991 |     |
| II. 支出の部 |            |            |            |     |
| 1. 業務費   | 1,380,000  | 1,368,000  | 12,000     |     |
| 当期支出合計   | 1,380,000  | 1,368,000  | 12,000     |     |
| 当期収支差額   | △1,370,000 | △1,353,000 | △17,000    |     |
| 次期繰越収支差額 | 3,869,814  | 5,128,805  | △1,258,991 |     |

総 括 表

(単位：円)

| 科 目      | 合 計           | 一般会計        | 規格会計        | 備 考 |
|----------|---------------|-------------|-------------|-----|
| I. 収入の部  |               |             |             |     |
| 当期収入合計   | 871,954,000   | 668,880,000 | 203,074,000 |     |
| 前期繰越収支差額 | 384,502,787   | 180,167,519 | 204,335,268 |     |
| 収入合計     | 1,256,456,787 | 849,047,519 | 407,409,268 |     |
| II. 支出の部 |               |             |             |     |
| 当期支出合計   | 863,073,000   | 660,958,000 | 202,115,000 |     |
| 当期収支差額   | 8,881,000     | 7,922,000   | 959,000     |     |
| 次期繰越収支差額 | 393,363,787   | 188,089,519 | 205,294,268 |     |

山下記念賞特別会計

(単位：円)

| 科 目      | 予 算 額     | 前年度予算     | 増 減      | 備 考 |
|----------|-----------|-----------|----------|-----|
| I. 収入の部  |           |           |          |     |
| 1. 受取利息  | 11,000    | 18,000    | △7,000   |     |
| 当期収入合計   | 11,000    | 18,000    | △7,000   |     |
| 前期繰越収支差額 | 6,523,373 | 7,086,807 | △563,434 |     |
| 収入合計     | 6,534,373 | 7,104,807 | △570,434 |     |
| II. 支出の部 |           |           |          |     |
| 1. 業務費   | 840,000   | 840,000   | 0        |     |
| 当期支出合計   | 840,000   | 840,000   | 0        |     |
| 当期収支差額   | △829,000  | △822,000  | △7,000   |     |
| 次期繰越収支差額 | 5,694,373 | 6,264,807 | △570,434 |     |

(注) この収支予算書は、「公益法人会計基準」(昭和60年9月17日公益法人指導監督連絡会議決定、以下「新基準」という。)の実施に伴い、「新基準」によって作成している。なお、短期借入限度額は3,000万円、期間3カ月以内とする。

5. 定款等の改訂について

定款を全面的に見直し、次ページ以降に示すと通りの改訂を行い、あわせて関連の規程および一般規則の制定を行う。ただし、文部省の認可を受けるに際し、訂正等の指示があった場合の処置は理事会に一任する。

今回の改訂の主な理由は次の3点である。

1. 目的および事業の見直し

現行の定款の第2章目的および事業は当会の創立当時のままであるが、情報処理に関わる学術、技術の対象範囲は、情報学、情報工学、情報科学、情報通信を基本としつつコンテンツやサービスを含むより広い分野へ広がってきた。また、これらの研究開発の成果が専門家だけでなく、社会人、青少年、家庭人など広範囲に利用されるようになってきた。

これらのすべてに役立つ情報技術を研究開発の対象とし、その成果を提供発信してゆく学会としての責務を果たしてゆくために改訂することとした。(改訂定款第2章参照)

2. 総会成立定数の変更

平成8年9月に「公益法人の設置基準及び指導監督基準」が閣議決定され、また同年12月には「公益法人の設立許可及び指導監督基準の運用方針」が示されたが、当会を所管する文部省から、平成11年9月を期限として学会運営をこれらに適合させるよう指導があった。特に、この基準で要求される総会の成立要件を民法上の社員の過半数以上の出席とすることは現実的に非常に困難である。このため、代表会員制度を新設することとし、これに合わせて定款の該当部分を改訂する。(改訂定款第6条2、第33条および代表会員選出規程参照)

3. フレキシブルな学会運営

定款の改訂には文部省の認可が必要であるが、法令、通達に沿いつつ学会運営を円滑に効率的に行うために、現在定款に含まれている会費の年額、各種委員会等設置の詳細定義、編集長の設置定義等は、一般規則を新設してそこに移し、理事会において必要な都度定めることが可能な柔軟な制度とする。なお、評議員に関しては一旦定款から削除し代表会員制度の実施状況を見てゆくこととする。(改訂定款第3章、第5章、第6章、現行定款第5章および一般規則第8条参照)

|             |            |
|-------------|------------|
| 38・12・19 制定 | 58・6・27 改訂 |
| 42・12・5 改訂  | 59・7・10 改訂 |
| 44・1・7 改訂   | 61・8・25 改訂 |
| 45・11・7 改訂  | 元・3・29 改訂  |
| 47・7・14 改訂  | 4・10・3 改訂  |
| 50・10・24 改訂 | 5・5・19 改訂  |
| 53・8・7 改訂   | 6・7・16 改訂  |

現 行

## 第1章 総 則

第1条 この法人は、社団法人情報処理学会 (Information Processing Society of Japan) という。

第2条 この法人は、事務所を東京都港区芝浦三丁目16番20号におく。

第3条 この法人は、理事会の議決を経て、必要の地に支部をおくことができる。

2. 支部には支部長をおく。

## 第2章 目的および事業

第4条 この法人は、電子計算機等を中心とした情報処理に関する学術、技術の進歩発展をはかり、会員相互間および関連学協会との連絡研修の場となり、もって学術文化の発展に寄与することを目的とする。

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究発表および学術講習会などの開催
- (2) 学会誌および学術図書の刊行
- (3) 情報処理国際連合 (International Federation for Information Processing) へ加盟、ならびに同連合との連絡および協力
- (4) 関連学協会との連絡および協力
- (5) 研究および調査
- (6) その他、目的を達成するために必要な事業

## 第3章 会 員

第6条 この法人の会員の種別は、次の五種とする。

- (1) 正会員は、この法人の事業範囲において、専門の学識または相当の経験を有する者とする。
- (2) 賛助会員は、この法人の目的事業を賛助する者または団体とする。
- (3) 名誉会員は、この法人の事業範囲において、特別の功績があり、理事会の議決を経て推薦された者とする。
- (4) 学生会員は、大学学部、大学院修士課程および博士課程またはこれに準ずる学校の在學生とする。
- (5) 海外会員は、理事会で承認された学会の会員で、この法人の目的に賛同し、海外に居住する者とする。

2. 正会員をもって民法上の社員とする。

第7条 この法人の会費年額は、次のとおりとする。

- |           |            |
|-----------|------------|
| (1) 正会員費  | 9,600円     |
| (2) 賛助会員費 | 1口 50,000円 |
| (3) 学生会員費 | 4,800円     |
| (4) 海外会員費 | 5,700円     |

2. 名誉会員は、会費を納めることを要しない。

第8条 正会員の入会は、2,000円の入会金および会費を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、理事会で承認された特定の学会の会員には、入会金の納付を免除することができる。

改訂案

## 第1章 総 則

第1条 この法人は、社団法人情報処理学会 (Information Processing Society of Japan) という。

第2条 この法人は、事務所を東京都港区芝浦三丁目16番20号におく。

第3条 この法人は、理事会の議決を経て必要の地に支部をおくことができる。

2. 支部には支部長をおく。

## 第2章 目的および事業

第4条 この法人は、情報技術に関する学術、技術の進歩発展と普及啓蒙をはかり、会員相互間および関連学協会との連絡研修の場となり、もって学術、文化ならびに産業の発展に寄与することを目的とする。

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究および調査、ならびに研究発表および学術講習会などの開催
- (2) 会誌および学術図書の刊行
- (3) 標準化の推進、ならびに普及啓蒙
- (4) 情報技術関連の国際学協会への加盟、ならびに連絡および協力
- (5) 関連学協会との連絡および協力
- (6) その他、目的を達成するために必要な事業

## 第3章 会 員

第6条 この法人の会員の種別は、次の五種とする。

- (1) 正会員は、この法人の事業範囲において、専門の学識または相当の経験を有する者とする。
- (2) 名誉会員は、この法人の事業範囲において、特別の功績があり、理事会の議決を経て推薦された者とする。
- (3) 学生会員は、短大、高専、大学学部、大学院修士課程および博士課程または、これに準ずる学校の在學生とする。
- (4) 賛助会員は、この法人の目的事業を賛助する者または団体とする。
- (5) 準会員は、前(1)～(3)項以外で、理事会が入会を承認した者とする。

2. 正会員のうち、別に定めた規程により指名された者をもって、代表会員とし、代表会員を民法上の社員とする。
3. 正会員および名誉会員は、役員を選挙権を有する。

第7条 会員は、別に定める会費を支払わなければならない。ただし、名誉会員は会費を納めることを要しない。

第8条 正会員の入会は、別に定める入会金および会費を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、理事会で承認された特定の学会の会員には、入会金の納付を免除することができる。



2. 賛助会員の入会は、理事会の決議により、会長これを推薦する。
3. 名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となる。
4. 学生会員および海外会員の入会は、会費を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。学生会員および海外会員が正会員となる場合は、入会申込書の提出ならびに入会金の納付を要しない。

第9条 会員は、この法人が刊行する機関誌および図書の優先的配布を受けることができる。

第10条 会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- (1) 退 会
- (2) 禁治産および準禁治産の宣告
- (3) 死亡、失踪宣言ならびに団体会員の解散
- (4) 除 名

第11条 会員で退会しようとする者は、理由を付けて退会届を提出しなければならない。

第12条 会員が次の各号の一つに該当するときは、総会の議決を経て、会長が、これを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき
- (3) この法人の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき

第13条 既納の会費は、いかなる理由があっても、これを返還しない。

#### 第4章 役員および職員

第14条 この法人には、次の役員をおく。

理事 15名以上、20名以内

(うち会長1名、副会長2名、常務理事4名以上、6名以内)

監事 2名

第15条 役員は、正会員のうちから総会でこれを選出する。

2. 理事および監事は、互いに兼任することができない。

第16条 役員に関する規程は、理事会の議決を経て別に定める。

第17条 会長は、この法人の事務を総理し、この法人を代表する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3. 常務理事は、会長および副会長を補佐し、理事会の決議にもとづき、日常の事務に従事し、総会の決議した事項を処理する。

第18条 理事は、理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、この法人の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を決議し、執行する。

第19条 監事は、民法第59条の職務を行う。

第20条 役員任期は2年とする。ただし、毎年その半数を改選する。

2. 補欠または増員により選任された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

3. 役員は、その任期満了後でも、後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

4. 役員は、この法人の役員たるにふさわしくない行為があった場合、または、特別の事情のある場合には、その任期中といえども総会および理事会の議決により、これを解任することができる。

第21条 役員は有給とすることができる。

第22条 この法人の事務を処理するために、事務局長および書記その他の職員をおくことができる。

2. 賛助会員の入会は、理事会の決議により、会長がこれを推薦する。

3. 名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となる。

4. 学生会員および準会員の入会は、会費を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。

なお、学生会員および準会員が正会員となる場合は、入会申込書の提出ならびに入会金の納付を要しない。

第9条 会員は、この法人が刊行する機関誌および図書の優先的配布を受けることができる。

第10条 会員は、次の事由によってその資格を喪失する。

- (1) 退 会
- (2) 禁治産および準禁治産の宣告
- (3) 死亡、失踪宣言ならびに団体会員の解散
- (4) 除 名

第11条 会員で退会しようとする者は、理由を付けて退会届を提出しなければならない。

第12条 会員が次の各号の一つに該当するときは、総会の議決を経て、会長が、これを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき
- (3) この法人の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき

第13条 既納の会費は、いかなる理由があっても、これを返還しない。

#### 第4章 役員および職員

第14条 この法人には、次の役員をおく。

理事 15名以上、20名以内

(うち会長1名、副会長2名、常務理事4名以上、6名以内)

監事 2名

第15条 役員は、正会員のうちから総会でこれを選出する。

2. 理事および監事は、互いに兼任することができない。

第16条 役員に関する規程は、理事会の議決を経て別に定める。

第17条 会長は、この法人の事務を総理し、この法人を代表する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3. 常務理事は、会長および副会長を補佐し、理事会の決議にもとづき、日常の事務に従事し、総会の決議した事項を処理する。

第18条 理事は、理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、この法人の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を決議し、執行する。

第19条 監事は、民法第59条の職務を行う。

第20条 役員任期は2年とする。ただし、毎年その半数を改選する。

2. 補欠または増員により選任された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。

3. 役員は、その任期満了後でも、後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

4. 役員は、この法人の役員たるにふさわしくない行為があった場合、または、特別の事情のある場合には、その任期中といえども総会および理事会の議決により、これを解任することができる。

第21条 役員は有給とすることができる。

第22条 この法人の事務を処理するために、事務局長および職員をおくことができる。

2. 事務局長は、会長が任命し、事務全般を管掌する。
3. 職員は、会長が任命する。

## 第5章 評 議 員

第23条 この法人には、理事会の承認を経て、正会員のうちから評議員を委嘱することができる。

2. 評議員は、30名以上、70名以内とする。
3. 評議員は、評議員会を組織して、会長の諮問に応じ、この法人の事業の遂行について、会長に助言する。

第24条 評議員には、第20条の規程のうち、第1項ただし書き以外の規程を準用する。この場合、第20条第1項ただし書き以外の規程のうち、「役員」とあるのは、「評議員」と読み替えるものとする。

## 第6章 編 集

第25条 この法人には、編集長をおくことができる。編集長は一貫した編集方針のもとに、機関誌の恒久的向上をはかるものとする。

第26条 編集長は会長が選任する。編集長は理事会に出席し、意見をのべることができる。

第27条 編集に関する規程は、理事会の議決を経て、別に定める。

## 第7章 委 員 会

第28条 この法人の事業を円滑に運営するため、理事会の議決を経て、必要な委員会をおくことができる。

第29条 前条による委員会の委員長は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。

第30条 委員会に関する規程は、理事会の議決を経て、別に定める。

## 第8章 会 議

第31条 理事会は、毎年10回以上会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、または、理事現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求のあった場合、会長は臨時理事会を招集しなければならない。

2. 理事会の議長は会長とする。
3. 支部長および事務局長は、理事会に出席することができる。
4. 退任会長は、退任後2カ年間、理事会に出席することができる。

第32条 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。

2. 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第33条 評議員会は、必要あるごとに会長がこれを招集する。

第34条 通常総会は、毎年1回会計年度終了後2ヵ月以内に会長が招集する。

2. 臨時総会は、理事会または監事が必要と認めたときは、1ヵ月以内に招集しなければならない。

第35条 会長は正会員現在数の5分の1以上から会議に付議すべき事項を示して、総会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から1ヵ月以内に、臨時総会を招集しなければならない。

第36条 通常総会の議長は、会長とし、臨時総会の議長は、会議の都度、会員の互選で定める。

第37条 総会の招集は、少なくとも10日以前に、その会議に付

2. 事務局長は、会長が任命し、事務全般を管掌する。
3. 職員は、会長が任命する。

## 第5章 全章削除

### 第23条 削除

### 第24条 削除

## 第6章 全章削除

### 第25条 削除

### 第26条 削除

### 第27条 削除

## 第5章 委 員 会

第23条 この法人の事業を円滑に運営するため、理事会の議決を経て、必要な委員会等をおくことができる。

第24条 前条による委員会等の委員長等は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。

第25条 委員会等に関する規程は、理事会の議決を経て、別に定める。

## 第6章 会 議

第26条 理事会は、毎年10回以上会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、または、理事現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求のあった場合、会長は臨時理事会を招集しなければならない。

2. 理事会の議長は会長とする。
3. 支部長および事務局長は、理事会に出席することができる。
4. 会長は、必要と認めた場合、委員長等を理事会に出席させることができる。

第27条 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。

2. 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### 第33条 削除

第28条 通常総会は、毎年1回会計年度終了後2ヵ月以内に会長が招集する。

2. 臨時総会は、理事会または監事が必要と認めたときは、1ヵ月以内に招集しなければならない。

3. 通常総会および臨時総会は、代表会員をもって構成する。

第29条 会長は代表会員現在数の2分の1以上から会議に付議すべき事項を示して、総会の招集を請求された場合には、その請求があった日から1ヵ月以内に、臨時総会を招集しなければならない。

第30条 通常総会の議長は、会長とし、臨時総会の議長は、会議の都度、代表会員の互選で定める。

第31条 総会の招集は、少なくとも10日以前に、その会議に付

すべき事項、日時および場所を記載した書面をもって通知する。  
第38条 次の事項は、通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

- (1) 事業計画および収支予算についての事項
- (2) 事業報告および収支決算についての事項
- (3) 財産目録についての事項
- (4) その他、理事会において必要と認めた事項

第39条 総会は、正会員現在数の7分の1以上出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは、出席者とみなす。

第40条 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するところによる。

第41条 総会の議事の要領および議決した事項は、会員に通知する。

第42条 総会および理事会の議事録は、議長が作成し、議長および出席者代表2名以上が署名押印のうえ、これを保存する。

## 第9章 資産および会計

第43条 この法人の資産は、次のとおりとする。

- (1) この法人設立当初、情報処理学会から継承した別紙財産目録記載の財産
- (2) 入会金および会費
- (3) 事業に伴う収支
- (4) 資産から生ずる果実
- (5) 寄付金品
- (6) その他の収入

第44条 この法人の資産を分けて、基本財産および運用財産の2種とする。

2. 基本財産は、別紙財産目録のうち、基本財産の部に記載する資産および将来基本財産に編入される資産で構成する。
3. 運用財産は、基本財産以外の資産とする。
4. 寄付金品であって、寄付者の指定あるものは、その指定に従う。

第45条 この法人の資産は、会長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決によって、確実な有価証券を購入するか、または定額郵便貯金とするか、もしくは確実な信託銀行に信託するか、あるいは定期貯金として会長が保管する。

第46条 基本財産は、処分し、または担保に供してはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会および総会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けて、その一部にかぎり処分し、または担保に供することができる。

第47条 この法人の事業遂行に要する費用は、入会金、会費、事業に伴う収入および資産から生ずる果実などの運用財産をもって支弁する。

第48条 この法人の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎年会計年度開始前に、会長が編成し、理事会の議決を経て、文部大臣に届け出なければならない。事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。

第49条 この法人の収支決算は、毎会計年度終了後2ヵ月以内に会長が作成し、その年度末現在の財産目録および事業報告書ならびに会員の異動状況書とともに、監事の意見をつけ、理事会および総会の承認を受けて、文部大臣に報告しなければならない。

2. この法人の収支決算に剰余金があるときは、理事会の議決および総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、または翌年に繰り越すものとする。

すべき事項、日時および場所を記載した書面をもって通知する。  
第32条 次の事項は、通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

- (1) 事業計画および収支予算についての事項
- (2) 事業報告および収支決算についての事項
- (3) 財産目録についての事項
- (4) 役員の選任
- (5) その他、理事会において必要と認めた事項

第33条 総会は、代表会員現在数の過半数以上出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

第34条 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席代表会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、正会員および名誉会員は総会に出席し発言することができる。

第35条 総会の議事の要領および議決した事項は、会員に通知する。

第36条 総会および理事会の議事録は、議長が作成し、議長および出席者代表2名以上が署名押印のうえ、これを保存する。

## 第7章 資産および会計

第37条 この法人の資産は、次のとおりとする。

- (1) この法人の設立当初、情報処理学会から継承した別紙財産目録記載の財産
- (2) 入会金および会費
- (3) 事業に伴う収支
- (4) 資産から生ずる果実
- (5) 寄付金品
- (6) その他の収入

第38条 この法人の資産を分けて、基本財産および運用財産の2種とする。

2. 基本財産は、別紙財産目録のうち、基本財産の部に記載する資産および将来基本財産に編入される資産で構成する。
3. 運用財産は、基本財産以外の資産とする。
4. 寄付金品であって、寄付者の指定あるものは、その指定に従う。

第39条 この法人の資産は、会長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決によって、確実な有価証券を購入するか、または定額郵便貯金とするか、もしくは確実な信託銀行に信託するか、あるいは定期貯金として会長が保管する。

第40条 基本財産は、処分し、または担保に供してはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会および総会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けて、その一部にかぎり処分し、または担保に供することができる。

第41条 この法人の事業遂行に要する費用は、入会金、会費、事業に伴う収入および資産から生ずる果実などの運用財産をもって支弁する。

第42条 この法人の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎年会計年度開始前に、会長が編成し、理事会および総会の議決を経て、文部大臣に届け出なければならない。事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。

第43条 この法人の収支決算は、毎会計年度終了後2ヵ月以内に会長が作成し、その年度末現在の財産目録および事業報告書ならびに会員の異動状況書とともに、監事の意見をつけ、理事会および総会の承認を受けて、文部大臣に報告しなければならない。

2. この法人の収支決算に剰余金があるときは、理事会の議決および総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、または翌年に繰り越すものとする。

第50条 収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは理事会および総会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けなければならない。借入金（その会計年度内の収入をもって償還する一時借入金を除く）についても同様とする。

第51条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### 第10章 定款の変更ならびに解散

第52条 この定款は、理事会および総会において、おのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければ、変更することができない。

第53条 この法人の解散は、理事会および総会において、おのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けなければならない。

第54条 この法人の解散に伴う残余財産は、理事会および総会において、おのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の公益事業に寄付するものとする。

#### 第11章 補 則

第55条 この定款の実施についての細則は、理事会および総会の議決を経て、別に定める。

#### 付 則

- (1) 従来、情報処理学会に属した会員および権利の一切は、この法人で継承する。
- (2) この定款は、文部大臣の許可のあった日から施行する。
- (3) 第7条の会費年額は、平成元年度会費から適用する。

第44条 収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは理事会および総会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けなければならない。借入金（その会計年度内の収入をもって償還する一時借入金を除く）についても同様とする。

第45条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### 第8章 定款の変更ならびに解散

第46条 この定款は、理事会および総会において、おのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければ、変更することができない。

第47条 この法人の解散は、理事会および総会において、おのおのの4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けなければならない。

第48条 この法人の解散に伴う残余財産は、理事会および総会において、おのおのの4分の3以上の議決を経、かつ文部大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の公益事業に寄付するものとする。

#### 第9章 補 則

第49条 この定款の実施についての規則は、理事会および総会の議決を経て、別に定める。

#### 付 則

- (1) 従来、情報処理学会に属した会員および権利の一切は、この法人で継承する。
- (2) この定款は、文部大臣の認可のあった日から施行する。

## 5.2 代表会員選出規程（案）

（代表会員選出の根拠）

第1条 この会の定款第6条の2に基づく代表会員は、正会員の中からこの規程により選出する。

（代表会員の定数）

第2条 代表会員定数は、100名以上、150名以内とする。

（代表会員候補者の推薦基準）

第3条 代表会員候補者の推薦基準は、次のとおりとする。

- (1) 毎年4月1日現在在籍5年以上の正会員であり、この会の各種事業等について、推進的役割を持つ者。
- (2) その他、理事会が特に認めた正会員。

（代表会員候補者の推薦）

第4条 代表会員候補者の推薦は、次のとおりとし、理事会が6月中に推薦者をとりまとめる。

- (1) 理事会が認めた各種委員会等の委員長（主査）等および、副委員長（副査）等。
- (2) 各研究会の主査または、幹事のうちから1名。
- (3) 各支部の支部長および支部役員の中から支部長が推薦する1名。
- (4) 現役員の中の理事。
- (5) 退任後3年以内の前役員。
- (6) その他、理事会が特に認めた者。

（公示）

第5条 推薦された代表会員候補者は、本人の承諾を得て、その氏名、所属機関を会誌「情報処理7月号」に公示する。

（代表会員資格の取得）

第6条 前条の規程により公示された代表会員候補者に対し、当該「情報処理」の発行日から起算して30日以内に異議を申し出た者の数が、正会員総数の1%以内に満たないときは、代表会員候補者は民法上の社員資格を取得したものとす。

（代表会員の任期）

第7条 代表会員の任期は1年間とし、9月1日から翌年8月31日まで

とする。なお、任期は4期を上限とする。ただし、任期中に定款第10条のいずれかの事由により会員資格を喪失した場合には、代表会員の資格は喪失する。これにより必要がある場合には理事会は残存期間を務める後任者を任命することができる。

（規程の改正）

第8条 この規程の改廃は、理事会の議決により実施する。

付則

1. 平成11年度に限り、この規程の実施は任期を含め、文部省認可の日以降とする。

## 5.3 情報処理学会一般規則（案）

第1章 目的

第1条（目的）この規程は、定款に定めた諸事項について、適正にかつ効果的に運営することを目的として定める。

第2章 会員および会費

第2条（入会）本会に入会を希望する者は、別に定める入会申込書を提出し、入会金2,000円および当該年度分の会費を納入し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、次の場合は入会金を免除することができる。

- 1) 学生会員として入会する者
- 2) 準会員として入会する者
- 3) 理事会が相互に入会金の免除協定を締結した他学会の正会員である者

（社）電気学会、（社）照明学会、（社）電子情報通信学会、（社）映像情報メディア学会、IEEE

4) 特別な事情があると理事会が認めた者

2. 名誉会員、および賛助会員は入会金を要しない。

第3条（正会員）大学学部卒業以上、またはそれに準ずる学識または技術の経験を有すると認められる者は正会員とする。協力協定締結学会正会員で本会に正会員として入会する者を含む。

2. 学生会員であった者が、当該学校を卒業または修了したとき、

これを正会員とする。ただし、大学院に在学する者は、学生会員の身分を継続できる。

第4条（名誉会員）名誉会員は別に定める基準により、理事会の承認を得て会長が推挙し、直近の総会において会員記を贈呈する。

第5条（学生会員）大学院、大学学部、短期大学、高等専門学校、工業高等学校およびこれらに準ずる学校に在学する者は学生会員とする。

第6条（賛助会員）本会の目的事業を賛同する者、または団体とする。

第7条（準会員）理事会で承認した、正会員、学生会員、賛助会員以外の者で、本会に人會する者とする。

第8条（年会費等）年会費と会誌の配布は次の通りとする。

1) 正会員の年会費は9,600円とし、会誌を配布する。  
なお、協力協定締結学会正会員（IEEEの正会員）の年会費は、正会員の年会費の1割引きとし、会誌を配布する。

2) 名誉会員は年会費を免除とし、会誌を配布する。

3) 学生会員の年会費は4,800円とし、会誌を配布する。

4) 賛助会員の年会費は1口50,000円とし、何口でも加入できる。なお、会誌の配布は最低1部とし、口数による配布部数は別に定める。

5) 準会員の年会費は5,700円とし、会誌を配布する。

2. 上記以外に購読員を設ける。なお、購読員の購読員費、配布基準は別に定める。

3. 特別な事情を有する会員が理事会に申請し、これを理事会が認めた場合には、年会費を減免することができる。

4. 賛助会員を除く会員が納める会費は、毎年4月から翌年3月の年額前納を原則とし、複数年分を一括納入することができる。

5. 同一機関で10名以上の会員について、あらかじめ定めた責任者によって会費を一括徴収する場合は、別に取扱方法を定める。

6. 会費の滞納が4ヶ月以上におよぶときは、会誌の発送を停止する。停止した会誌は会費を完納した場合でも配布を受けられない。

7. 毎年1月に次年度分の会費納付書を会員に送付する。その後、会費納入がない会員については同年6月、11月および、翌年1月の3回督促後、会費滞納者については、理事会で除名等の処分方法を決め、総会で処分を決定する。

### 第3章 役員および職員

第9条（副会長の分掌事項）副会長の分掌事項は会長が定めるが、原則として次による。

共通事項 総会、理事会、支部長会議、情報規格調査会総会、電気・情報関連学会連合大会・役員会、事業、国際、その他

分掌事項 総務、財務、広報・広告、調査研究、論文、全国大会、教育、表彰その他

第10条（監事の分掌事項）監事の分掌事項は、民法第59条の規定に基づき、適時、本会の財産の状況、および役員業務執行状況の監査をおこない、適切な指示をおこなう。

第11条（理事の分掌事項）理事の分掌事項は会長が定めるが、原則として次による。

1. 総務 定款・規程、総会、理事会、支部、渉外事項に関する事項、事業計画および事業報告の集約、会員に関する事項、役員選出に関する事項、事務局の人事・待遇、その他の理事の分掌に属さない事項

2. 財務 収支予算および決算、財産の管理・処分、出納および会計管理、本会に対する寄付行為、契約に関する事項、広報に関する事項、その他会計に関する事項情報規格調査会に関する事項

3. 会誌 会誌の編集、刊行、その他会誌に関する事項

4. 論文誌 論文誌の編集、査読、採否、刊行、その他論文誌に関する事項

5. 事業 全国大会および講習会等に関する事項、協賛・後援に関する事項、

6. 調査研究 調査委員会・研究会・研究グループに関する事項、教育の振興・交流・普及に関する事項、委託研究、その他調査研究に関する事項

7. 国際 国際交流、国際会議・講習会、その他国際に関する事項

8. 出版電子化 電子化に関する事項（知的財産権を含む）、システムに関する事項、その他の理事の分掌に属さない出版に関する事項

第12条（役員交代）同一業務を分掌する役員は、会長を除き原則2名とし、毎年その約半数を交代する。

第13条（事務局）事務局の職務分掌、組織、職制、待遇、身分は、理事会が定める。

### 第4章 会誌および出版

第14条（編集長）会誌に編集長をおき、編集長は一貫した編集方針のもとに、会誌の恒久的な向上を図るものとする。編集長は会長が選任する。編集長は理事会に出席し、意見を述べることができる。

第15条（定期刊行物）毎月1回、会誌「情報処理」を発行するほか、

「会員名簿」を3年ごとに発行する。

第16条（研究成果の刊行）「情報処理学会論文誌」を月刊するほか、「研究報告」、その他必要と認められた成果を随時発行する。

第17条（関連規程等）会誌、論文誌、その他出版に関わる規程は別に定める。

### 第5章 委員会等

第18条（委員会等の設置・廃止）会長は、理事会の議を経て定款第5章に定めた委員会等（情報規格調査会、研究会等を含む。）を設置、または廃止することができる。

第19条（委員会等の組織・設置場所）委員会等は、会員を持って組織する。ただし、必要な場合には、会員外の専門家を委員に加えることができる。委員会等の名称等については、別表組織一覧表に示す。

2. 委員会等は必要な地に置く。

3. 委員長等の選定は、会長、または別に定めた当該規程により当該委員会等がおこなう。なお、委員長等の呼称は当該規程等に定めることができる。

4. 委員長は、委員会等を統括し、副委員長等は委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その業務を代行する。

第20条（委員の任期）委員の任期は、別に定める。

第21条（委員会等の計画）委員会等は、会長の指定した時期までに、翌年度の事業計画案および、予算案を会長に提出しなければならない。

第22条（委員会等の報告）委員会等は、毎年3月末、その年度の事業概要報告を、また、委嘱事項が終了した場合には、その経過および成案に関する報告を会長に提出しなければならない。

第23条（委員会等の運営規程）委員会等を設ける場合には、次の事項を含む規程類を理事会に提案し、承認を得なければならない。

1) 目的、事業内容

2) 名称、組織、構成

3) 存置期間

4) 委員の呼称、任期

5) 運営方法

第24条（委員会等報告の対外発表）委員会等としての意見を、情報処理学会の公的意見として、外部に発表する場合には、理事会の承認を経なければならない。

第25条（役員の兼務）役員は、理事会の承認した委員会等以外の長を兼務できない。

### 第6章 支部

第26条（支部の設置・廃止）支部の設置、または廃止は理事会の議決を得ておこなう。

第27条（支部の事業）支部は、その地域に在住する会員の相互協力によって、本会の目的達成のために必要な事業を行う。

第28条（支部の地域）支部の地域は、次の通りとする。

北海道（北海道）

東北（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）

東海（長野県、静岡県、岐阜県、愛知県、三重県）

北陸（富山県、石川県、福井県）

関西（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）

中国（岡山県、広島県、山口県、鳥取県、島根県）

四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

参考 本部所属（新潟県、栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県）

第29条（支部規程）支部の運営は、支部規程により行う。支部規程の改正は、理事会の承認を得なければならない。

2. 支部規程には、次の事項を規定する。

1) 名称

2) 事務所の所在地

3) 地域と所属する都道府県名

4) 事業

5) 役員ならびに評議員の構成および選定方法

6) 総会および役員会に関する事項

7) 支部の設置および運営、または改廃に関する事項

8) 経理その他必要な事項

第30条（支部の役員）支部には次の役員をおく。

1) 支部長 1名

2) 支部幹事 若干名

3) 支部評議員 若干名

4) 支部監事 1名

第31条（支部役員の担務）支部役員の担務は次の通りとする。

支部長は、支部の事務を統括し、支部総会、支部役員会、（支部評議員会、支部幹事会）を招集してその議長となる。

2. 支部長に事故あるときは、支部長があらかじめ指名した支部幹事または支部評議員がその職務を代行する。

3. 支部幹事および支部評議員は、支部長を助けて支部の事業を遂行する。

4. 支部監事は、支部の会計について監査を行う。

第32条（支部への交付金）本部から支部への交付金の支給方法は別に定める。

第33条（支部の会計）支部の会計は、本部交付金および支部において取得した資産によって経費を支弁するものとする。

第34条（理事会への提出事項）支部長は、毎年2月中に次年度の事業計画案および予算案を理事会に提出する。また、毎年支部総会終了後審議可決された結果を速やかに理事会に報告する。なお、支部総会は、本会の総会開催日前に開催しなければならない。

第35条（支部規約）支部規約を制定もしくは改廃するときには、支部総会の承認を得なければならない。なお、その結果を理事会に報告しなければならない。

第36条（支部長会議）会長は適宜、支部長会議を招集するものとする。

#### 第7章 雑則

第37条（会議の議事録）総会の議事録には、議長および出席者代表2名の署名捺印を必要とし、また、理事会の議事録には、会長および総務を担当する理事が押印のうえ、これを保存しなければならない。

第38条（会計帳簿、書類）会計の収支原簿および証拠書類の取り扱いは、別に定める会計規程により、これを保存しなければならない。なお、情報規格調査会、山下記念研究賞、坂井記念特別賞は特別会計とする。

第39条（規程の制定と改廃）この規則で別に定めるもののほか、この規則の施行に必要な規程の制定および改廃は、理事会の議決を経て定める。

#### 付則

1. この規則は平成11年5月20日以降、定款改訂が文部省認可となった日から施行する。

2. 支部設置規程は、この規則が施行される日をもって廃止する。

3. この規則施行の際、現に存在する支部はこの規則により設置されたものとする。

4. 第8条1)に定めた協力協定締結学会正会員の年会費の適用は、本規則の施行以後に申し出た者から適用するものとする。

5. 現在設置されている委員会等は、この規則により設置されたものとする。

## 6. 会費滞納会員の取扱いについて

定款第12条にもとづき、平成9年度からの会費滞納者608名を、本総会において除名する。

[付] 定款第12条

会員が次の各号の一つに該当するときは、総会の議決を経て、会長が、これを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき
- (3) この法人の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき

## 7. 名誉会員について

第438回理事会（平成11年1月27日開催）において、定款第6条第1項第3号および名誉会員候補者推薦基準にもとづき、下記の3君を名誉会員に推薦することに決定した。

和田英一 中澤喜三郎 野口正一

## 8. 平成11年度役員改選について

平成11年3月に定款第20条にもとづき行われた平成11年度役員選挙の結果、下記11君が選出された。

会長 長尾 貞  
副会長 発田 弘  
理事(教育) 滝沢 誠  
                  安浦寛人  
                  (企業A群) 旭 寛治  
                  石井光雄  
                  調 重俊  
                  (企業B群) 小花貞夫  
                  上林憲行  
                  工藤育男

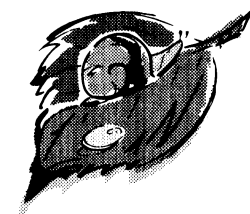
監事 菊野 亨  
[付]

○平成11年度留任役員

副会長 松下 温  
理事 江原暉将  
          大河内正明  
          大蒔和仁  
          釜江尚彦  
          河田 亨  
          富田真治  
          西尾章治郎  
          宮西洋太郎  
          吉澤康文  
監事 増永良文

○退任役員

会長 戸田 敏  
副会長 堀越 彌  
理事 片岡雅志  
          釼重壽和  
          坂井邦夫  
          阪田史郎  
          鈴木健二  
          東田正信  
          水野忠則  
          宮原秀夫  
監事 林 弘



## 第441回理事会

日時 平成11年4月26日(月) 17:30~21:00

会場 情報処理学会会議室

出席者 戸田会長、堀越、松下両副会長、片岡、坂井、阪田、鈴木、東田、水野、江原、大河内、釜江、富田、西尾、宮西、吉澤各理事、林、増永各監事、(委任状による出席) 釼重、宮原、大蒔、河田各理事(事務局) 柳川事務局長ほか3名

### 議 題

#### 1. 承認事項

承-1 平成11年3月末および4月20日現在の会員数の状況

|                  |            |              |
|------------------|------------|--------------|
| (1) 平成11年3月31日現在 |            |              |
| 正会員              | 25,263 (名) | } 26,936 (名) |
| 学生会員             | 1,667      |              |
| 海外会員             | 6          |              |
| 賛助会員             | 413 (社)    | 542 (口)      |
| (2) 平成11年4月20日現在 |            |              |
| 正会員              | 25,956 (名) | } 27,018 (名) |
| 学生会員             | 1,055      |              |
| 海外会員             | 7          |              |
| 賛助会員             | 425 (社)    | 553 (口)      |

承-2 2平成11年3月分一般会計収支状況

承-3 第41回通常総会関係

- (1) 第442回理事会および第41回通常総会次第
- (2) 平成10年度事業報告書(案)
- (3) 平成10年度決算報告書(案)
- (4) 平成10年度監事意見
- (5) 平成11年度事業計画書(案)
- (6) 平成11年度収支予算書(案)
- (7) 定款等の改訂について

承-4 平成11年度日本工学会評議員候補者の推薦について

承-5 領域委員長、財務委員、主査、幹事の交替について各委員の交替について承認した。

コンピュータサイエンス領域

委員長(退任) 安村通晃(慶大)  
(新任) 萩谷昌巳(東大)  
財務委員(退任) 萩谷昌巳(東大)  
(新任) 野寺 隆(慶大)

情報環境領域

委員長(退任) 勅使河原可海(創価大)  
(新任) 田中 謙(北大)  
財務委員(退任) 菅野政孝(NTTデータ)  
(新任) 竹林洋一(東芝)

## フロンティア領域

委員長(留任) 松山隆司(京大)  
財務委員(退任) 平田圭二(NTT)  
(新任) 山田奨治(日文研)

承-6 情報処理教育委員会委員長、幹事の交替について  
各委員の交替を承認した。

委員長(退任) 都倉信樹(阪大)  
(新任) 大岩 元(慶大)  
幹事(退任) 中川正樹(農工大)  
(新任) 角田博保(電通大)

承-7 シンポジウムの開催願い(1件) シンポジウム終了報告(3件)

承-8 国内会議協賛・後援等依頼

8団体からの8件の協賛・後援依頼を承認した。

承-9 「西暦2000年問題の現状と対策-技術と法律-」出版計画書(案)

1部500円で2,000部発行することを承認した。

承-10 情報規格調査会委員の変更

2号, 3号, 5号および6号委員の変更について承認した。

2号委員(退任) 安田 浩(東大)

(新任) 渡辺 裕(NTT)

3号委員(退任) 平井道宏(日立), 田辺雅秋(NTT)

(新任) 高田正之(江戸川大), 中村克彦(東京電機大)

承-11 国際会議協賛・後援等依頼

2団体からの2件の協賛・後援依頼を承認した。

## 2. 審議事項

審-1 新任理事の担務(案)

審-2 理事担務のグループ化と事務局の対応

(1) 理事を担当事務によりグループ化し、それぞれ副会長のもとで活動方針を決めることとした。

学界所属副会長-会誌担当理事, 論文誌・調査研究担当理事グループ, 国際担当理事

産業界所属副会長-総務・財務担当理事グループ, 事業・出版電子化担当理事グループ

(2) 事務局組織の変更

事務局組織を理事グループに合わせて変更し、各部門の責任者をマネージャとすることとした。

管理部門(総務, 経理, 庶務, 図書, 会員)

会誌部門(会誌)

研究部門(調査研究, 論文誌, 出版)

事業サービス部門(事業, 国際, システム企画)

規格部門(規格)

審-3 役員担当業務の引継事項(修正2版)

審-4 アンケート調査(案)について

審-5 情報処理教育の外部認定基準

## 3. 報告事項

総-1 フェロー制度委員会委員(案)

総-2 平成11年3月期開催会議

総-3 平成10年度活動計画進捗状況

総-4 広告受付進捗状況

総-5 NGI特別委員会平成10年度活動報告

総-6 第4回会員増強委員会議事録

機-1 第18回会誌編集委員会議事録(抜粋)

機-2 第239回論文誌編集委員会(幹事会)議事録(抜粋)

事-1 「連続セミナー98」決算報告

事-2 「連続セミナー99」参加者募集

出-1 情報処理学会のドメイン名について

教-1 日本技術者教育認定制度(案)に関する懇談会

教-2 第3回教育委員会議事録(抜粋)

規-1 第138回規格役員会議事録抜粋

規-2 平成10年度決算および平成11年度予算案

国-1 IFIP活動報告およびWCC2000への対応

国-2 国際会議終了報告(1件)

他-1 学協会提携求職者登録のお願い



## 採録論文一覧

### 情報処理学会論文誌

平成11年5月の論文誌編集委員会で採録された論文は次のとおりです(カッコ内は受付年月日)。

◇増田 恵子, 梅村 恭司: 人名辞書から名前読み付与規則を抽出するアルゴリズム (98.3.13)

◇佐藤 進也, 風間 一洋, 清水 奨, 神林 隆: WWWトラフィック解析による情報生産者と情報消費者の数量的特徴付け (98.4.9)

◇田島 玲, 今井 浩: 三角形分割の最適性と整数計画による定式化 (98.6.8)

◇原田 実, 水野 高宏, 濱田 奨: 構造化オブジェクト指向設計図からの実行可能C++プログラム生成 (98.8.10)

◇渡辺 裕明, 金田 康正: テント写像に基づいた疑似乱数生成法 (98.8.11)

◇芦田 昌也, 竹内 昭浩, 柴田 史久, 角所 孝, 北橋 忠宏: 所与の仕様の逐次的な照合に基づくパターン獲得 (98.8.12)

◇青野 正宏, 渡辺 尚, 水野 忠則: RAID型放送システムの提案 (98.8.27)

◇田中 幹夫: 鉄道におけるユーザーIDベースの料金徴収方式の適用と評価 (98.9.24)

◇横倉 直子, 渡邊 豊英: レイアウト構造知識を用いた棒グラフの認識 (98.10.2)

◇山根 智: 時間模倣関係による実時間システムの階層的設計手法 (98.10.5)

◇タンテリ アンドリアマナカシカ, 荒木 健治, 枘内 香次: 実例を用いた類推による対応関係推定手法 (98.10.12)

◇高橋 勝巳, 飯田 全広, 水上 雄介, 山崎 弘巳, 宮田 裕行, 中島 克人, 松本 勉: タイムメモリトレードオフ解法に基づく暗号強度評価装置の実現性について (98.10.23)

◇兼岩 憲, 東条 敏: 法律知識の事象的/属性的読みを区別した推論システム (98.12.2)

◇小原 勝, 森 亮憲, 樋口 昌宏, 藤井 護: EFSM適合性試験系列生成手法の誤実装検出能力の実験的評価 (99.1.5)

◇森 信介, 土屋 雅隆, 山地 治, 長尾 真: 確率的モデルによる仮名漢字変換 (99.2.5)

◇安永 守利, 高橋 雅聡, 吉原 郁夫: 進化的手法に基づく再構成可能な推論ハードウェア (99.2.26)



## 掲載論文一覧

(掲載順, 所属は現在のものを記載)

### 情報処理学会論文誌: Vol.40 No.6

■特集「新しいシステムソフトウェア」の編集にあたって 徳田英幸(慶大)

■WWWサーバにおけるサービスの処理内容を考慮したプロセススケジューリング法 スカンヤ スラナワラツ, 谷口秀夫(九大)

■Tenderオペレーティングシステムの資源「演算」によるプログラム実行速度調整機能の実現と評価 田端利宏, 谷口秀夫(九大)

■マイクロカーネルLavenderにおける2レベルスケジューラの構成方式 毛利公一, 大久保英嗣(立命館大)

■A Smart Virtual Machine for Heterogeneous Distributed Environments: PivotVM Noritaka Osawa (National Institute of Multimedia Education)

■トランスレータを利用した機種非依存な実行移送方式 下川僚子, 梅村恭司(豊橋技科大)

■広域分散環境における分散共有メモリの実現とその性能評価 齋藤彰一, 國枝義敏(和歌山大), 大久保英嗣(立命館大)

■ホスト透過型オブジェクト移送システムMogulの実現 中澤 仁, 望月祐洋, 徳田英幸(慶大)

- ユーザーレベルスレッドライブラリPPLにおける柔軟なスケジューリング機構  
北口修一(富士通), 松浦慎二(シャープ)  
最所圭三, 福田 晃(奈良先端大)
  - 拡張コンポーネントのためのカーネルによる細粒度軽量保護ドメインの実現  
品川高廣, 河野健二, 高橋雅彦, 益田隆司(東大)
  - クラスタ型分散ファイルシステムに対応した協調型キャッシュアルゴリズム  
教藤義明(キヤノン)
  - 動的保護が可能な動的構築機構を有するオペレーティングシステム・サーバの実現と評価  
柏木一彦, 福田 晃, 最所圭三(奈良先端大)
  - 連続メディア処理向けマイクロカーネルにおける内部排他制御方式  
中原雅彦, 岩崎正明, 竹内 理, 中野隆裕(日立)
  - iReserve アーキテクチャ: 統合的資源予約機構  
西尾信彦, 徳田英幸(慶大)
  - マルチエージェントを用いた自律組織間診断システム: ENCORE  
明石 修, 菅原俊治, 村上健一郎, 丸山 充, 高橋直久(NTT)
- 
- 適応的に $\theta$ を変化させるBiCGStab( $\theta$ )法  
森屋健太郎, 野寺 隆(慶大)
  - 統計的言語モデルを用いたOCR誤り訂正システムの構築  
竹内孔一(学情センタ), 松本裕治(奈良先端大)
  - 平仮名N-gramによる平仮名列の誤り検出とその修正  
新納浩幸(茨城大)
  - コーパスに基づく発話意図タイプ決定ルールの自動生成  
熊本忠彦(郵政省通信総研), 伊藤 昭(山形大)
  - A Diversity-Control-oriented Genetic Algorithm (DCGA):  
Development and Initial Experimental Results  
Hisashi Shimodaira (Bunkyo Univ.)
  - 時空間画像を用いた回転物体の形状復元  
杉本茂樹, 奥富正敏(東工大)
  - オブジェクト指向型ディスプレイの研究  
川上直樹, 稲見昌彦, 柳田康幸, 前田太郎, 箱 章(東大)
  - Bisimulation as Performance Equivalence Criterion: (max, +)  
Case  
Yasushi Fujiwara (Toshiba Corporation)
  - 実行機構の類似性に着目した関数型言語と論理型言語の融合  
山崎憲一(NTT), 吉田雅治(電通大), 天海良治, 竹内郁雄(NTT)
  - リフレクションを導入した並列論理型言語RKL1の実装と評価  
武田正之, 森 瑞穂(東京理科大)
  - アクセス情報に基づくデータベース移動を用いたデータベース再配置手法  
秋山豊和, 原 隆浩, 春本 要, 塚本昌彦, 西尾章治郎(阪大)
  - 情報検索手法を利用した関連マニュアル群のハイパーテキスト化  
大森信行, 岡村 潤, 森 辰則, 中川裕志(横浜国大)
  - メソッド合成による新規クラスの自動生成  
丸山勝久, 島 健一(NTT)
  - IntelligentPadにおける部品の抽象的仕様記述と開発への応用  
平野亮太, 田中 譲(北大)
  - 大規模並列交通シミュレータの実現と負荷分散方式の評価  
尾崎敦夫, 古市昌一, 阿部一裕, 中島克人, 田中秀俊(三菱電機)
  - 上書き攻撃に対抗する位相差を利用した電子透かしの一方式

福岡義秀, 松井甲子雄(防衛大)

- 計算機によるピアノ演奏動作の生成と表示  
関口博之, 英保 茂(京大)
- 和文・英文入力に対するキー・ストローク数の比較  
八原俊彦, 西の平幸司, 河合秀夫(大阪電通大)

情報処理学会論文誌: Vol.40 No.SIG4 (PRO3)

- Simplification Ordering for Higher-Order Rewrite Systems  
Munehiro Iwami, Yoshihito Toyama(北陸先端大)
- 線形論理を用いた逐次型プロセスの並列実行  
村上昌己(岡山大)
- タクティクからのプログラム抽出とその応用  
戸田洋三, 萩谷昌己(東大)
- C++ 言語における機器組み込み向け最適化手法  
春名修介, 坂田俊幸, 富永寛輝, 漆原誠一  
田中裕久, 湯川博司(松下電器)
- 動的スコープの利用による並列言語の同期・例外処理の階層的構造化  
八杉昌宏(京大)
- Snapshot型並列GCにおけるルート挿入時間の削減  
岩井輝男, 中西正和(慶大)

情報処理学会論文誌: Vol.40 No.SIG5 (TOD2)

- [研究論文]
- 異種系統樹間の調停のためのゼロ交差制約の充足  
北上 始, 森 康真(広島市立大)  
太田聡史, 斎藤成也(国立遺伝学研)
- 特定分野ドキュメントを対象とした意味的連想検索のためのメタデータ空間生成方式  
宮川祥子, 清木 康(慶大)
- A Parallel Navigation Algorithm with Dynamic Load Balancing for OODBMSs  
Lawrence Mutenda (Univ. of Tokyo)  
Takanobu Baba, Tsutomu Yoshinaga  
Kanemitsu Ootsu (Utsunomiya Univ.)
- N-gram索引における複合検索条件の効率的な処理方法  
小川泰嗣, 松田 透(リコー), 橋本信次(リコーシステム開発)
- 時間属性をもった空間データの管理構造—PMD木—  
中村泰明, 出木原裕順(広島市立大)
- 知識発見支援のための気象画像データベースの構築  
片山幸治(富士通高知システムエンジニアリング)  
小西 修(高知大)

[事例・実践論文]

- 分散環境における画像オブジェクトの版管理機構の実現  
田幡 勝, 有次正義, 金森吉成(群馬大)
- IplusTV: 時系列ハイパーメディアを用いたデータ放送方式とその実装  
岡村和男, 角谷和俊, 宮部義幸(松下電産)

\*訂正: Vol.40 No.2の本欄に掲載されました一覧を以下のとおり訂正させていただきます。

- ・情報処理学会論文誌: Vol.40 No.SIG2 (MPS1)  
→情報処理学会論文誌: Vol.40 No.SIG (TOM1)
- ・情報処理学会論文誌: Vol.40 No.SIG3 (DBS&FI1)  
→情報処理学会論文誌: Vol.40 No.SIG3 (TOD1)
- ・■感染症発生動向調査情報の迅速還元と流行予測  
→掲載なし





## 新規入会者

平成11年5月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです。  
(会員番号、敬称略)。

**【正会員】** 和田 豊, 安部 倫子, 石倉 弘樹, 伊藤 一郎,  
稲田 太, 大内 一成, 大関 和夫, 大月 英明, 大森 雅人,  
大西 繁定, 加藤 和幸, 勝田 哲司, 加藤 立朗, 釜江 常好,  
金政 泰彦, 川口 俊介, 工藤 博幸, 桑村 雅隆, 小林 郁典,  
小西 敏弘, 齋藤 雄志, 佐野 光平, 猿田 和樹, 嶋田 浩一,  
白石 和夫, 新谷 敏之, 鈴木 宣也, 園田 勝英, 堂本 隆,  
永江 孝規, 畠山 雅充, 蜂巣 吉成, 久富 浩明, 福岡 大輔,  
八木 修, 柳生 泰利, 矢島 史夫, 矢野 環, 横山 洋之,  
渡邊 真二, 渡辺 光夫, 中澤 甫夫, 本木 実, 衣笠 五朗,  
水山 茂樹, 玉垣 裕, 水口 充, 磯部 大, 越前 俊哉,  
大森 伸宏, 小磯 賢智, 内藤 正史, 細部 博史, 伊藤 剛志,  
稲垣 光雄, 久保田 仙, 久保田典秀, 才所 秀明, 榊原 健人,  
宋 永敏, 宮崎 秀雄, 八木 浩, 吉田 直哉, 佐藤富士夫。  
(以上64名)

**【学生会員】** 安部 政志, 五十嵐浩隆, 石井 孝衛, 石原 慎士,

岩永 佐織, 潮 靖之, 梅谷 浩平, 大澤 史典, 太田 崇,  
小畑 健二, 小幡 元樹, 甲斐 隆暢, 加藤 一臣, 神山 義之,  
神戸 和子, 木村千枝子, 久保田大樹, 斉藤 崇, 笹平 健一,  
佐藤 喬, 佐藤 拓郎, 三條 知美, 進藤 彩子, 鈴木 和行,  
鈴木 洋夫, 相馬 一幸, 多崎 央, 田中 貴之, 田中健一郎,  
月江 伸弘, 寺尾 英作, 富井 公, 富永健太郎, 豊泉 敦也,  
中野 充, 永野 豊, 中山 啓満, 羽部 充, 平塚 聡,  
平田絵理子, 平野 賢史, 藤本 英明, 福田 伸彦, 松村 雅,  
松山 知生, 宮川 学, 森 浩一, 柳原小百合, 山本理恵子,  
蓬田 智之, 羅 欣瑜, 立川 泰史, 松井 祐子, 井上 亮文,  
佐藤 賢, 根本 敦, 真島 隆央, 赤堀 正剛, 江草 山佳,  
熊谷巨太郎, 田中 慎吾, 富樫 勉, 土淵 義宏, 倉光 君郎,  
坂本 茂, 佐藤 友哉, 中山 貴博, 西田 真和, 師星 暁彦,  
工藤 靖之。(以上70名)

**【海外会員】** Woo Yoseop。(以上1名)

**【賛助会員】** (株) アイエックス, (株) コア中国四国カンパニー,  
札幌総合情報センター (株)。(以上3社)

### 死亡退会者

大場 勇治郎君 〒227 神奈川県横浜市緑区桜台46-11  
ご逝去の訃音に接しここに謹んで哀悼の意を表します。

## 書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。
  - a) 書 評—過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
  - b) 会議レポート—情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。
2. 応募資格 原則として本学会員に限ります。
3. 応募の手続き
  - 1) 表 題—書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。  
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
  - 2) 評者名(会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先(住所、E-mail、Faxなど)の記載を忘れずに。
  - 3) 本 文—書評、会議レポートとも2100字前後で書く。
  - 4) (必要であれば)参考文献、付録、図、表をつける。
 詳しくは「情報処理学会機関誌原稿執筆案内」(1999年1月号会告掲載)を参照してください。
4. 原稿の取扱い 投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
5. 照会/応募先 (社)情報処理学会 会誌担当  
〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F  
E-mail:editj@ipsj.or.jp Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534

## 情報処理学会「行事」申込書

(本申込書は、お一人1枚でお申し込みください。)

- ・行事No., 参加費, 論文集代につきましては会告各行事欄をご参照ください。
- ・欠席の場合も参加費は徴収させていただきます。
- ・会員の方は必ず会員No.を記入してください。記入されていない場合は非会員とさせていただきます。

| 申込者 (Aは該当番号に○) |        |               |                |
|----------------|--------|---------------|----------------|
| A: 会員/非会員      | (1) 会員 | (2) 主催研究会登録会員 | (3) 学生 (4) 非会員 |
| B: 会員No.       |        |               | C: ご氏名         |
| D: 勤務先         |        |               | E: ご所属         |
| F: 郵便番号        | G: ご住所 |               |                |
| H: Tel         |        |               | I: Fax         |
| J: E-mail      |        |               |                |

|                           |
|---------------------------|
| 送本先, 照会先などが異なる場合は下記に記入のこと |
| K:                        |

| 申込行事       |   |
|------------|---|
| L: 行事No.   |   |
| M: 参加費     | 円 |
| N: 懇親会費    | 円 |
| O-1: 論文集のみ | 円 |
| O-2: 論文集のみ | 冊 |

| アンケート* 宿泊付行事のみ記入 (部屋割参考) |                                   |
|--------------------------|-----------------------------------|
| P: 性別                    | (1) 女性 (2) 男性                     |
| Q: たばこ                   | (1) すう (2) すわない                   |
| R: 年齢                    | (1) 20代 (2) 30代 (3) 40代 (4) 50代以上 |
| S: 通信欄                   |                                   |

|                     |                                            |            |
|---------------------|--------------------------------------------|------------|
| T: 支払方法<br>(該当番号に○) | (1) 第一勧業銀行虎ノ門支店 普通 1013945 ( 月 日に送金予定) *   |            |
|                     | (2) 東京三菱銀行虎ノ門公務部 普通 0000608 ( 月 日に送金予定) *  |            |
|                     | (3) 郵便振替 (00150-4-83484) ( 月 日に送金予定) *     |            |
|                     | (4) 現金持参                                   |            |
|                     | (5) 現金書留                                   |            |
|                     | [名義人はいずれも (社) 情報処理学会] * : 送金日が分かる場合, 記入のこと |            |
| U: 送金名義人            |                                            |            |
| V-1: 請求書 通          | V-2: 見積書 通                                 | V-3: 納品書 通 |
| W: 請求書記載名義          |                                            |            |
| X: 送金に関する照会先        |                                            |            |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>申込先</b> (社) 情報処理学会 調査研究/事業担当</p> <p>〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F</p> <p>Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 E-mail:sig@ipsj.or.jp (研究会・シンポジウム)</p> <p style="text-align: right;">E-mail:jigyo@ipsj.or.jp (事業・全国大会・連続セミナー)</p> <p>*E-mailでの申込み: 各項目はカンマ(,)で区切り, (1) ... (5)は選択, その他は文字を記入のこと.</p> <p>[例] A: (1), B: 999999, C: 情報太郎, ... T: (1) (1月30日送金予定), U: 情報太郎, V-1: 1, V-2: 1, V-3: 1, W: (株) × × 電気, ...</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 海外からの送金方法について

海外からの会費，論文誌購読費，各種行事参加費，各種図書購入費等についてはクレジットカードによる送金をおすすめいたします。下記用紙にご記入の上ご郵送ください。(FAX不可)

If you wish to pay with your credit card, please fill in the following form and mail it back to the Information Processing Society of Japan.

**To: INFORMATION PROCESSING SOCIETY OF JAPAN**

Shibaura-Maekawa Bldg. 7F, 3-16-20, Shibaura, Minato-ku Tokyo 108-0023, JAPAN

Phone:81-3-5484-3535 Fax:81-3-5484-3534 E-mail:mem@ipsj.or.jp

|                                                   |                                                                                                                                                  |           |       |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------|
| I wish to pay with my credit card.                |                                                                                                                                                  |           |       |
| Check one:                                        | <input type="checkbox"/> MasterCard <input type="checkbox"/> VISA <input type="checkbox"/> American Express <input type="checkbox"/> Diners Club |           |       |
| (1) Card number                                   | _____                                                                                                                                            |           |       |
| (2) Expiry date                                   | _____ / _____                                                                                                                                    |           |       |
| (3) Full name of holder as it appears on the card | _____                                                                                                                                            |           |       |
| (Membership Number                                | _____ )                                                                                                                                          |           |       |
| (4) Amount                                        | _____ Yen                                                                                                                                        |           |       |
| (5) Detail (annual fees, journal, etc.)           | _____<br>_____<br>_____                                                                                                                          |           |       |
| (6) Mailing address                               | _____<br>_____<br>_____                                                                                                                          |           |       |
| (City)                                            | (Postal Code)                                                                                                                                    | (Country) |       |
| Phone                                             | _____                                                                                                                                            | Fax       | _____ |
| Date                                              | _____ / _____ / _____                                                                                                                            |           |       |
| Signature                                         | _____                                                                                                                                            |           |       |

円またはドルの銀行小切手による送金の場合は，次の点にご注意願います。

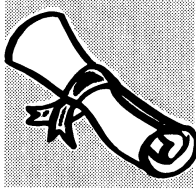
1. 銀行小切手作成の手間がかかり，1,500～2,500円の換金手数料が必要になる。
2. ドル送金の場合は為替相場の変動により常に過不足を生じ，経理上支障がある。

Note: The fees can also be paid by cash or by bank draft. In the case of bank draft, please add the handling charge ¥1,500 to the total amount. We cannot accept personal check.

Remit to: Information Processing Society of Japan

Bank account no.046-1013945

Toranomon Branch, The DAI-ICHI-KANGYO BANK, LTD.



## 人材募集

(有料会告)

申込方法：任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へE-mail、Faxまたは郵送にてお申し込みください。

\*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限：毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金：国公立教育機関、国公立研究機関 20,000円（+税）

賛助会員（企業） 30,000円（ 〆 ）

賛助会員以外の企業 50,000円（ 〆 ）

申込先：情報処理学会 会誌部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534

### ●大阪工業大学工学部機械工学科

募集人員 教授 1名

専門分野 制御システム（ロボティクス、メカトロニクス等）

応募資格 50歳くらいで、博士の学位を有する方

着任時期 平成12年4月1日

提出書類 履歴書（本学所定用紙）、業績書（本学所定様式）、著書・論文（主要なもの3点以内、コピー可）、レポート（「教育を充実させるために実践してきた具体的事項」「就任後の教育に対する抱負」いずれかのテーマを選択し、1000字程度、様式任意）、健康診断書（国公立病院、保健所等が発行したもの）

応募締切 平成11年7月10日（必着）

送付先/照会先 〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5-16-1 大阪工業大学 庶務課 Tel(06)6954-4097（ダイヤルイン）

Fax(06)6953-9496 <http://www.oit.ac.jp> \*提出書類等には所定用紙が必要ですので、必ずご連絡ください

### ●九州工業大学情報工学部知能情報工学科

募集人員 教授 1名

所属 応用知能工学講座

専門分野 人工知能の応用分野（自然言語意味処理、意味辞書、シソーラス構築/処理、知識・概念処理、対話インタフェース、知的CAI、知的ネットワーク等）

担当科目 情報科学の基礎、人工知能の基礎、応用システムの設計に関する学部講義、および知的情報システム、自然言語処理等に関する大学院講義

応募資格 博士の学位を有し、上記専門分野に関し、博士後期課程を指導できる方

着任時期 平成11年10月1日以降のなるべく早い時期

提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷、教育・研究に対する抱負（800字程度）

応募締切 平成11年7月15日（締切延長）

送付先/照会先 〒820-8502 福岡県飯塚市大字川津680-4 九州工業大学情報工学部知能情報工学科 学科長 馬被健次郎

Tel(0948)29-7611 Fax(0948)29-7601

### ●電気通信大学大学院情報システム学研究科

募集人員 助手 1名

所属 情報ネットワーク学専攻並列処理学講座

専門分野 並列/分散処理に関する科学技術

応募資格 博士の学位を有する（着任前に博士の学位を取得見込みを含む）方

着任時期 平成11年10月1日（予定）

提出書類 履歴書、業績リスト、主要学術論文別刷（5編以内、コピー可）、これまでの研究の概要と今後の教育研究計画、推薦書または応募者について意見を伺える方の氏名と連絡先

応募締切 平成11年7月15日（必着）

送付先/照会先 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学大学院情報システム学研究科情報ネットワーク学専攻

並列処理学講座 弓場敏嗣 E-mail:yuba@is.uec.ac.jp Tel(0424)43-5640 <http://www.yuba.is.uec.ac.jp>

「応募書類」と朱書き書留

その他 選考方法：書類審査と面接。着任後研究業績をあげ、5年をめどに他のポストを得られるよう期待します

## ●茨城大学工学部情報工学科

募集人員 教授または助教授 1名  
所 属 情報科学講座  
専門分野 ソフトウェア, 情報科学関連分野  
応募資格 情報工学または関連分野における博士号を有する方  
着任時期 平成12年4月1日  
提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 学術論文別刷, 教育に対する抱負, 研究計画, 本人についての所見を求め得る方2名の氏名, 所属とその住所・職名・電話番号  
応募締切 平成11年7月20日  
送付先/照会先 〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1 茨城大学工学部情報工学科 学科長 下条 誠  
E-mail:shimojo@cis.ibaraki.ac.jp Tel(0294)38-5256

## ●東京都立大学大学院工学研究科電気工学専攻

募集人員 助教授または講師 1名  
専門分野 計算機アーキテクチャ, プロセッサの設計・テスト, フォールトトレラントシステム, ネットワークシステムの設計・テスト等  
応募資格 博士を取得している方, 着任時に40歳未満であることが望ましい  
着任時期 平成12年1月1日以降のなるべく早い時期  
提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷(5編以内, コピー可), 今後の教育研究に対する抱負(1000字程度), 推薦書または本人の所見を尋ねられる方1名の氏名と連絡先 \*E-mail(テキストファイル)での提出も受け付ける  
応募締切 平成11年7月31日  
送付先/照会先 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-2 東京都立大学大学院工学研究科 電気工学専攻 岩崎一彦  
E-mail:iwasaki@eei.metro-u.ac.jp Tel(0426)77-2761 Fax(0426)77-2756

## ●三重大学工学部電気電子工学科

募集人員 助教授または講師 1名  
専門分野 無線通信, 移動体通信, 衛星通信, 宇宙・航行電子システム, アンテナ・伝搬, 通信ネットワーク等の分野で研究経験あるいは専門知識を有する方  
応募資格 博士の学位を有し, 40歳未満の方  
着任時期 平成11年12月以降のできるだけ早い時期  
提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷(コピー可), 着任後の教育研究についての抱負(1000字程度), 推薦書(自薦の場合は問合せ可能な方の氏名と連絡先を明記)  
応募締切 平成11年8月6日(必着)  
送付先/照会先 〒514-8507 三重県津市上浜町1515 三重大学工学部電気電子工学科 学科長 平松和政  
E-mail:hiramatu@elec.mie-u.ac.jp Tel/Fax(059)231-9694

## ●新潟国際情報大学情報文化学部情報システム学科

募集人員 教授, 助教授または講師 1名  
専門分野/担当科目 行動科学, オペレーションズリサーチなどの科目およびコンピュータを使用した演習を担当できる方  
応募資格 上記の専門分野に研究業績があり, 情報システム, 情報処理に経験または関心を持つ方, 採用後は, 新潟市周辺に居住できる方  
着任時期 平成12年4月1日  
提出書類 履歴書, 研究業績, 主要著書または論文別刷(5点), 情報処理関連の教育研究歴または職務歴, その他社会的活動など選考の参考になるとと思われる資料  
応募締切 平成11年8月15日  
送付先/照会先 〒950-2292 新潟県新潟市みずき野3-1-1 新潟国際情報大学情報文化学部 学部長 石川真澄  
Tel(025)239-3111 Fax(025)239-3690 「応募書類在中」と朱書き書留  
その他 本学科では, 『情報システムは, 情報の利用を望んでいる人々にとって, 手に入れやすく, 役に立つ形で, 社会または組織体の活動を支える適切な情報を集め, 加工し, 伝達するシステムである。それは単にコンピュータを中心とした技術的なシステムを指すものではなく, 人間活動を含む社会的なシステムである。』との認識に立って, 情報システムの設計・開発・活用に関する研究・教育を行っている。この趣旨に共感する方の応募を期待する

## ●東京工芸大学工学部光工学科

募集人員 (A), (B) とも教授, 助教授または講師 1名  
専門分野 (A) 映像情報処理, コンピュータ・グラフィックス, バーチャル・リアリティを含む計算機情報処理を専門とし, コンピュータ・プログラミング等の講義の可能な方  
(B) 光通信方式, 光通信用デバイス, 光演算, 光インターコネクション等を含む光情報処理を専門とし, 光情報伝送を含む光エレクトロニクス等の講義が可能な方  
応募資格 博士, 教育にも情熱を持つ27~55歳くらいの方  
着任時期 平成12年4月1日  
提出書類 希望分野と希望職位(複数可)明記, 履歴書, 研究業績(査読付論文, 著書, 国際会議等分類記載, 論文等は全著者, 頁範囲明記), 別刷(3~5編), 研究業績の概要, 着任後の研究計画, 教育に対する抱負(各A4判1頁), 照会可能な方2名の氏名と連絡先  
応募締切 平成11年8月21日(必着)  
送付先/照会先 〒243-0297 神奈川県厚木市飯山1583 東京工芸大学工学部光工学科 伊藤進一  
E-mail:s\_itoh@photo.t-kougei.ac.jp Tel(0462)42-9511(直通)  
「教員応募(A)」, または「教員応募(B)」と朱書し書留 \*書類は原則として返却いたしません

## ●日本大学生産工学部数理工学科

募集人員 教授 1名  
専門分野 情報工学  
応募資格 熱意を持って教育にあたることのできる方で, 博士の学位を有し, 博士後期課程の指導ができる方  
着任時期 平成11年度9月以降のなるべく早い時期  
提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷または著書(コピー可), 今後の研究構想(2000字程度), 着任後の教育に関する抱負(2000字程度), 推薦書(本人に所見を求め得る方の氏名と連絡先; 後日でも可)  
応募締切 平成11年8月21日  
送付先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部数理工学科 学科主任 柴田耕一  
「数理工学科教授応募書類在中」と朱書し書留  
照会先 数理工学科事務室 E-mail:suuri@ccu.cit.nihon-u.ac.jp Tel(047)474-2650/2651 Fax(047)474-2669

## ●茨城工業高等専門学校電子情報工学科

募集人員 助手 1名  
専門分野 電子工学  
応募資格 年齢28歳(着任時)以下で, 博士の学位を有する(取得見込みを含む)方  
着任時期 平成12年4月1日  
提出書類 履歴書, 研究業績一覧表(研究論文・著書・研究発表等), 主要論文別刷, 着任後の教育, 研究に対する抱負, 学位のない場合推薦書  
応募締切 平成11年8月31日(必着)  
送付先 〒312-8508 茨城県ひたちなか市中根866 茨城工業高等専門学校 庶務課人事係  
「電子情報教官応募書類」と朱書し書留  
照会先 電子情報工学科 主任 野村 實 Tel(029)271-2961 Fax(029)273-3771  
その他 女性の応募もお待ちしております

## ●埼玉大学工学部情報システム工学科，大学院理工学研究科

募集人員 (1) 教授 1名，助教授 1名，(2) 助教授 1名  
所属 (1) 情報システム工学科，(2) 大学院理工学研究科先端システム工学講座  
\*いずれに所属しても基本的に大きな差異はありませんが，大学院所属の場合は，留学生担当の仕事が加わります  
専門分野 計算理論，アルゴリズム論，データベース，ソフトウェアシステム，コンピュータアーキテクチャ  
\*情報システム工学分野に顕著な功績のある方，および顕著な寄与が期待できる方については，特に分野を指定いたしません  
応募資格 博士の学位を有し，大学院博士後期課程の研究を指導できる，教育に熱意のある方  
着任時期 平成12年4月1日  
提出書類 履歴書，業績リスト（別紙書式），主要論文別刷（業績リストと対応させること），主要研究業績概要（業績リストと対応させること），今後の教育・研究計画，推薦書2通，本人について問合せできる方2名の氏名と連絡先  
\*提出書類は返却いたしませんのでご了承願います  
応募締切 平成11年8月31日  
送付先/照会先 〒338-8570 埼玉県浦和市下大久保255 埼玉大学工学部情報システム工学科 学科長 前川 仁  
E-mail:maekawa@cda.ics.saitama-u.ac.jp Tel(048)858-3491 Fax(048)858-3716  
http://www.edu.ics.saitama-u.ac.jp/boshu/ 「教官応募書類」と朱書き書留  
その他 選考方法：書類選考の後，必要に応じて面接を行います

## ●福井大学工学部知能システム工学科

募集人員 教授または助教授 3名  
所属 研究分野や経歴などによって，知能処理または支援システム講座に所属していただきます  
専門分野 ロボティクス，知能センシング，認知科学，創発システム，システム制御，人工知能，知的システム，適応学習システム，進化システム，マルチエージェント，など知能システムに関連する分野  
応募資格 博士号の学位を有し，国籍は特に問わないが日本人学部学生の教育に意欲があり，大学院博士前期・後期課程を担当できる方  
着任時期 可能な限り早い時期  
提出書類 履歴書，研究業績，研究論文別刷（コピー可），主要論文（12編，助教授を希望する場合は8編）の要旨（各200字程度，貢献度を付記すること），過去の研究内容および教育内容（なければ大学教育についての意見等），今後の教育・研究に対する抱負（2000字以内），参考となる意見を伺える方2名の氏名と連絡先，可能ならば推薦書  
応募締切 平成11年8月31日（必着）  
送付先/照会先 〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1 福井大学工学部知能システム工学科 学科長 村瀬一之  
E-mail:murase@synapse.fuis.fukui-u.ac.jp Tel(0776)27-8774 Fax(0776)27-8751  
その他 本学部では平成11年4月に知能システム工学科が新設され，すでに学生65名（定員）が入学しています。学科は知能基礎，知能処理，支援システムの3大講座からなり，知能システムの基礎と応用についての教育研究を行います。新学科にふさわしい清新でバイタリティーのある方々の応募を期待します

## ●群馬工業高等専門学校電気工学科/電子情報工学科

募集人員 (1) 電気工学科：助教授または講師 1名，(2) 電子情報工学科：教授または助教授 1名  
専門分野 (1) エレクトロニクスまたはその関連分野，(2) 電子工学または情報工学  
担当科目 (1) 電気磁気学，電気・電子回路，電子工学，通信工学のいずれか  
応募資格 下記のいずれにも該当する方，1) 博士の学位を有し，専攻科（学士コース）の研究指導のできる方，2) 上記の専門分野の方，3) 教育・学生指導に熱意があり，研究と両立できる方，(2) においては採用時に53歳以下の方  
着任時期 平成12年4月1日（予定）  
提出書類 自筆履歴書，研究業績一覧表（著書，研究論文，国際会議・国内会議等に分けて記載），主要論文別刷（5点以内，コピー可）および論文概要（300字以内），着任後の教育・研究に対する抱負（A4判1枚程度），推薦書があれば望ましい（または本人の所見を得る方（複数）の氏名，連絡先（勤務先および自宅の電話番号等）  
応募締切 (1) 平成11年10月1日（必着），(2) 平成11年10月15日（必着）  
送付先 〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町580 群馬工業高等専門学校庶務課 人事係 E-mail:jinjji@jim.gunma-ct.ac.jp  
Tel(027)254-9010 Fax(027)254-9022 http://www.gunma-ct.ac.jp/  
「電気工学科教官応募書類」または「電子情報工学科教官応募書類」と朱書き書留  
照会先 庶務課人事係または  
(1) 電気工学科 教授 青木利澄 E-mail:aoki@elc.gunma-ct.ac.jp Tel(027)254-9280  
(2) 電子情報工学科 教授 保坂靖夫 E-mail:yhosaka@ice.gunma-ct.ac.jp Tel(027)254-9238  
その他 選考方法：書類選考と面接。本校は，5年制の学科および2年制の専攻科（学士コース）を有する国立の高等専門学校です。採用者の官職は，文部教官となります

## 有 料 会 告 に つ い て

本会の共催行事および協賛・講演記事の次第書（論文募集，参加案内など）の会告欄掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。なお，会議案内欄への掲載については従来どおり無料です。

### 記

| 件 名               | 内 容                                          | 掲載単位                  | 掲載料金（消費税別）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
|-------------------|----------------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------|----|------|------|---------|------------|--------|---------|------|------|----------|-------------|--------|---------|--|--|---------|
| 論文募集<br>参加者募集     | 国際会議，シンポジウム，ワークショップ，講演会，講習会などの論文募集・参加者募集に限る。 | 1ページ<br>または<br>1/2ページ | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">（主催）</td> <td style="width: 50%;">1ページまで</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">無料</td> </tr> <tr> <td>（共催）</td> <td>1ページ</td> <td style="text-align: right;">50,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1/2ページ</td> <td style="text-align: right;">30,000円</td> </tr> <tr> <td>（協賛）</td> <td>1ページ</td> <td style="text-align: right;">100,000円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1/2ページ</td> <td style="text-align: right;">50,000円</td> </tr> </table> | （主催）              | 1ページまで | 無料 | （共催） | 1ページ | 50,000円 |            | 1/2ページ | 30,000円 | （協賛） | 1ページ | 100,000円 |             | 1/2ページ | 50,000円 |  |  |         |
| （主催）              | 1ページまで                                       | 無料                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
| （共催）              | 1ページ                                         | 50,000円               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
|                   | 1/2ページ                                       | 30,000円               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
| （協賛）              | 1ページ                                         | 100,000円              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
|                   | 1/2ページ                                       | 50,000円               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
| 人材募集              | 国公立教育機関，国公立研究機関，企業の人材募集                      | 10行程度                 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3">〔国公立教育機関，国公立研究機関〕</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">20,000円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">〔賛助会員（企業）〕</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">30,000円</td> </tr> <tr> <td colspan="3">〔賛助会員以外の企業〕</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">50,000円</td> </tr> </table>                                                                                                    | 〔国公立教育機関，国公立研究機関〕 |        |    |      |      | 20,000円 | 〔賛助会員（企業）〕 |        |         |      |      | 30,000円  | 〔賛助会員以外の企業〕 |        |         |  |  | 50,000円 |
| 〔国公立教育機関，国公立研究機関〕 |                                              |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
|                   |                                              | 20,000円               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
| 〔賛助会員（企業）〕        |                                              |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
|                   |                                              | 30,000円               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
| 〔賛助会員以外の企業〕       |                                              |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |
|                   |                                              | 50,000円               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                   |        |    |      |      |         |            |        |         |      |      |          |             |        |         |  |  |         |

#### 1. 掲載条件

#### 2. 申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

#### 3. 原稿の書き方

●行事次第書：原則としてA4判カメラレディとします。

（1ページ）天地250mm × 左右160mm   （1/2ページ）天地120mm × 左右160mm

\* A4判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。なお，原稿作成にあたり様式（字の大きさ，ゴシックなど）については，本会会告記載内容をご参照願います。

また，フロッピーディスクまたはE-mailでも受け付けますので，ご相談ください。

●人材募集：次の項目を明記し，E-mailまたはFax，郵送にてお送りください。

\* なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

〔募集職種，募集人員，（所属），専門分野，（担当科目），応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先〕

#### 4. 申込期限

毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

#### 5. 掲載料金

掲載号発行後に料金を請求いたしますので，その翌月末までにお支払いください。

#### 6. 掲載申込先

（社）情報処理学会 会誌担当（有料会告係）

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F    E-mail:editj@ipsj.or.jp    Fax(03)5484-3534



西暦2000年問題を正しく理解し、対応するために  
「西暦2000年問題の現状と対策-技術と法律-」  
を刊行します。

技術と法律の両面から、専門家が解説します。

ご注文は添付の注文書または情報処理学会ホームページ  
(<http://www.ipsj.or.jp>)



■本書の内容■

1. 我が国における西暦2000年問題対応の現状  
—我が国におけるこれまでの経緯と対策の状況  
河野 隆一
2. 西暦2000年問題の技術的課題  
—技術面から対策のノウハウ, 組織的取組みを紹介  
藤田 好也
3. 西暦2000年問題の法的課題  
—法律面から解釈, 訴訟の状況, 対策を解説  
大谷 和子
4. 西暦2000年問題がもたらすソフトウェア保守  
技術の進展  
—2000年問題対応の分析方法とツールを解説  
上原 三八
5. 西暦2000年問題の理解を深めるために  
—2000年問題の情報リソースと最新動向  
尾股 達也, 青山 幹雄

A5判80頁 定価：500円（税込，送料実費）  
\*20部まとめ買い：450円/冊，100部 400円/冊（税込，送料実費）

5月20日発行

情報処理学会図書担当宛 (Fax：03-5484-3534)

「西暦2000年問題の現状と対策—技術と法律—」注文書

書籍コード：Z99-2

希望冊数： \_\_\_\_\_ 冊 単価： \_\_\_\_\_ 円 金額： \_\_\_\_\_ 円 請求書宛名： \_\_\_\_\_

送付先：〒

氏名：

Tel：

Fax：

E-mail：

連絡者：

Tel：

Fax：

E-mail：

# 平成11年度 情報処理学会 事務局組織

E-mailドメイン名：.本部@ipsj.or.jp .規格部@itscj.ipsj.or.jp

平成11年6月1日

| 部・担当<br>E-mail              | 職 位   | 氏 名                                                                  | E-mail                                                                             | 業 務 内 容                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                             | 事務局長  | 柳川 隆之                                                                | yanagawa                                                                           | 事務局総括, 研究部門マネージャ兼務                                                                                                                                                                                                                   |
| 管理部門                        | マネージャ | 土川 佳男                                                                | tsuchi                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                      |
| 総務<br>somu                  |       | 中田志麻子                                                                | nakada                                                                             | 総会, 理事会, 理事連絡会, 支部, 役員選挙, 広報<br>名誉会員, 功績賞, 坂井記念特別賞, 文部省・学会会議など<br>事業報告・計画, 決算・予算, 総務・人事, 庶務・給与・福利厚生<br>契約, 登記, 特許申請                                                                                                                  |
| 会 員<br>mem                  |       | 戸田 陽子<br>老川ひろ子<br>高田 聡恵                                              | toda<br>oikawa<br>takata                                                           | 個人会員, 賛助会員, 購読員, 機関誌配布, 支部会員資料,<br>会員増強委員会, 会員サービス                                                                                                                                                                                   |
| 経 理<br>keiri                |       | 細田 直子<br>五味奈津子                                                       | hosoda<br>gomi                                                                     | 予算・決算, 収支, 出納                                                                                                                                                                                                                        |
| 図 書<br>toshu                |       | 石丸 満枝                                                                | ishimaru                                                                           | 図書販売, 庶務, NGI特別委員会                                                                                                                                                                                                                   |
| 会誌部門                        | マネージャ | 後路 啓子                                                                | ushiro                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                      |
| 会 誌<br>editj                |       | 湯本 祐子<br>鈴木 啓子                                                       | yumoto<br>suzuki                                                                   | 会誌編集委員会, Best Author賞, 広告                                                                                                                                                                                                            |
| 研究部門                        | マネージャ | (柳川 隆之)                                                              | (yanagawa)                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                      |
| 論文誌<br>editi                |       | 岩瀬 良夫<br>島貫 英樹                                                       | iwase<br>simanuki                                                                  | 論文誌編集委員会, 論文賞, 出版委員会, 英文図書委員会, 著作権                                                                                                                                                                                                   |
| 調査研究<br>sig                 |       | 伊藤 早苗<br>萩原 恵子<br>内海 摂子<br>渡辺美也子                                     | ito<br>hagiwara<br>utsumi<br>watanabe                                              | 調査研究運営委員会, 領域委員会・山下記念研究賞, 調査委員会<br>研究会, 研究グループ, シンポジウム, ワークショップ, 小規模国際会議<br>情報処理教育委員会, 委嘱調査研究, 受託研究<br>JST, 学術情報センター                                                                                                                 |
| 事業サービス部門                    | マネージャ | 西形 伸次                                                                | nisikata                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                      |
| 事 業<br>jigyo<br>国 際<br>intl |       | 松本 浩二<br>鮎川 修                                                        | matumoto<br>ayukawa                                                                | 全国大会, 奨励賞, プログラミング・シンポジウム<br>連続セミナー, 講習会, 講演会, 連合大会, 協賛, 後援<br>国際業務委員会, 国際会議, IFIP他                                                                                                                                                  |
| システム企画<br>ipsjadm           |       | 弘法堂京子                                                                | kobodo                                                                             | システム企画・開発・管理, 電子化専門委員会                                                                                                                                                                                                               |
| 規格部門                        | マネージャ | 三田 真弓                                                                | mita                                                                               | (情報規格調査会事務局責任者)                                                                                                                                                                                                                      |
| 規 格<br>Standards            |       | 宮崎 順介<br>加藤 良子<br>廣瀬なるみ<br>木村 敏子<br>松下 宏子<br>東福寺朋美<br>花石 律子<br>武田 紀子 | miyazaki<br>kato<br>hirose<br>kimura<br>matusita<br>haruhana<br>hanaishi<br>takeda | 情報規格調査会(国際及び国内の情報技術標準化)業務<br>規格総会, 規格役員会, 運営委員会, 表彰委員会, 広報委員会,<br>技術委員会, 技術委員会/幹事会, 専門委員会, 小委員会<br>情報技術標準化フォーラム, Newsletterの発行, 国際会議関係業務<br>国際Secretariat (ISO/IEC JTC 1/SC 2, SC 23, SC 29, SC 6/WG 1, SC 7/WG 6)<br>標準化功績賞, 標準化貢献賞 |

(住所など)

本 部：〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 <http://www.ipsj.or.jp>

振込口座：第一勧業銀行 虎ノ門支店 普通 1013945

東京三菱銀行 虎ノ門公務部 普通 0000608

郵便振替：00150-4-83484

名 義 人：社団法人 情報処理学会

規格部：〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館308-3号 Tel(03)3431-2808 Fax(03)3431-6493

<http://www.itscj.ipsj.or.jp>

申込日: 年 月 日

|                                        |                                                                                                                                                                               |                            |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| ● 会員番号                                 |                                                                                                                                                                               |                            |
| ● 会員種別                                 | <input type="checkbox"/> 正会員                                                                                                                                                  |                            |
|                                        | <input type="checkbox"/> 学生会員                                                                                                                                                 | 卒業予定年月: 年 月                |
| ● 氏名(漢字)                               |                                                                                                                                                                               |                            |
| ● 氏名(カナ)                               |                                                                                                                                                                               |                            |
| ● 氏名(0-7字)                             |                                                                                                                                                                               |                            |
| 性別                                     | <input type="checkbox"/> 男                                                                                                                                                    | <input type="checkbox"/> 女 |
| 生年月日                                   | 年 月 日                                                                                                                                                                         |                            |
| 機関誌発送先                                 | <input type="checkbox"/> 自宅<br><input type="checkbox"/> 勤務先(個人)<br><input type="checkbox"/> 勤務先(一括) グループコード:                                                                  |                            |
| ○ 自<br>○ 宅                             | 住所                                                                                                                                                                            | 〒                          |
|                                        | Tel                                                                                                                                                                           |                            |
|                                        | Fax                                                                                                                                                                           |                            |
|                                        | E-mail                                                                                                                                                                        |                            |
| ○ 勤<br>○ 務<br>○ 先<br>○ 在<br>○ 学<br>○ 校 | 住所                                                                                                                                                                            | 〒                          |
|                                        | Tel                                                                                                                                                                           | (内線 )                      |
|                                        | Fax                                                                                                                                                                           |                            |
|                                        | E-mail                                                                                                                                                                        |                            |
|                                        | 名称                                                                                                                                                                            |                            |
|                                        | 事業所名                                                                                                                                                                          |                            |
|                                        | 所属                                                                                                                                                                            |                            |
|                                        | 職種・役職                                                                                                                                                                         |                            |
| 事務局からの案内                               | <input type="checkbox"/> 可                                                                                                                                                    | <input type="checkbox"/> 否 |
| 関連学協会の案内                               | <input type="checkbox"/> 可                                                                                                                                                    | <input type="checkbox"/> 否 |
| ○ 卒業学校名                                |                                                                                                                                                                               | 卒業年月 年 月                   |
| 論文誌(有料)<br>(6,930円)                    | A. 購読希望 年 月号より<br>送金方法 年 月 日<br><input type="checkbox"/> 現金持参・現金書留 <input type="checkbox"/> 郵便振替 <input type="checkbox"/> 銀行 銀行振込<br>B. 購読中止 年 月号より<br>*過分購読費は会費に振替させていただきます。 |                            |
| 退会希望                                   | 年 月より                                                                                                                                                                         |                            |
| 退会理由                                   | *会費および購読費未納の方には、後日退会精算請求をいたします。                                                                                                                                               |                            |
| 連絡事項                                   |                                                                                                                                                                               |                            |

|                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ 専門分野コード表                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 凡例は5つまで、名簿掲載可能(1つ)を○で囲んでください。        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 大項目                                  | 中項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <input type="checkbox"/> 01基礎理論と基礎技術 | <input type="checkbox"/> 01情報数学<br><input type="checkbox"/> 02非線形力学<br><input type="checkbox"/> 03アルゴリズム理論<br><input type="checkbox"/> 04オペレーションズリサーチ<br><input type="checkbox"/> 05確率・統計<br><input type="checkbox"/> 06数値計算<br><input type="checkbox"/> 07数値シミュレーション<br><input type="checkbox"/> 08高性能計算 |
| <input type="checkbox"/> 02人工知能と認知科学 | <input type="checkbox"/> 01知識処理<br><input type="checkbox"/> 02人工知能システム<br><input type="checkbox"/> 03自然言語処理<br><input type="checkbox"/> 04生体情報処理<br><input type="checkbox"/> 05感性情報処理                                                                                                                     |
| <input type="checkbox"/> 03メディア情報処理  | <input type="checkbox"/> 01音声言語情報処理<br><input type="checkbox"/> 02画像信号処理<br><input type="checkbox"/> 03画像・図形認識<br><input type="checkbox"/> 04コンピュータグラフィクス<br><input type="checkbox"/> 05テキスト処理<br><input type="checkbox"/> 06メディア処理装置<br><input type="checkbox"/> 07マルチメディア処理                             |
| <input type="checkbox"/> 04ソフトウェア    | <input type="checkbox"/> 01基礎理論<br><input type="checkbox"/> 02プログラミング言語と仕様記述<br><input type="checkbox"/> 03言語処理系<br><input type="checkbox"/> 04ツール<br><input type="checkbox"/> 05ウィンドウシステム<br><input type="checkbox"/> 06オペレーティングシステム<br><input type="checkbox"/> 07プログラミング技術                             |
| <input type="checkbox"/> 05データベース    | <input type="checkbox"/> 01データベース<br><input type="checkbox"/> 02情報学基礎                                                                                                                                                                                                                                     |
| <input type="checkbox"/> 06ソフトウェア工学  | <input type="checkbox"/> 01開発技術<br><input type="checkbox"/> 02テスト・保守・管理<br><input type="checkbox"/> 03ソフトウェアプロセス<br><input type="checkbox"/> 04開発環境<br><input type="checkbox"/> 05ヒューマンファクタ<br><input type="checkbox"/> 06ソフトウェア品質                                                                        |
| <input type="checkbox"/> 07ハードウェア    | <input type="checkbox"/> 01基礎理論<br><input type="checkbox"/> 02論理回路<br><input type="checkbox"/> 03デバイス<br><input type="checkbox"/> 04計算機アーキテクチャ<br><input type="checkbox"/> 05メモリ/I/Oアーキテクチャ<br><input type="checkbox"/> 06設計技術と設計自動化                                                                      |
| <input type="checkbox"/> 08並列処理      | <input type="checkbox"/> 01並列処理アーキテクチャ<br><input type="checkbox"/> 02並列処理ハードウェア<br><input type="checkbox"/> 03並列処理ソフトウェア<br><input type="checkbox"/> 04並列処理応用                                                                                                                                             |
| <input type="checkbox"/> 09ネットワーク    | <input type="checkbox"/> 01通信技術<br><input type="checkbox"/> 02ネットワーク管理<br><input type="checkbox"/> 03コンピュータネットワーク                                                                                                                                                                                         |
| <input type="checkbox"/> 10システム      | <input type="checkbox"/> 01システム技術<br><input type="checkbox"/> 02グループウェア<br><input type="checkbox"/> 03インタフェース<br><input type="checkbox"/> 04対話型システム<br><input type="checkbox"/> 05オンラインリアルタイムシステム<br><input type="checkbox"/> 06制御システム<br><input type="checkbox"/> 07システム評価                               |
| <input type="checkbox"/> 11信頼性と安全性   | <input type="checkbox"/> 01信頼性<br><input type="checkbox"/> 02機密保護                                                                                                                                                                                                                                         |
| <input type="checkbox"/> 12教育        | <input type="checkbox"/> 01教育                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <input type="checkbox"/> 13応用        | <input type="checkbox"/> 01企業等への応用<br><input type="checkbox"/> 02工学等への応用<br><input type="checkbox"/> 03音楽への応用<br><input type="checkbox"/> 04人文科学への応用<br><input type="checkbox"/> 05障害者補助<br><input type="checkbox"/> 06その他への応用                                                                            |
| <input type="checkbox"/> 14その他       | <input type="checkbox"/> 01社会<br><input type="checkbox"/> 02その他                                                                                                                                                                                                                                           |

[記入要領]

1. 欄は該当するものにチェックしてください。
2. 英数字ははっきりわかりやすく記入してください。  
難解なものには(フリガナ)等を付けてください。  
例. 英文字のO(オー)と数字の0(ぜい), 英文字のI(アイ)と数字の1(イチ)
3. ○は名簿掲載選択項目ですので、掲載不可の場合は、○の上に×を記入してください。  
●は名簿掲載必須項目です。
4. 性別, 生年月日, 卒業学校名・卒業年月については、必須データではありませんが、なるべくご記入ください。

[注意事項]

1. 自宅住所でマンション・アパート名等を省略できる場合には、省略形でご記入ください。
2. 勤務先, 在学学校名は正式名称でご記入いただき、所属の略称等がございましたら併記願います。
3. 学生会員の方で、在学期間等を延長された方々は、卒業(予定)年月を必ずご記入願います。
4. 一括扱い会員の方は、必ずグループコードをご記入ください。また、通信区分を自宅または勤務先(個人)へ変更の場合には個人扱いに切り替わりますのでご留意ください。
5. 機関誌発送先を海外へ変更する場合には、発送は船便となります。航空便をご希望の場合には実費負担となります。



[変更連絡/退会/各種問合せ方法]

各種連絡/問合せには、なるべくE-mail, Fax, 郵便をご利用ください。

- (1) 住所等会員データに変更が生じた場合には、速やかに「変更連絡届」(会誌付録会告, ホームページ各種申込書)にて変更内容を会員担当に毎月20日頃までにご連絡ください。
- (2) 退会を希望する場合は、「退会届」(会員番号・氏名・退会年月・退会理由)を必ず会員担当に提出してください。
- (3) その他の各種問合せについては、該当する担当までご連絡ください。

[論文誌のご購読について]

「情報処理学会論文誌」(月刊)は有料頒布です。まだ購読されていない方はぜひ裏面に購読希望月をご記入いただき、別途購読費6,930円(購読費6,600円+消費税330円)をご送金ください。購読費入金確認後発送となります。

[連絡先電子メールの登録について]

事務局では、会員の皆様へのお問い合わせにE-mailを使用しており、大変好評をいただいております。会員登録データへの連絡先電子メールの登録にご協力をお願いいたします。

[会費等の支払方法]

会費の納入には手続きが簡単便利な「口座自動振替制度」をぜひご利用ください。個人会員(一括扱いを除く)の方で銀行または郵便局の口座をご登録いただければ、会費および論文誌購読費を毎年3月にご指定の口座から自動振替により納入できます。

[会員資格]

会員資格は、毎年度(4月~翌年3月)自動継続となります。  
退会, 死亡, 除名\*1等によりその資格を喪失します。

\*1.会費の滞納が1ヶ年以上におよぶ時は、その直後の総会の議決を経て除名することがあります。

[各種掲載月]

- 本誌掲載：賛助会員名簿：4月, 10月  
           入会申込用紙：4月, 10月  
 別冊掲載：入会申込用紙：奇数月  
           変更連絡用紙：偶数月  
           「入会のおすすめ」：3月, 9月  
           預金口座振替依頼書(銀行・金庫)：3月, 9月  
           海外からの送金方法(用紙)：6月

[事務局への送金]

|                           |                                    |
|---------------------------|------------------------------------|
| 郵便振替 00150-4-83484        | 名義人 社団法人 情報処理学会                    |
| 第一勧業銀行 虎ノ門支店 (普) 1013945  | *銀行送金の際には別途送金詳細(金融機関名, 送金日, 送金内訳等) |
| 東京三菱銀行 虎ノ門公務部 (普) 0000608 | を各担当係宛にご連絡ください。                    |

◆各種問合せ先 (社) 情報処理学会  
 〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F  
 Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 <http://www.ipsj.or.jp/>

| 担当               | E-mail                     | 項目                                                                                                                                                           |
|------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 総務               | somu@ipsj.or.jp            | 理事会, 支部, 役員選挙, 名誉会員                                                                                                                                          |
| 会員               | mem@ipsj.or.jp             | 入会, 会費, 変更連絡, 退会, 在会証明                                                                                                                                       |
| 経理               | keiri@ipsj.or.jp           | 出納                                                                                                                                                           |
| システム企画           | ipsjadm@ipsj.or.jp         | システム企画, 電子化専門委員会                                                                                                                                             |
| 調査研究             | sig@ipsj.or.jp             | 研究会登録, 研究発表会, シンポジウム                                                                                                                                         |
| 事業               | jigyo@ipsj.or.jp           | 全国大会, 連続セミナー, プログラミング・シンポジウム                                                                                                                                 |
| 国際               | intl@ipsj.or.jp            | 国際会議, IFIP委員会                                                                                                                                                |
| 図書               | tosho@ipsj.or.jp           | 出版物購入                                                                                                                                                        |
| 会誌               | editj@ipsj.or.jp           | 会誌「情報処理」の掲載内容, 広告掲載                                                                                                                                          |
| 論文誌              | editt@ipsj.or.jp           | 情報処理学会論文誌, 出版, 転載許可                                                                                                                                          |
| 規格部<br>(情報規格調査会) | standards@itscj.ipsj.or.jp | 標準化フォーラム<br>〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館308-3<br>Tel(03)3431-2808 Fax(03)3431-6493 <a href="http://www.itscj.ipsj.or.jp/">http://www.itscj.ipsj.or.jp/</a> |